2021 年度

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）

研究開発実施報告書

（第 3 年次）

令和 4 年 3 月

静岡県立榛原高等学校

「巻頭言」

静岡県立榛原高等学校長　鈴木安雄

榛原高校は、静岡県中部地区にある牧之原市に所在し、東には富士山が遠景にあり、南には駿河湾を望み、北・西には茶園が広がるという、静岡県の良き原風景のイメージどおりのような環境に位置しています。本年度に創立 122 年目を迎えた伝統校で、全日制と定時制の課程があり、全日制には普通科４クラスと理数科１クラスを併設しています。

文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）」の事業を令和元年度から３か年間実施して参りました。当事業を受けることになった背景には、それ以前から行われていた地域との連携・協働がありました。榛原高校では、地域に根差しながら、伝統ある進学校というだけにとどまらないような特色化を模索していました。牧之原市は、鉄道沿線から離れた沿岸部に位置することもあり、人口減少に危機感があり、特に若い世代の地域人材の還流が大きな課題。また、全国的にも名の通った優良企業が多くあり、地域の工業生産額も高いにも関わらず、若年層の認知が低く、社の地域貢献活動と地域人材獲得に向けて動いてきました。そのような課題やニーズを持つ三者が連携・協働するような形が、榛原高校の教育活動において実現し始めていました。そのような活動が、この３年間の事業により更に充実・発展したと言えましょう。

さて、今年度は、新たな体制で事業内容の再整理をしてスタートし、感染症の拡大状況に応じながら、事業計画を柔軟に変更、縮小、延期して実施してきました。今年度のカリキュラム開発の中心は、学校設定科目として開設した「地域創造探究Ⅰ」（総合的探究の時間を代替）の実施と改善、同「Ⅱ」「Ⅲ」「発展」の計画、評価方法の研究でした。Ⅰにおいては、昨年度までの実践をベースに、「導入」「仕込み」「探究」「発表」のフェーズを、地域等と連携しながらほぼ計画どおりに実施できました。評価の材料としては、毎時生徒が作成する「振り返りシート」を主として用い、３観点による評価から評定を出すという形で行ってみました。探究活動における課題設定での工夫、ICT 機器の活用、より妥当な評価方法の改善など、今後の課題も見えました。

課外活動（希望者対象）では、グローバル研究として計画していた海外研修を国内の研修地に変更し、南九州と北海道の２コースを実施しました。それぞれの地における地域創生を学ぶとともに、昨年度連携校となった高校の皆さんと共に研修・交流できたことは大きな収穫でした。外国語言語活動の促進では、イングリッシュキャンプを８月に実施でき、英検の上位級取得者も昨年度から更に増加しており、たいへん喜ばしく思っています。また、本年度７年目に入った「地域リーダー育成プロジェクト」は、２コースに分かれて実施し、それぞれのメニューで主体的・対話的に地域課題等を考えることができました。

文部科学省の事業は今年度で終わりますが、これまで育んできた地域等との連携をつなぎ、校内組織や探究活動のカリキュラムを改善しながら、グローカルスクールの先進者として、地域を、世界を変える人を育成していけるよう、榛原高校は更に探究を続けていきたいと思います。

文尾になりますが、当事業における運営指導委員会、コンソーシアム等において指導と助言を頂いた方々をはじめ、当校の取組に対して温かい励ましと力添えをいただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます。今後も榛原高校への御支援をよろしくお願いいたします。

目次

「巻頭言」 1
1　研究開発の概要 3
1-1 構想概要図(申請時) 6
1-2 2019 年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要（申請時） 7
1-3 年間活動計画（令和３年６月） 9
1-4 2021 年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業　目標設定シート 9
1-5 研究開発組織（申請時） 11
2　研究開発構想 12
2-1 研究の目的 12
2-2 人材還流 12
2-3 グローバル人材の育成 12
2-4 研究手法 13
2-5 新型コロナウイルスの感染拡大による事業内容の変更（2020 年・2021 年度） 14
3　研究内容 15
3-1 総合的な探究の時間（地域創造探究Ⅰ・Ⅱ／榛高タイム） 15
3-2 実社会プログラム 16
3-3 その他の活動 16
3-4 設定目標と成果 18
4　生徒の活動（主な活動） 19
4-1 総合的な探究の時間（地域創造探究Ⅰ・Ⅱ／榛高タイム） 19
4-2 実社会プログラム 21
4-3 地域リーダー育成プロジェクト 22
4-4 その他の活動 23
4-5 活動報告（生徒） 28
5　事例報告 40
5-1 １年生「地域創造探究Ⅰ」 40
5-2 ２年生「総合的な探究の時間」 46
5-3 グローカル事業報告会 55
6　研修報告 56
6-1 県外先進校視察について 56
6-2 研究発表会及び講演会等への参加について 56
7　成果と課題 57
7-1 事業評価（校内評価） 57
7-2 事業評価（カリキュラム開発アドバイザー） 61
8　運営会議等 61
8-1 第１回運営指導委員会・コンソーシアム会議 61
8-2 第２回運営指導委員会・コンソーシアム会議 62
8-3 グローカル事業（カリキュラム開発アドバイザー）協議報告 64
9　質問紙調査等結果（抜粋） 69

1　研究開発の概要

1　研究開発名

ＨＡＦプロジェクト　HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT

～地域と世界を結ぶ有為な人材育成の望ましい在り方ついての研究～

2　研究開発の概要

(1) 目的・目標

ア　住み続けられるまちづくりを実現するための課題発見・解決型学習の研究開発地域についての確かな理解と、グローバルな視野を併せ持つグローカル・リーダーを育成する。

イ　パートナーシップで目標を実現する生徒を育成するための研究開発国内外でのフィールドワークを通じて、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、協働して能動的に学び続けることができる人材を育成する。

ウ　質の高い教育を実現するための研究開発

産学官の連携により、地域と学校が一体となって生徒を育成し、持続可能な社会システムを構築する。

(2) 概要

ア　特色ある科目や課外活動によって、グローバルな視野と国際感覚の醸成を図る。

イ　課題解決型学習の実践により、他者と協働的に学ぶ姿勢や批判的思考力を身に付ける。

ウ　英語による対話力やディスカッションの力を身に付け、コミュニケーションスキルを向上させる言語活動の充実を図る。

エ　産学官連携協力体制を構築し、フィールドワーク等を通して地域の企業研究と働くことの意義についての学びを深める。

オ　新教育課程施行に向けての教育課程研究を進める。

3　2021 年度の研究開発実施計画

(1) 総合的な探究の時間（榛高タイム）及び学校設定教科・科目（総合的な探究の時間の代替）

グローカル・リーダー育成のための課題解決型学習に係る学習プログラム開発の継続と、新たに設置した学校設定教科（地域創造探究）・科目（地域創造探究Ⅰ・Ⅱ）のシラバス、評価方法の研究を行う。

学年	実施内容・目標
1	地域創造探究Ⅰ・Ⅱ：住み続けられるまちづくりを実現するための課題発見と課題解決型学習 地域社会の課題を発見し、協働的に課題を解決する方法を考える。
2	榛高タイム：パートナーシップで課題を解決するための課題発見と課題解決型学習 地域と世界のつながりを理解し、批判的思考力を身に付ける。
3	榛高タイム：パートナーシップで課題を解決し目標を実現するための課題解決型学習 自己の生き方・在り方について考えるとともに、グローカル・リーダーとして、地域や世界、社会貢献の在り方について考える。

(2) 課外活動

実社会プログラム（課外活動）及び部活動（グローカル部）、地域リーダー育成プロジェクト（牧之原市の事業）への参加・協力によって、プロジェクトを成功に導く中核的役割を担う生徒を育成する。

また、イングリッシュキャンプやＷｅｂを活用した海外とのオンライン交流など、外国語言語活動を積極的に行う。

活動	実施内容・目標
実社会プログラム（希望者）	希望者を対象に企業訪問や国内・海外研修を実施し、より深い学びとする。
部活動（グローカル部）	学校内外で進行する国際化に対応するため、部活動において中核的生徒を育成する。
地域リーダー育成プロジェクト	地域社会とのつながりを深める。 将来の地域社会を支える市民を育成する。
外国語言語活動	英語による対話力やディスカッションの力を身に付け、コミュニケーションスキルを向上させる。

(3) 新教育課程施行に向けての教育課程研究

カリキュラム開発アドバイザーの協力を得て、以下のア～ウについての研究を行う。

先進校視察等の情報収集を行い、新しいカリキュラムの開発を行い、実施する。

ア　社会に開かれた学校の実現

コミュニティ・スクールの研究、学校運営協議会の開催

イ　教科横断型の探究学習の実現

総合的な探究の時間の研究、学校設定教科・科目の研究

ウ　文理融合型カリキュラム

変化の激しい時代に対応した文理融合型カリキュラムの研究

4　事業実施体制

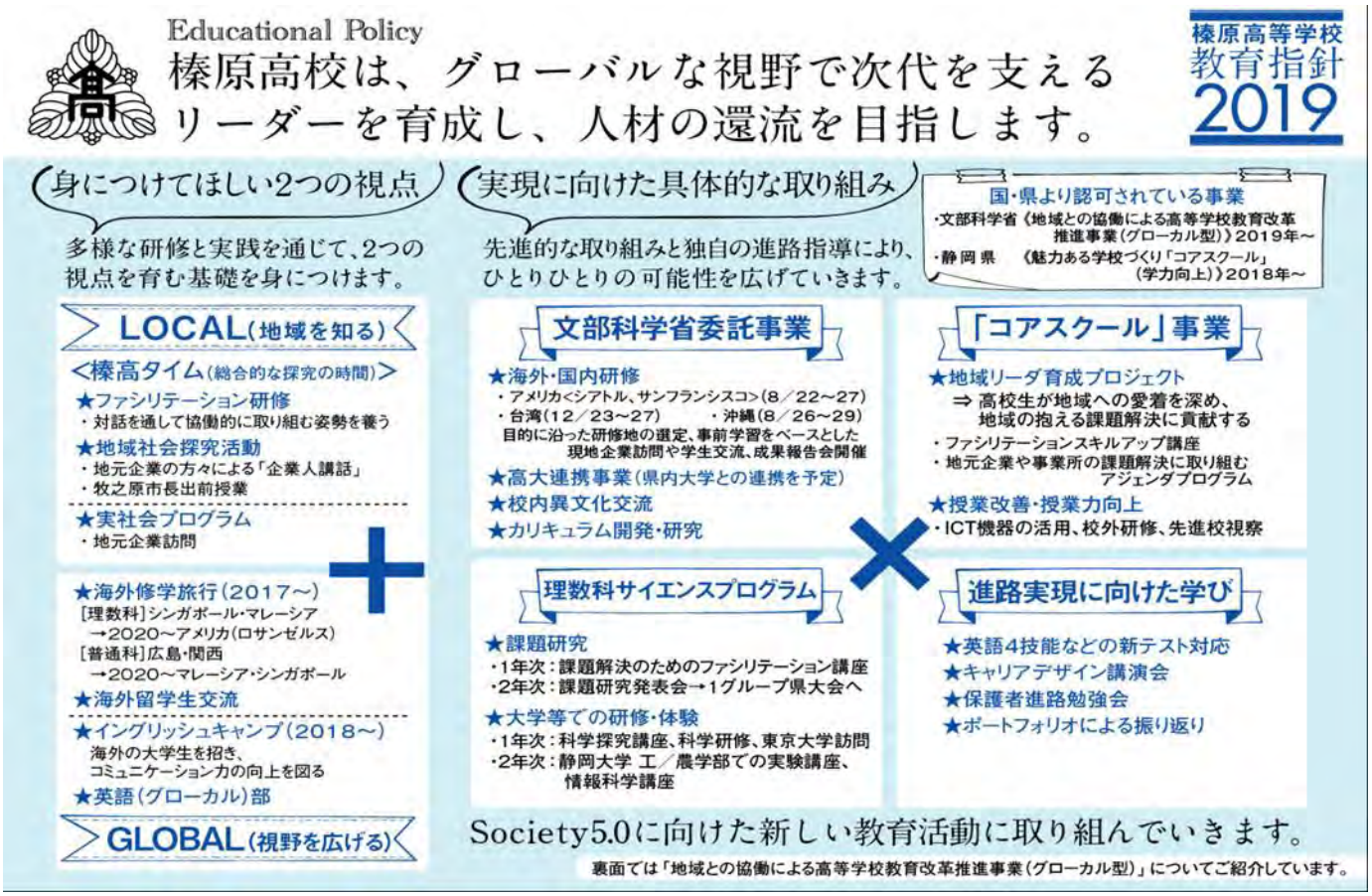
課題項目	実施場所	事業担当責任者
ＨＡＦプロジェクト グローカル・リーダー育成のための課題研究プログラムの開発	本校、静岡大学教育学部等 主なフィールドワーク先 【国内】 鹿児島・宮崎（南九州市他） 連携企業事業所（牧之原市内他） 【海外】 アメリカ合衆国（シアトル、サンフランシスコ他） 台湾（台北、高雄他） シンガポール共和国	校長　鈴木　安雄
社会に開かれた教育課程の開発 新教育課程施行に向けての教育課程研究	本校 牧之原市役所 静岡大学教育学部	校長　鈴木　安雄

5　運営指導委員会の体制

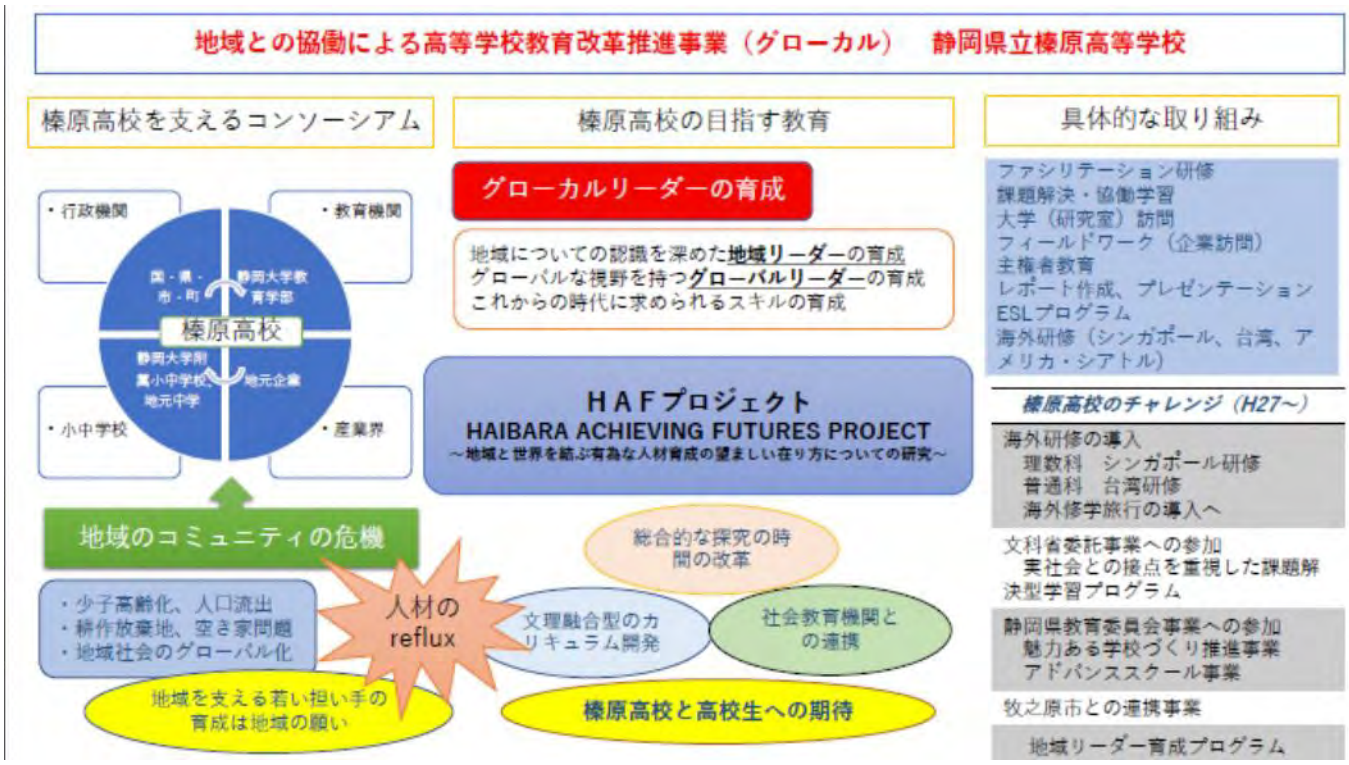
氏名	所属・職	備考
堀川　知廣	静岡産業大学情報学部　学部長	学識経験者（ＩＣＴ活用）
亀坂　安紀子	青山学院大学経営学部　教授	学識経験者（国際・金融経済）
菅野　文彦	静岡大学教育学部　教授　副学部長	学識経験者（教育）
渋江　かさね	静岡大学教育学部　准教授	学識経験者（ＮＰＯ）
玉置　実	（財）静岡経済研究所　主席研究員	団体（地域経済）
田熊　元彦	株式会社伊藤園　生産本部副本部長兼静岡相良工場長	企業（学校運営協議会委員）
渡辺　浩	ＴＤＫ株式会社　国内人材開発統括部人事部課長	企業（人材開発）
【事務局】　静岡県教育委員会高校教育課、静岡県総合教育センター（教育行政）		

6　高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	役職	機関の代表者名
静岡県立榛原高等学校	校長	鈴木　安雄
静岡県教育委員会	教育長	木苗　直秀
静岡県	地域外交局長	影山　英一郎
牧之原市	市長	杉本　基久雄
牧之原市	教育長	橋本　勝
静岡大学	教育学部副学部長	村山　功
矢崎部品株式会社	ものづくり事業統括室リソースセンターセンター長付	大石　斉
ふじのくに茶の都ミュージアム	館長	熊倉　功夫
島田掛川信用金庫	会長	市川　公
牧之原市民	ファシリテーター	原口　佐知子



1-1 構想概要図（申請時）


地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル）　静岡県立榛原高等学校
榛原高校を支えるコンソーシアム
榛原高校の目指す教育
具体的な取り組み
・行政機関
・教育機関
国・県・市・町
静岡大学教育学部
榛原高校
静岡大学附属小中学校、地元中学
地元企業
・小中学校
・産業界
グローカルリーダーの育成
地域についての認識を深めた地域リーダーの育成
グローバルな視野を持つグローバルリーダーの育成
これからの時代に求められるスキルの育成
ＨＡＦプロジェクト
HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT
～地域と世界を結ぶ有為な人材育成の望ましい在り方についての研究～
ファシリテーション研修
課題解決・協働学習
大学（研究室）訪問
フィールドワーク（企業訪問）
主権者教育
レポート作成、プレゼンテーション
ESLプログラム
海外研修（シンガポール、台湾、アメリカ・シアトル）
榛原高校のチャレンジ（H27～）
海外研修の導入
理数科　シンガポール研修
普通科　台湾研修
海外修学旅行の導入へ
文科省委託事業への参加
実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム
静岡県教育委員会事業への参加
魅力ある学校づくり推進事業
アドバンススクール事業
牧之原市との連携事業
地域リーダー育成プログラム
地域のコミュニティの危機
・少子高齢化、人口流出
・耕作放棄地、空き家問題
・地域社会のグローバル化
人材の reflux
総合的な探究の時間の改革
文理融合型のカリキュラム開発
社会教育機関との連携
地域を支える若い担い手の育成は地域の願い
榛原高校と高校生への期待

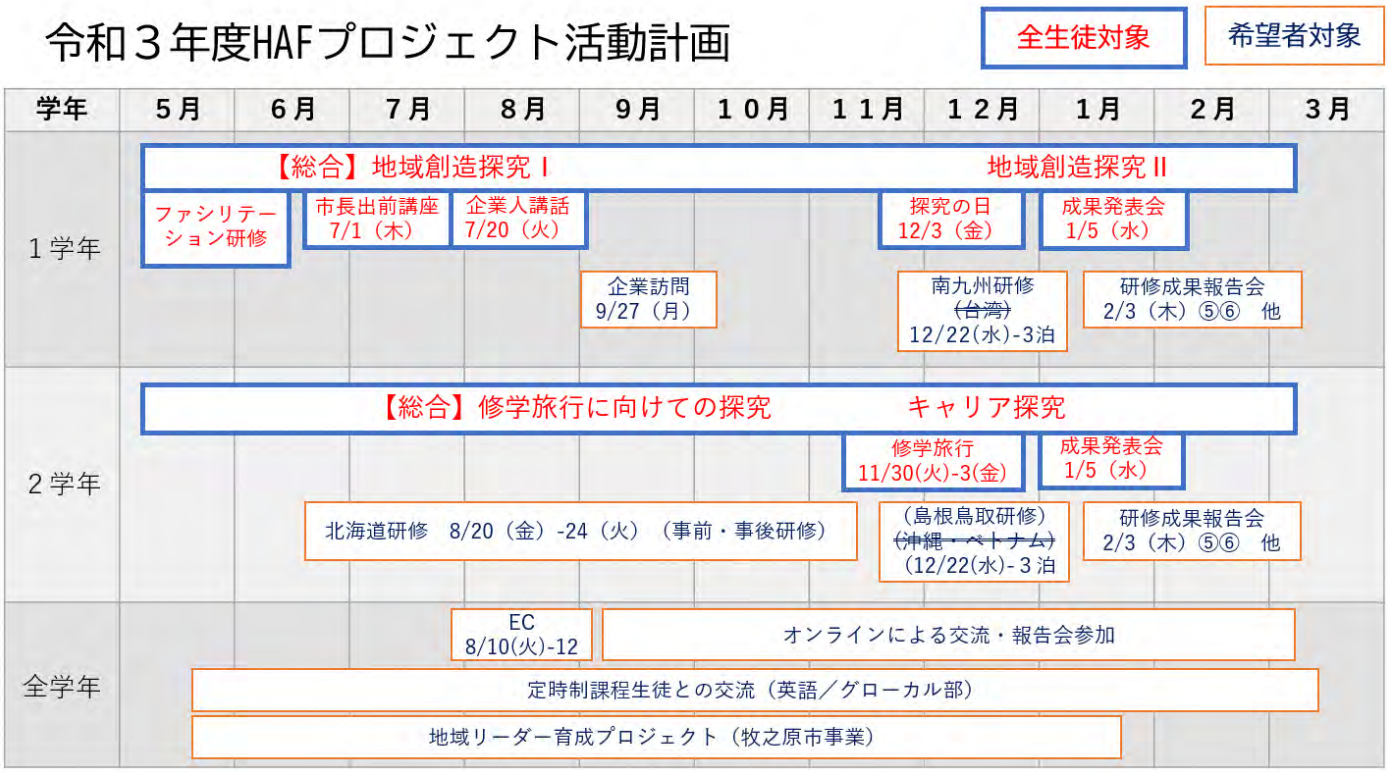
Haibara H.S.
〈Society5.0に向けた新しい教育活動に取り組んでいきます〉
LOCAL（地域を知る）
＜榛高タイム（総合的な探究の時間）＞
★ファシリテーション研修
・対話を通して協働的に取り組む姿勢を養う
★地域社会探究活動
・地元企業の方々による「企業人講話」
・牧之原市長出前授業
★実社会プログラム
・地元企業訪問
GLOBAL（視野を広げる）
★海外修学旅行（2017～）
[理数科]シンガポール・マレーシア
→2020～アメリカ（ロサンゼルス）
[普通科]広島・関西
→2020～マレーシア・シンガポール
★海外留学生交流
★イングリッシュキャンプ（2018～）
海外の大学生を招き、
コミュニケーション力の向上を図る
★英語（グローカル）部
・文部科学省 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）R1～
・静岡県魅力ある学校づくり「コアスクール」（学力向上）H30～
文部科学省委託事業
★海外・国内研修
・アメリカ<シアトル、サンフランシスコ>（8／22～27）
・台湾（12／23～27）　・沖縄（8／26～29）
目的に沿った研修地の選定、事前学習をベースとした
現地企業訪問や学生交流、成果報告会開催
★高大連携事業（県内大学との連携を予定）
★校内異文化交流
★カリキュラム開発・研究
「コアスクール」事業
★地域リーダ育成プロジェクト
⇒ 高校生が地域への愛着を深め、
地域の抱える課題解決に貢献する
・ファシリテーションスキルアップ講座
・地元企業や事業所の課題解決に取り組む
アジェンダプログラム
★授業改善・授業力向上
・ICT機器の活用、校外研修、先進校視察
理数科サイエンスプログラム
★課題研究
・1年次：課題解決のためのファシリテーション講座
・2年次：課題研究発表会→1グループ県大会へ
★大学等での研修・体験
・1年次：科学探究講座、科学研修、東京大学訪問
・2年次：静岡大学 工／農学部での実験講座、
情報科学講座
校訓「至誠真剣」
榛原高校は、グローバルな視野で次代を支えるリーダーを育成し、人材の還流を目指します。
進路実現に向けた学び
・英語4技能などの新テスト対応
・キャリアデザイン講演会
・保護者進路勉強会
・ポートフォリオによる振り返り
榛原高校は2020年に
創立120周年を迎えます

1-2 2019 年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要（申請時）

<table>
<tr><td>指定期間</td><td>ふりがな</td><td colspan="5">しずおかけんりつはいばら
こうとうがっこう</td><td rowspan="2">②所在都道府県</td><td rowspan="2">静岡県</td></tr>
<tr><td>2019～2021</td><td>①学校名</td><td colspan="5">静岡県立榛原高等学校</td></tr>
<tr><td rowspan="4">③対象学科名</td><td colspan="5">④対象とする生徒数</td><td colspan="2">⑤学校全体の規模</td></tr>
<tr><td>１年</td><td>２年</td><td>３年</td><td>４年</td><td>計</td><td colspan="2" rowspan="3">普通科　１年生 200 人　２年生 205 人
３年生 197 人　理数科　１年生 40 人　２年生 40 人　３年生　32 人　合計 714 人</td></tr>
<tr><td>普通科</td><td>200</td><td>28</td><td>20</td><td>0</td><td>248</td></tr>
<tr><td>理数科</td><td>40</td><td>40</td><td>32</td><td>0</td><td>112</td></tr>
<tr><td>⑥研究開発構想名</td><td colspan="8">ＨＡＦプロジェクト（HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT）
～地域と世界を結ぶ有為なグローカル人材育成の望ましい在り方ついての研究～</td></tr>
<tr><td>⑦研究開発の概要</td><td colspan="8">ア　特色ある科目や課外活動によって、グローバルな視野と国際感覚の醸成を図る。
イ　課題解決型学習の実践により、協働的に学ぶ姿勢や批判的思考力を身に付ける。
ウ　外国語による対話力やディスカッションの力を身に付け、コミュニケーションスキルを向上させる言語活動の充実。
エ　産学官連携協力体制を構築し、フィールドワーク等を通して地域の企業研究と働くことの意義についての学びを深める。
オ　新教育課程施行に向けての教育課程研究</td></tr>
<tr><td>⑧研究開発の内容等</td><td>⑧-1 全体</td><td colspan="8">(1) 目的・目標
・地域についての確かな理解と、グローバルな視野を併せ持つグローカル・リーダーの育成
・これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、能動的に学び続けることができる人材の育成
・産学官の連携により、地域と学校が一体となって生徒を育成し、持続可能な社会システムを構築する。
(2) 現状の分析と研究開発の仮説
本校が立地する牧之原市では、人口減少が続き、2040 年には、2015 年比 25％減、2060 年には現在からおよそ 44％減少（27,500 人）することが予測されている。また、同時に高齢化が進んでおり、このままでは地域の経済・社会の縮小均衡は避けることができない状況にある。逆に、牧之原市内の外国人の人口は、2016 年１月末は、593 人であったのに対し、2019 年１月末には、1,068 人とほぼ２倍となっている。外国人労働者の受入が積極的になれば、市内の外国人の人口は今後も増加傾向となる。地域内での外国人との文化交流や異文化理解の方策を考えていく必要がある。
この牧之原市周辺地域には茶業に加え、自動車産業をはじめとして、多種多様な製造業が発展している。加えて、県内唯一の国際空港である富士山静岡空港を有し、潜在的な成長力は十分に有している。
さらに、オリザニン（ビタミン）を発見した地域の偉人である鈴木梅太郎博士（牧之原市出身）は、本校の前身である東遠義塾に学び、地域のみならず世界の医療科学の発展に貢献しており、世界を俯瞰して捉えることのできるグローバル人材の育成についても本校の役割は大きい。
世界から日本を俯瞰し、地域の発展につながるキャリア教育は本校の責務であり、地域全体の願いでもある。行政機関（国、県、周辺市町）、地元企業、地元小中学校に加え、静岡大学教育学部、同附属小中学校と連携し、地域と世界を結ぶグローカル・リーダーを地域とともに育成するための事業を推進したいと考えている。
なお、本校は近年以下の実践研究を文科省及び地元自治体の協力のもとに行ってきた。平成 28・29 年度、文部科学省委託事業「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム実践研究」、平成 27 年度から現在まで「地域リーダー育成プロジェクト」（牧之原市）、本年度からは、静岡県教育委員会の「魅力ある学校づくり推進事業」を活用。</td></tr>
</table>

	⑧-2 具体的内容	(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画（年次進行） 〇学校設定教科「地域創造探究（仮）」（総合的な学習（探究）の時間）を中心に、全ての教科（科目）と連携して実施する。 １年次　自己理解を深めた上で、身近な社会を知り、世界とのつながりを考える。 地域社会の課題を発見し、協働的に課題を解決する方法を考える。 ・地元企業等に勤務する企業人等による講話、金融経済講座 ・フィールドワーク（地元企業の事業所訪問）、講演会（牧之原市長） ・ファシリテーション研修 ・日経ストックリーグコンテストへの応募・参加（理数科・希望者） ・定時制課程の外国籍生徒と英語部の定期的な交流による文化交流や外国語によるコミュニケーション力の向上（対象を英語部・希望者として継続実施） ・ＥＳＬプログラム（イングリッシュキャンプなど）への参加（希望者） ・海外（台湾などアジア方面）研修（希望者） ・行政機関等の主催する地域連携事業への参加（希望者） ・学習成果報告会（模擬請願）によるプレゼンテーション ２年次　幅広い社会を知り、自分の未来と社会をつなげる。 地域と世界のつながりを理解し、批判的思考力を身に付ける。 ・大学（研究室）訪問などのフィールドワーク ・日本とアジアのつながりを探究する。 ・地域とアジアの繋がりについて地場産業（茶、自動車産業）を通して考える。 ・海外（アメリカ、オーストラリア）研修（希望者） ・国内（沖縄）研修（希望者） ・シンガポール・マレーシアとのつながりを考える。（修学旅行：2020 年実施） ・学習成果報告会（高校生の地方創生研究発表会） ３年次　自己の在り方、生き方を考える（キャリア形成・確立へ）。 ・社会貢献の在り方について考える。 ・地域課題、国際問題について、２年間の学習を振り返る。 ・３年間の学びをどのように活かすか考える。 ・大学（研究室）訪問などのフィールドワーク（希望者） ・進路目標の実現について考える。 〇新教育課程施行に向けての教育課程研究 「社会に開かれた学校（教育課程）」の実現と、変化の激しい時代に対応した文理融合型カリキュラムの研究開発 〇地域社会と学校の在り方に関する研究 地域社会の変容（少子高齢化、グローバル化）に伴い、持続可能な地域社会の実現に向け、社会教育機関等と連携した教育活動の研究・実践 (2) カリキュラム・マネジメントの推進体制 外部委員、校内推進委員によるカリキュラム開発推進委員会を整備する 外部推進委員会 静岡大学教育学部、牧之原市地域振興課、海外交流アドバイザー、教育委員会高校教育課担当 校内推進委員会 校長、副校長、教頭、事務長、理数科主任、教務主任、進路指導主任、研修主任、地域連連携推進監、各学年推進担当者、部活動顧問等 ※地域連携推進監（2019 年度設置）は、大学、行政機関等との連絡調整行う。 (3) 必要となる教育課程の特例等 学校設定教科「地域創造探究」による総合的な探究の時間の代替
⑨その他特記事項		静岡大学教育学部、附属小中学校との連携協定締結（３月を予定）に向けて準備中 牧之原市との地域連携事業に関する協定の見直し（2015 年協定締結済み）

1-3 年間活動計画（令和３年６月）



1-4 2021 年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業　目標設定シート

【別紙様式５】

ふりがな	しすおかけんりつはいばらこうとうがっこう	指定期間	2019~2021
学校名	静岡県立榛原高等学校		

地域との協働による高等学校教育改革推進事業　目標設定シート

１．本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021年度)
a	（卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） 英語での日常会話やプレゼンテーションができる力（実用英語検定2級以上）を持っている生徒の人数					単位：人
	本事業対象生徒：		35	111	114	40
	本事業対象生徒以外：	―	24	45		
	目標設定の考え方：					
b	（高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） 卒業後、地域に留まる、または将来戻るつもりであると回答する生徒の割合					単位：％
	本事業対象生徒：		51	47	57	25
	本事業対象生徒以外：	―	19	49		
	目標設定の考え方：					
c	（その他本構想における取組の達成目標） 海外研修、ＥＳＬプログラムへの参加者数					単位：人
	本事業対象生徒：		76	57	106	100
	本事業対象生徒以外：	36	70	0		
	目標設定の考え方：					

本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

２．地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値（2021年度）
a	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 地域連携事業への参加生徒数					単位：人
	53	55	90	171	209	80
	目標設定の考え方：					
b	（普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 学習成果報告会の実施回数					単位：回
	5	7	7	9	13	10
	目標設定の考え方：					
c	（その他本構想における取組の具体的指標） 地域企業や自治体へのフィールドワークへの参加人数					単位：人
	41	126	210	94	117	200
	目標設定の考え方：					
d	（その他本構想における取組の具体的指標） オンラインを活用した学校間交流・研修会の実施回数					単位：回
	―	―	0	10	13	10
	目標設定の考え方：					

３．地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値（　年度）
a	（地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） コンソーシアム機関との研究協議回数					単位：回
	―	0	2	2	2	2
	目標設定の考え方：					
d	（その他本構想における取組の具体的指標） 地域企業、地元自治体の人的資源の活用人数					単位：人
	―	29	31	43	72	90
	目標設定の考え方：					

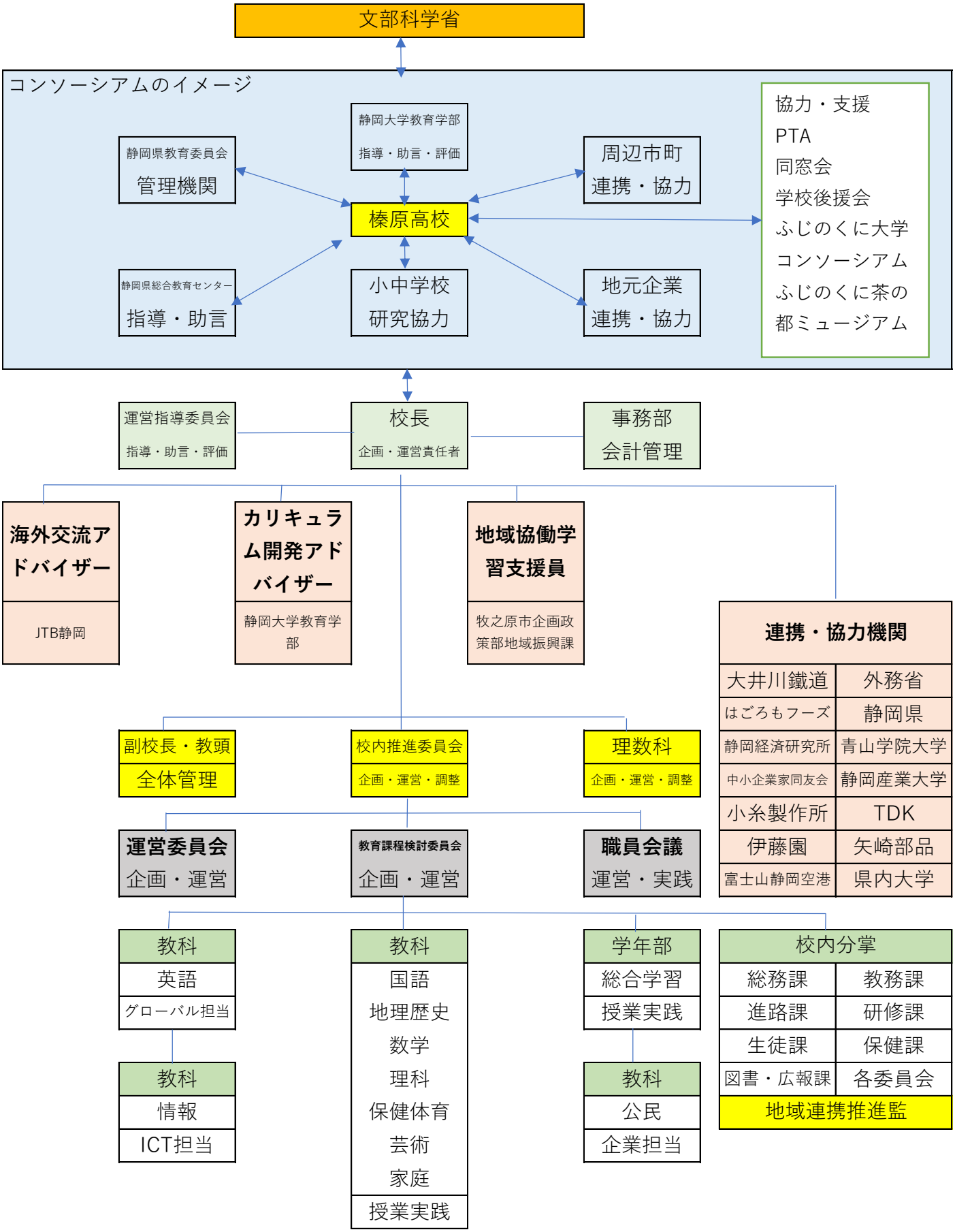
＜調査の概要について＞

１．生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数（人）			692	656	595
本事業対象生徒数			364	656	595
本事業対象外生徒数			346	0	0

1-5 研究開発組織（申請時）

静岡県立榛原高等学校　　**地域協働高校改革グローカル型**　　研究開発組織図



２　研究開発構想

2-1 研究の目的

本校では、文部科学省及び地元自治体の協力の下、文部科学省委託事業「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム実践研究」（平成 28・29 年度）、「地域リーダー育成プロジェクト（牧之原市）」（平成 27 年度～現在）静岡県教育委員会の「魅力ある学校づくり推進事業」（平成 30 年度～現在）等の地域連携事業を実践してきた。

これらの事業を通じ、高校生は地域の大人が考えている以上に地域社会に疎いことが明らかになってきた。そこで、地域社会（学校、地元企業、行政機関、牧之原市民）が協力し、地元の高校生が、大学等を卒業した後、地域に戻ってくる人材の還流を実現するためのカリキュラム開発を行うことを目指すこととした。

また、急速に進む国際化は、従来からの形である日本人が外国に赴くという国際化に加え外国人が来日し、地域社会に定着するという新しい段階に入りつつある。地域社会のグローバル化に対応する人材育成についても、外国籍や外国にルーツを持つ生徒が在籍している定時制課程を有する本校の役割と考えられる。このことを踏まえ、グローバルに活躍する人材を育成し、質の高い教育を実現するための実践研究を目標とした。

2-2 人材還流

本校の立地する牧之原市は、少子高齢化と人口減少、地場産業である茶業の衰退など多くの課題を抱えている一方で、充実した交通インフラ等を背景に自動車産業を中心に様々な事業所の生産拠点が集積しており経済的な面からは他の人口減少地域よりも恵まれた環境にあるといえる。

このことから、卒業した生徒が将来地元に戻り、地域社会を支えるリーダーとなるための地域リーダーを育成するカリキュラム開発を行うこととした。

【地域社会の現状】	【地域社会の強み】
・少子高齢化と人口減少 ・地場産業の茶業の衰退、海水浴を中心とした観光客の減少 ・アジアを中心とした外国人労働者の増加	・自動車産業を中心とした多様な産業の製造拠点が存在 ・国際空港、高速道路網など充実した交通インフラ ・地域住民、行政機関、地元企業の教育に対する協力体制

2-3 グローバル人材の育成

牧之原市内の外国人の人口は、2016 年１月末は、593 人であったのに対し、2019 年１月末には、1,068 人とほぼ２倍となっている。今後もこの傾向が続くことが予想され、並置されている定時制課程には、外国籍または外国にルーツをもつ生徒が増加している。同様に、全日制課程においても外国にルーツを持つ生徒や外国語が堪能な生徒が入学するようになってきている。

また、日本全体の人口減少するなかで、企業活動のグローバル化は避けて通ることができない。実際に本校の卒業生が海外勤務することも決して珍しいことではなく、海外研修で訪問する台湾の董事長（現地法人の社長にあたる）は本校の卒業生である。民族（人種）が異なる人とともに事業の目標を達成するために力を合わせて努力することが当たり前の時代はすぐそこまでやってきているといっても過言ではない。このことから、グローバル化する社会に対応した質の高い教育を実現するための研究開発を行うこととした。

2-4 研究手法

(1) 仮説

コンソーシアム（行政機関、地元企業、地域住民）と協働し、すべての生徒を対象とした数多くの学習プログラムの提供により、実社会とのつながりを理解し、世界と地域社会とのかかわりを理解し、国際的感覚を持ち地域社会を支える人材が育成される。加えて、これらの研究を通じて新しい時代に対応したカリキュラムが開発を行うことができると考えた。

(2) プログラム内容

研究の目標を達成するため、以下のア～ウの取組を行い、カリキュラムの開発をすることとした。

ア　総合的な探究の時間

１年次は、牧之原市長、牧之原市の市民ファシリテーター、地元企業関係者による企業人講話、フィールドワークを通じて、地域社会の課題を発見し、協働的に課題を解決する方法を考える授業を企画した。

２年次以降は、海外修学旅行を踏まえ、地域と世界のつながりを理解し、批判的思考力を身に付ける

また、３年次は自己の生き方・在り方について考えるとともに、グローカル・リーダーとして、地域や世界、社会貢献の在り方について考えるための学習プログラムを開発する予定である。

イ　実社会プログラム

教員の研修・育成に加え、プロジェクトを牽引するリーダー的存在となる生徒（のグループ）育成のため、平成 28、29 年度に研究を行った文部科学省委託事業「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム実践研究」の手法を活用し、理数科１年生を中心に希望者対象の課外活動を企画した。

ウ　類型ごとの趣旨に応じた取組

１年生は台湾研修、２年生はアメリカ研修、沖縄研修の国内外研修を企画した。

また、従来の英語部をグローカル部として改組し、実社会プログラムと同様プロジェクトの牽引役とした。さらに、ＥＳＤプログラム（ＥＳＬプログラム）として、イングリッシュ・キャンプを企画した。

(3) 事業評価

評価項目は次の３つとした。「地域連携事業の推進」、「外国語でのコミュニケーション能力の向上、「学習成果の発信」。評価方法は、参加者人数、実施回数、生徒・保護者への質問紙調査及び英語検定の結果とした。

事業評価は、運営指導委員会（年２回開催）及びコンソーシアム委員による外部評価とした。

事業改善については、運営指導委員会の指導・助言の下、ＰＤＣＡサイクルにて行う。

(4) その他

校長を中心とした校内推進委員会（ＨＡＦ会議）において、事業を企画・運営するとともに静岡県教育委員会と連携して随時事業内容の見直しを行う。校内推進委員は、副校長、教頭、理数科長、教務課長、進路課長、研修課長、地域連携推進監、実務担当及び事務担当とする。

地域リーダー育成プロジェクト（牧之原市事業）については、地域連携推進監を中心に連携を行い、生徒の積極的参加を促す。

教員の育成のため、県内外の先進校視察を行い、事業実践の推進役となるよう研修を行うとともに、職員研修会等での共有を図る。

2-5 新型コロナウイルスの感染拡大による事業内容の変更（2020 年・2021 年度）

(1) 変更事項

ア　変更前

沖縄研修（８月末）、シアトル・サンフランシスコ研修（８月末）、台湾研修（12 月）を実施する。

総合的な探究の時間において、海外修学旅行を中心とした探究学習を実施し、学校設定教科・科目化する。

イ　変更後

＜2020 年度＞

・沖縄研修を中止し、目的地を島根県・鳥取県におけるフィールドリサーチとした。

・シアトル・サンフランシスコ研修の生徒募集を中止し、北海道（旭川市、札幌市）におけるフィールドリサーチを計画した。（感染拡大により、2021 年度に延期）

・台湾研修を中止し、鹿児島県・宮崎県におけるフィールドリサーチとした。

・海外修学旅行の中止により、総合的な探究の時間においては、国内修学旅行を中心とした探究学習を実施し、学校設定教科・科目化するための研究を行うこととした。

・国内外のフィールドリサーチの補完的措置として、国内外の学校等と遠隔会議システムを活用した交流を実施することとした。

＜2021 年度＞

・沖縄、シアトル・サンフランシスコ、台湾、ベトナムの研修は実施不可能であり、2020 年度に延期となった北海道（旭川市、札幌市）におけるフィールドリサーチを８月に、12 月に１年生対象に鹿児島県・宮崎県におけるフィールドリサーチ、２年生を対象に島根・鳥取研修を計画した。

・海外修学旅行の中止により、２年生総合的な探究の時間においては、国内修学旅行を中心とした探究学習を行うこととした。

・国内外のフィールドリサーチの補完的措置として、国内外の学校等と遠隔会議システムを活用した交流を実施することとした。

(2) 変更の理由

新型コロナウイルスの感染症対策に伴う、出入国制限が解除されず、海外研修及び海外修学旅行が実施できないこと、また、本県の基準により、沖縄県は移動回避が示されており、研修に係る生徒募集が困難であったため、研修先、実施内容を変更した。

(3) 変更が事業計画に及ぼす影響及び効果

2020 年度に引き続き、2021 年度においてもグローカル事業の中心事業である海外フィールドリサーチが実施できないため、大きな影響を受けた。

一方で、フィールドワーク先を国内の比較的感染が落ち着いている地域に変更し、機会を確保したことにより、従来よりも地域探究活動を充実させることができると予測される。また、遠隔会議システムを活用した講演会や交流会等を実施することによって、学びの機会を保証するとともに、生徒・職員のＩＣＴ教育のスキルが向上することが期待できたため、事業計画を変更した。

３　研究内容

3-1 総合的な探究の時間（地域創造探究Ⅰ・Ⅱ／榛高タイム）

新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、海外への渡航制限、フィールドワークの中止等があり、時期と内容を当初計画から変更して実施することになった。

【年間指導計画と実施内容（１年生）】

実施項目	時期	内容
ファシリテーション・グラフィック研修	４月	牧之原市市民ファシリテーターの協力によるファシリテーション及びグラフィックの講習
講演会・探究ガイダンス	４月	NPO 法人しずおか共有ネット講師による探究活動で育成される力についての講習。
牧之原市長講話	７月	牧之原市の地場産業、地域経済の現状、地域の抱える課題及び将来の展望について学ぶ。
企業人講話	７月	生徒がファシリテーター役を担当。地元企業６社から講師を招き、企業理念や起業人のキャリアなどを学び、各自の進路意識の向上を図る。
出前授業・地域の課題を知る	９月	地元企業関係者による出前授業を行い、地域課題を知り、今後自分たちが探究するテーマを探す。
HAF 講演会	２月	一般社団法人 Glocal Academy　理事長　岡本　尚也氏による講演 これからの社会と自分と向き合う力（何のために探究や課題研究をやるのか）についての講話
地域課題探究	10～３月	市長講話、企業人講話、企業訪問・企業説明会（担当生徒）、司書教諭による探究テーマの情報収集ガイダンス等で学んだことを踏まえ、牧之原市周辺地域の活性化等について、グループで課題発見・問題解決型学習を行う。 学習成果は、各クラス内でプレゼンテーション・学年発表を行うとともに、成果報告書を作成する。優秀なグループは、牧之原市役所で発表を行う予定。

【年間指導計画と実施内容（２年生）】

実施項目	時期	内容
グローバル課題探究	５～２月	課題探究学習 新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、フィールドワーク先を国内に変更し、課題発見と課題解決型学習を展開。 ＊修学旅行先　当初予定　マレーシア・シンガポール 変 更 先　国内（四国、中国、関西方面）
キャリア探究	５～３月	自己の生き方・あり方に関する探究。キャリア形成に係る講演会、オンラインでのフィールドワーク等を通じた各自のキャリア探究。

3-2 実社会プログラム

【年間指導計画と実施内容　　対象：１年生】

実施項目	時期	内容
企業訪問	９月	１年生の地域創造探究Ⅰの活動として実施（１年生 20 人参加）
オンラインによる企業研究	10 月	１年生の地域創造探究Ⅰの活動として実施（１年生 26 人参加）

3-3 その他の活動

(1)　国内研修

研修先（対象・人数）	時期	内容
南九州（１年生・20 人）	12 月	・フィールドリサーチ：ふじのくに茶の都ミュージアム（島田市）、知覧茶講話（南九州市）、宮崎市内フィールドリサーチ ・課題研究（地域振興）：こゆ財団（新富町）、青島神社・青島海岸・宮崎空港（宮崎市） ・平和学習：平和講話・史料館見学（知覧特攻平和会館） ・学校交流：宮崎県立宮崎大宮高校 ・自然体験、歴史・文化研修：砂風呂体験（指宿市）、知覧武家屋敷（南九州市）・仙巌園（鹿児島市）見学 学習成果は、校内報告会にて１、２年生生徒と共有する。
北海道（２年生・12 人）	12 月	・フィールドリサーチ：旭川市内研修、国立アイヌ民族博物館（ウポポイ） ・課題研究（地域の産業・キャリア研究）：旭山動物園教育プログラム参加、北海道大学訪問、卒業生講話 ・学校交流：札幌市立札幌開成中等教育学校 学習成果は、校内報告会にて１、２年生で共有する。

(2) 発表会への参加

会の名称（対象）	時期	内容
Glocal Summit at Kaibara 2021（２年生　４人）	12 月	文部科学省研修指定である兵庫県立柏原高等学校主催事業に参加。英語による発表。
2022 年全国高等学校オンライン発表会（１年生　８人）	１月	１年生の代表が参加。「牧之原市の人々とペットを守る」（日本語）、「Proposals on How to Attract Interest in Agriculture」（英語）。優秀校の発表を見学して、意見・質問。
HAF 研究成果報告会（１・２年生）	２月	榛原高校における３年間の研究開発について、コンソーシアム代表者、運営指導委員等に報告。全体会では、１年生「地域創造探究」の代表グループ、グローカル部、２年生有志による代表発表及び国内研修参加者のポスター発表。分科会では、クラス別に探究のまとめの活動。

第７回ふじのくに・大学フォーラム （１年生　４人）	２月	１年生普通科の１チームが、「牧之原市の人々とペットを守る」取り組みについて、日本語で発表。新型コロナウイルス感染拡大によってオンライン開催。
静岡県高校生グローバル課題研究ポスターセッション （１年生　４人）	２月	１年生の理数科の１チームが、「農業に興味をもってもらう」取り組みについて、日本語で研究発表。新型コロナウイルス感染拡大によって動画を提出。

(3) ＥＳＤ（ＥＳＬ）教育（イングリッシュ・キャンプ）

研修場所（対象・参加者）	時期	内容
榛原高校内（２年理数科全員、希望者 28 人）	８月	国内在住のネイティブ講師 12 人を迎え、３日間のキャンプを実施。

(4) 学校交流等その他の活動

交流校	時期	内容
台湾高校生とのオンライン交流	10 月 12 月	高雄市立新荘高級中学と、３年生 37 名、雲林県福智高級中学と、グローカル部１年生がオンラインで交流実施。
宮崎県立宮崎大宮高等学校（ＷＷＬ指定校）との交流	12 月	2020 年 11 月に学校間連携協定を締結。 南九州研修参加者（１年生 20 人）が、宮崎大宮高等学校生徒と宮崎市内でフィールドワーク。遠隔会議システムで事前打合せ及びグーグルクラスルームを用いた事前、事後研修。
市立札幌開成中等教育学校（ＩＢ指定校）との交流	12 月	2021 年３月に学校間連携協定を締結。 北海道研修参加者（２年生 12 人）が、学校訪問。翌日、両校生徒が北海道大学を訪問し、講義、研究所見学、グループワークなどを実施。
オーストラリアヒルズ学園とのオンライン交流	２月	１年理数科の生徒がお互いの国や文化について英語で発表。
シンガポール国立大学とのオンライン交流	３月 （予定）	シンガポール国立大学在校生及び卒業生によるＳＤＧｓについての講演会。１、２年生の希望者が参加。

3-4 設定目標と成果

設定目標	進捗状況（目標）	成果（延べ人数）	評価
外国語でのコミュニケーション能力の向上	英語検定２級以上合格者（100 人） ＥＳＬプログラム参加者（40 人） 海外希望研修（米国）参加者（10 人） 海外研修（その他）参加者（40 人）	合格者　114 人 参加者　106 人 参加者　　０人 参加者　　０人	英語検定２級以上取得者の割合が増えた。準１級合格者は８人。海外研修は、新型コロナウイルスにより中止。
地域連携事業の推進	実社会プログラムへの参加者（55 人） 企業訪問参加者（60 人） 地域リーダー育成事業への参加者（80 人）	参加者　103 人 参加者　　72 人 参加者　174 人	新型コロナウイルスの感染状況に影響を受けながらも、目標を上回る生徒が事業に参加した。
学習成果の発信	校内での成果発表の機会（４回） 校外での成果発表の機会（３回）	７回 ６回	校内外での学習成果発表に積極的に取り組んだ。

2022 年２月４日現在

４　生徒の活動（主な活動）

4-1 総合的な探究の時間（地域創造探究Ⅰ・Ⅱ／榛高タイム）

(1) 地域創造探究（１年生）

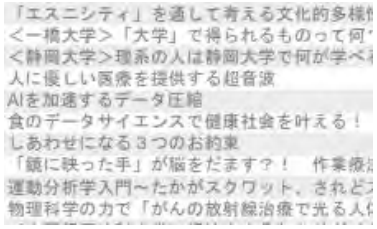
 牧之原市の産業について お話をする杉本市長	市長出前授業【令和３年７月１日（木）実施　講堂】 牧之原市長　杉本　基久雄　氏が、牧之原市の地場産業、地域経済の現状、地域の抱える課題及び将来の展望についての講話を行った。 生徒たちは、市長からの問題提起を踏まえ、各グループで課題探究学習を行い、２月 21 日に学習成果を市長に報告した。新型コロナウイルスの感染防止のため、生徒・市長ともマスクを着用するなど、感染防止対策を行ったうえで実施した。
 矢崎部品ものづくりセンター様 富士山静岡空港様	企業人講話【令和３年７月 20 日（火）実施　各教室】 今年度は生徒の進行のもと、地元企業６社が講話を行い、生徒たちは、会社や地域社会、企業人のキャリアなどについて学び、これからの自分自身の進路意識の向上を図った。生徒たちは講師の方々の話を聞きながら、たくさんのメモを取り、振り返りワークショップで班員と話し合い、講師の方々に質問を投げかけ、学びを深めた。 御協力いただいたのは、矢崎部品ものづくりセンター様、伊藤園静岡相良工場様、島田掛川信用金庫様、ＴＤＫ静岡工場様、富士山静岡空港様、ヤマザキ様であった。 新型コロナウイルスの感染防止のため、講師・生徒ともにマスクを着用するなど感染防止対策を万全にしたうえで実施した。
 	出前授業【令和３年９月７日（火）実施　各教室】 観光・防災・子ども・高齢者・地域づくり・ジェンダー・農業・医療・教育の９つのテーマに関連するうちの一つの講話を聴き、地域の課題を知り、今後自分たちが探究していく具体的なテーマを探した。 講話後の振り返りの時間では、印象に残った意見や疑問点などを付箋に書き出し、それを紙にラベリングをして意見や質問をまとめた。 新型コロナウイルスの感染防止のため、講師・生徒ともにマスクを着用するなど感染防止対策を万全にしたうえで実施した。
 山崎寛治様の講話	企業訪問【令和３年９月 27 日（月）午前　株式会社ヤマザキ訪問】 ９つのテーマのグループの企業訪問係の一部（男子 10 名・女子 10 名）が「地域創造探究Ⅰ」の課外活動として、株式会社ヤマザキを訪問した。詳細は実社会プログラム(4-2)にて記載あり。 新型コロナウイルスの感染を危惧されたが、万全な感染防止対策の中で行われた。他に予定されていた企業３社については訪問を中止した。

<table>
<tr>
<td>
質疑応答
 </td>
<td>ＨＡＦ講演会【令和４年２月１日（火）実施　各教室】

地域創造探究Ⅱの時間に、一般社団法人 Glocal Academy　理事長　岡本　尚也氏の「これからの社会と自分と向き合う力（何のために探究活動や課題研究をやるのか)」と題する講演が 90 分間行われた。
生徒たちは、留学時の話、自分の興味関心を広め、自分を信じるために努力するための大切さ、そして固定観念から抜け出る意義についての講話を聞いた。その後、岡本氏との質問セッションでは、６人の生徒から質問が出され、生徒にとって刺激的な時間になった。
講堂で実施される予定であったが、新型コロナウイルス感染症の流行により、遠隔会議システムを用いたオンライン開催となった。</td>
</tr>
</table>

(2) 総合的な探究の時間・榛高タイム（２年生）

<table>
<tr>
<td>
小谷先生の講話</td>
<td>キャリアデザイン講演会【令和３年６月 22 日（木）　体育館】

静岡県立大学学生部学生室長小谷和之さんと、静岡県立大学国際関係学部３年生で学生有志団体 K-commu 代表の山本怜さんより、コロナ禍における大学生活・授業の実態や、高校生活で大切にすべき視点等について講話をいただいた。生徒たちは、講話および演習を通して、自分のこれからの生き方や大学での学びについて考え、進路実現に向けての目標を立てた。</td>
</tr>
<tr>
<td> 
生徒が選択した夢ナビライブの受講プログラム例</td>
<td>夢ナビライブ【6 月 25 日～7 月 11 日　自宅および学校】

株式会社 FROMPAGE 主催・文部科学省後援の国公私立大合同進学オンラインイベント「夢ナビライブ」にて、関心のある学部・学問分野から大学教授のライブ講義等を選択して受講し、教授への質問や学んだ内容について活動報告書にまとめた。生徒たちは、研究室等の雰囲気をつかむとともに、複数の学部・学問分野についての理解を深めた。</td>
</tr>
<tr>
<td>
オンラインでの講演</td>
<td>志望理由書講演会【９月 16 日（木）各教室（オンライン）】

学研の鈴木礼美様より、志望理由書の書き方や将来社会で生きていく意義について講演をいただいた。生徒たちは、自分が志望する学問分野や職業等について考え、その内容を他者に伝える方法について学んだ。
この講演会の後、数カ月にわたる下書き、添削指導、リライトを通して、自分自身のキャリアの展望をまとめた志望理由書が完成した。</td>
</tr>
<tr>
<td>
体育館での発表</td>
<td>修学旅行探究中間報告会　【11 月２日（火）　体育館】

修学旅行（現地フィールドワーク）前に、これまでの修学旅行探究の内容について A3 一枚のミニポスターにまとめ、発表と質疑応答を通して内容を共有した。生徒たちは、自身の探究について新たな課題等に気づき、地域探究について多様な視点を得ることができた。</td>
</tr>
</table>

 のじまスコーラでの講話	修学旅行　【11 月 30（火）～12 月３日（金）】 左写真は、兵庫県淡路市に本社機能を移転し、様々な地域創生事業を展開しているパソナ社による講話の様子である。 生徒たちは、自然環境、まちづくり、生活文化等各自の探究テーマに基づいて、修学旅行先で様々な体験や調査を行った。
 各教室にて	修学旅行探究（まとめと振り返り）【２月３日（木）】 修学旅行後、現地フィールドワークで得た情報を含め、修学旅行探究の内容を論文形式の個人探究レポートとしてまとめた。web サイト上でのレポートの相互閲覧と口頭発表・コメント入力を通して、探究成果の共有を行った。また、年間の探究活動を振り返り、年間の学びや自身の資質・能力について自己評価を行った。

4-2 実社会プログラム

(1) 学習の概要

ア　活動目標と主な活動

企業訪問などを通して、地域課題について学ぶ。国内／海外でフィールドワーク等を実施し、より深い学びを行う。主な内容は、フィールドワーク（企業の事業所訪問などを通じた課題探究型学習）。

イ　参加生徒　　１年生の企業訪問担当生徒 46 人

(2)　主な活動

ア　企業訪問

 総合研究所にて講話	【令和３年９月 27 日（月）午前　株式会社ヤマザキ訪問】 ユニフーズ工場（25 分間）原菜加工センター（10 分間）そして吉田住吉工場（25 分）を見学し、徹底的な衛生管理や食品が製品化されるまでの過程を学ぶ。その後、山崎寛治代表取締役会長から「品質管理」と「料理の社会分業」という二つの視点から講話をいただいた。

イ　企業説明会

 生徒は自宅から（リモート）	【令和３年 10 月 12 日（月）放課後　榛南地区企業説明会(遠隔講義)】 コロナウィルス感染拡大によって、中止になっていた榛南地区企業説明会を榛原高校の生徒と Zoom で実施。生徒は公務員・士業・製造業・IT・建設業・農業の分野に分かれての事業内容の説明に加え、地元で働く良さなどについて学んだ。ブレイクアウトセッションによって、生徒は一度に様々な企業について学ぶことができた。

4-3 地域リーダー育成プロジェクト

(1) 学習の概要

高校、地域、行政が連携・協働し、「１．地域に誇りを持つ」「２．将来、地域を担う」「３．地域の課題解決に貢献する」ような人材を育成する（牧之原市事業）。

平成 27 年度から、静岡県立大学をはじめとする大学や地元企業、自治会など、地域の協力を得て、事業を展開している。

本校においては、地域協働学習実施支援員（牧之原市企画政策部地域振興課）と、地域連携推進監が牧之原市と協力して事業を推進している。本年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、活動内容が大きく制限されたが、３コースのプログラムが企画・立案され、実施された。

Ａコース　市民ファシリテーターＣＬＩＰによる「対話を学んで未来を生き抜くヒントを見つけよう！」

Ｂコース　市民ファシリテーターＭｕｓｕｂｉによる「“働くってこと”を考えよう　対話を通じて進学・就職に必要な伝える力を身に付けよう！」

Aplus コース　「自分を知り、相手を知り、話し合うことで見えない未来のしっぽを掴む」
各界で活躍する人や地域リーダー育成プロジェクトを経験した卒業生を講師に迎え、普段出会えない大人の生き方を聞いて、自分の生き方を見つめ、未来を生き抜くヒントを見つける。

(2) 主な活動

ア　地域リーダー育成プロジェクトＡコース

 ミルキーウェイスクエア	【令和３年７月 28 日　ミルキーウェイスクエアから広がるまちづくり】 牧之原市内の高校生 27 人が参加。 全５回の取組の第３回目では、牧之原市に誕生した図書交流館「いこっと」において、ゲストの話を聞いて少し先の未来を描いてみた。

イ　地域リーダー育成プロジェクトＢコース　発表会（市長報告）

 市役所榛原庁舎	【令和３年 12 月 21 日　第６回　自分たちの未来】 牧之原市内の高校生 19 人が参加。榛原高校２チーム、相良高校２チームが今までの取組を牧之原市長、教育長に発表した。 市長から地域リーダー育成プロジェクトの修了証を授与された。

ウ　地域リーダー育成プロジェクトAplus コース（全４回すべてオンラインで行った。）

８月 25 日　これからの未来を生き抜くためのファシリテーション
講師　早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員　佐藤　淳

９月４日　防災とファシリテーション
講師　日本ファシリテーション協会フェロー　鈴木　まり子

９月 18 日　やってみると何が起こる？　～プロセスと実践～
講師　一般社団法人トリナス　土肥　潤也

10 月２日　語 ring　地域リーダー育成プロジェクト卒業生の今やっていることを聞いて対話しよう。

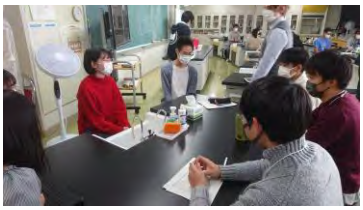
4-4 その他の活動

(1) 国内研修

ア　南九州研修

 「静岡茶」についての講話	【令和３年 12 月 22 日（水）】　静岡～鹿児島県指宿市 ふじのくに茶の都ミュージアム（島田市）を訪問し、静岡県と南九州の茶の生産方法の違いや生産量について白井満副館長の講義を受講した。 ミュージアムを訪問した後、静岡空港から鹿児島県指宿市まで移動して、砂蒸し風呂を体験するなど九州の自然を楽しんだ。
 「特攻」についての講話 「知覧茶」についての講話	【令和３年 12 月 23 日（木）】　南九州市～鹿児島市内 研修のメインとなるこの日は、最初に平和学習として、知覧特攻平和会館を訪問し、同世代の特攻隊員の遺書を読むなど、平和の大切さに加え、自身のキャリア形成について考えた。 南九州市茶業課生産振興の瀬川芳幸氏から、茶業に関して、静岡県牧之原市とのつながりや、南九州市における茶の生産について（知覧茶を中心として）講話を受けた。 午後は、地域と世界に関わる歴史・文化研修として、知覧武家屋敷や世界文化遺産のある薩摩藩島津家別邸「仙巌園」等を見学した。 研修終了後は、鹿児島市内を散策した。
 こゆ財団での講話 宮崎空港での講話	【令和３年 12 月 24 日（金）】　鹿児島～宮崎（新富町・宮崎市） ３日目は、地域づくりに関わる研修を行った。午前中はこゆ財団（宮崎県新富町）にて、執行理事兼最高責任者の高橋邦男氏から、地域での様々な挑戦について講話を受け、同町のチャレンジショップで昼食をとった。 午後は、宮崎市青島地区・青島神社を訪問し、長友安隆宮司より、自然環境や信仰と文化、変化する青島の観光事業等について案内いただいた。宮崎ブーゲンビリア空港では、永山博康社長より、地域活性化についての様々な取り組みについて講話をうけ、地域に貢献する空港を見学した。 研修終了後は、宮崎市内を散策した。
   宮崎大宮の生徒たちと	【令和３年 12 月 25 日（土）】　宮崎市～鹿児島空港～静岡 ＷＷＬ研究指定校の宮崎県立宮崎大宮高等学校の１年生と、宮崎市内のフィールドリサーチを実施した。 両校生徒が、事前に google スライドを利用して、コースについて協働的に計画しており、当日対面で各校の情報やコースについて詳しく共有した。その後はグループごと、宮崎市内でのフィールドリサーチを行った。 事後研修として、研修終了後に google スライド上で、フィールドリサーチでの学びを相互にまとめ、共有した。

イ　北海道研修

 カンディハウス	【令和３年 12 月 22 日（水）】　静岡～北海道 静岡空港から北海道に移動。旭川市で、カンディハウスを訪問した。カンディハウスでは、持続可能な林業と地元の雇用創出、海外への展開について話を聞いた。その後、家具製作工場内を見学した。
 ヤマザキ 旭山動物園	【令和３年 12 月 23 日（木）】　旭川市 午前中はヤマザキの代表取締役会長の山崎寛治様と、グリーンテックス代表取締役の佐藤一彦様から、企業理念についての話を聞いた。ヤマザキの旭川工場の見学では、ポテトサラダ加工の工程を見ながら、より美味しい商品を作るための企業努力を知ることができた。 午後は旭山動物園の見学と、昨年度卒業生の多々良翔人君の話を聞いた。旭山動物園では、教育活動のプログラムとして、飼育員や獣医の方からの話を、卒業生の多々良君からは入試体験や大学生活についての話を聞いた。
 市立札幌開成中等教育学校 ウポポイ	【令和３年 12 月 24 日（金）】　旭川市～札幌市～登別市 午前中は、市立札幌開成中等教育学校を訪問し、校内の施設見学と生徒交流を行った。互いの学校紹介をした後、国際バカロレア認定校のカリキュラムや教室の配置などについて説明を受けた。新設校である市立札幌開成中等教育学校と、伝統校の榛原高校の違いについて、双方の生徒がお互いに刺激を受けていた。 午後はアイヌ文化を体験するためにウポポイを訪問した。そこでは、アイヌ民族の踊りや唄などの伝統芸能や、文化を継承するための展示物、建築物を見学した。
 北海道大学	【令和３年 12 月 25 日（土）】　登別市～札幌市～小樽市 北海道大学を訪問し、人獣共通感染症国際共同研究所所長の鈴木定彦様の講話や留学生による母国の感染症事情についての話を聞いた。その後、札幌開成中等教育学校の生徒と共に大学施設の見学を行った。 午後は小樽に移動し、市内研修を行った。
 札幌オリンピックミュージアム	【令和３年 12 月 26 日（日）】　小樽市～新千歳空港～静岡 研修最終日は、札幌オリンピックミュージアムを見学した。 冬季オリンピックの展示物やスキージャンプ台の見学などをした後、新千歳空港に移動し、富士山静岡空港に帰着した。

(2) ＥＳＤ（ＥＳＬ）プログラム

ア　イングリッシュ・キャンプ

	【令和３年８月 10 日（月）～12 日（水）】 新型コロナウイルス感染症対策のため、国内在住のネイティブ講師を迎え、３日間のキャンプが実施された。25HR(理数科)とそれ以外の希望者の２集団に別れて、プレゼンテーションやアクティビティを通して、英語力を伸ばし、アメリカやジャマイカの文化について学んだ。

イ　Glocal Summit at Kaibara 2021（文部科学省研修指定である兵庫県立柏原高等学校主催事業）

	【令和３年 12 月 22 日(水)】 台湾から２校、韓国から１校、国内の５校が「コロナ後の社会でどう生きるか」をテーマにオンライン交流を実施。２年生４名がプレゼンテーションや他校の発表に対する感想を英語で発表した。

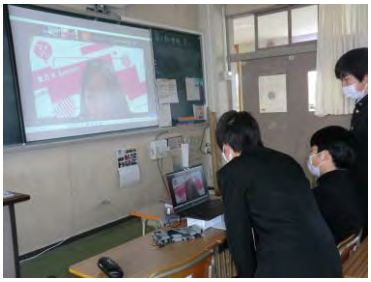
ウ　台湾との交流事業

 	【令和３年 10 月 29 日】 高雄市立新荘高級中学と３年生 37 名がオンラインで交流。お互いの国の文化やスポーツ、学校生活について発表した。 【令和３年 12 月 15 日】 雲林県福智高級中学とグローカル部１年生がオンラインで交流。お互いの国や学校について紹介したり、東京オリンピックに関する意見交換をするなど、英語と日本語と少しの台湾語で、活発な議論が繰り広げられた。多くの生徒にとって、英語学習に対する意欲を高める機会となった。

(3) 部活動（グローカル部）

グローカル部では、地域リーダー育成プロジェクトと連携し、さらに発展的な学習として、以下の活動に参加した。

ア　全国高校生マイプロジェクトアワード 2021【リモート発表】

 オンラインでの発表	【令和４年１月 10 日（月）、１月 23 日（日）】 二日に分かれ、グローカル部４グループが書類審査を経ての東日本 summit に参加。昨年度に続きオンラインによる探究成果の発表。プロジェクト名は「静岡茶×スイーツのヒット商品を開発せよ」、「ダサい地名とは言わせない」、「高校生がオススメする Food in Makinohara City」、「現役高校生が考えたオリジナルバスマップ」の４点。実際に商品開発を計画したり、グルメマップやバスマップを作成するなどして、それぞれのチームが、牧之原市、または母校の未来のために役に立つべく活動してきたことを発表した。

イ　静岡県高校生サミット（しずおか共育ネット他主催）【リモート発表】

 オンラインでの発表	【令和４年２月 13 日（日）】 グローカル部５名が参加。発表テーマは「高校生がオススメする Food in Makinohara City」。牧之原市を活性化するにあたり、高校生として何ができるのか考え、自分達が普段利用する牧之原市内の食事処に焦点を当てた。実際に各店舗に出向き、味わってグルメマップを作成。それを市役所、空港等人の目につきやすいところに置き、牧之原市を食からアピールしようというプロジェクト。いくつかの困難に遭いながらも諦めることなく続けてきた活動を発表。

(4)　１年生探究（代表者）

１年生の２グループが探究活動の成果発表のために、二つの発表会に参加をした。

ア　ふじのくに地域・大学コンソーシアム【リモート発表】

 オンラインでの発表	【令和４年２月 11 日（金・祝）】 今年度初めて参加する発表会であった。新型コロナウィルス流行による感染症対策のため、オンラインでの開催となった。高校生の地域研究課題発表等ということで、「牧之原市の人々とペットを守る」をテーマに発表した。 大学のゼミ学生の発表など、フィールドワーク、引用等が多数利用された研究発表を聞くことができた。

イ　WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業静岡県高校生グローバル課題研究ポスターセッション大会【オンライン】

 ビデオ撮影を実施	【令和４年２月 21 日（月）～３月 15 日（火）】 新型コロナウィルス流行による感染症対策のため、動画提出によるオンライン方式となった。一般部門に「農業について若者に興味をもってもらう」ための取り組みと題して、日本語でポスターを使い発表した。 上記の期間において、他校の生徒の発表を見て、今後の探究活動に向けて視野を広めた。

(5) 学習成果の発信

Glocal High School Meetings 2022

【令和４年１月 29 日（土）進取館】

昨年に引き続き、星城高等学校主催のオンライン発表会に参加した。今年度は、静岡県立島田商業高等学校の鈴木 滋教諭、情報ビジネス科３年の生徒さんにもお手伝いをいただいた。以下は、発表の要旨である。

学　校　名　：静岡県立榛原高等学校（普通科１年）
発　表　者　：増田浩大　曽根優太朗　石井俊輝　若林由梨奈
発表タイトル：牧之原市に住む人とペットを守る
発 表 概 要　：牧之原市の「若者の防災意識の低下」という課題を解決するための方法を提案したい。牧之原市は、市内放送による参加の呼びかけ、炊き出しなど学生でも興味を持てるような実践型の防災訓練を実施している。しかし、若者の防災意識向上に力を入れて取り組んでいるものの、参加率の増加があまり見られない。参加率が低い原因としては、３密が避けられない状況や身近ではない防災に対して意識が高まらないことだと考えられる。これらを踏まえて、若者の防災意識の向上のため、体験型で視覚に訴えるような防災教材を提案するために調べ学習、インタビュー、そしてフィールドワークを通し探究活動を進めている。

Name of School: Haibara High School　（理数科１年）
Speakers: Riku Tajima Kosei Arai Miyu Matsushita Miyu Okita
Ｔｉｔｌｅ：Proposals on How to Attract Interest in Agriculture
Abstract: Makinohara has a problem that less people, especially young people, want to take over the agricultural business. We think that drastic changes are necessary in order to solve this problem and have enough workers in the agriculture field in Makinohara City, and also in the rest of Japan. First, to find out more about the reasons for the decrease in farming population, we asked a simple question, “the image of farming” to our class. As a result, we found that high school students don’t know how farmers have worked in recent years. We will make the following three proposals to let the youth become aware of the possibility of employment in agriculture and become more interested in this subject: IT adoption in farming, Half-Farmer/Half-X lifestyle, farming experience for students.

4-5 活動報告（生徒）

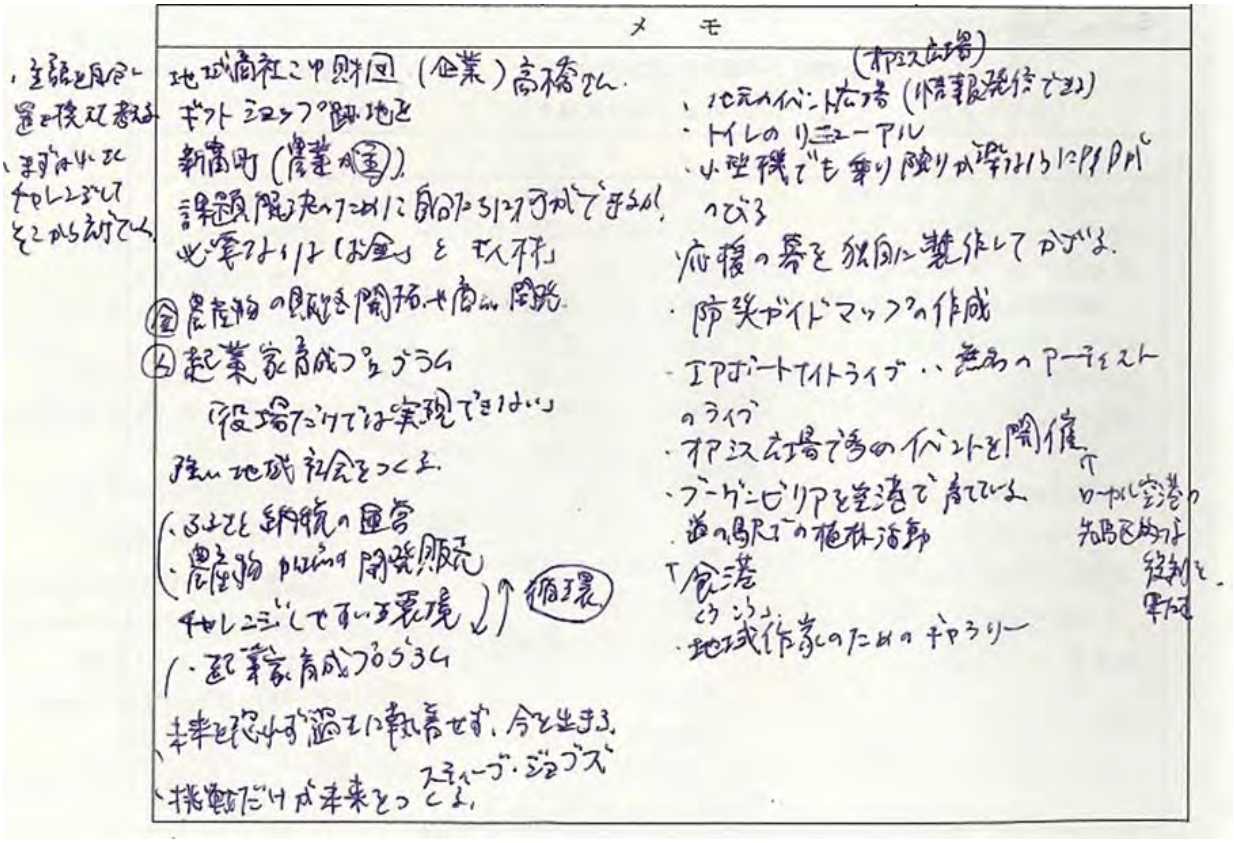
1　南九州研修報告

(1) 南九州研修「研修のしおり」より「研修内容をまとめよう」（生徒の記述一部抜粋）

①静岡茶について	訪問先：茶の都ミュージアム（講演・見学）	実施日：2021 年 12 月 22 日
茶の都ミュージアムは、静岡茶の魅力を国内外に伝え、茶業の振興を目的として作られた博物館。ミュージアムを訪れた観光客のために、ガイドツアーやおもてなし呈茶などを実施している。現在静岡県には、９地域で茶業が行われていて、牧之原では明治２年から茶業が行われている。主に行われている場所の特徴は、大きな川の近くが多く、よく日のあたる場所。 茶飲料よく飲まれるようになり、それに使われている茶は２番茶など安い物なので、1 番茶が売れなくなり、農家の収入が減ってきている。静岡茶は他の県よりブレンド力と販売力に優れている。お茶の消費量を増加させるために、観光を目的としたもの、ドラマのロケ地や雲海の茶園など様々な工夫を取り入れている。		
②指宿自然体験	訪問先：砂楽（砂風呂）	実施日：2021 年 12 月 22 日
初めての砂風呂だったが予想していたよりも、気持ちがよくて、体がすごくポカポカしました。温泉が砂風呂で体が温まったので、少し疲れがとれたと思います。貴重な体験ができてよかったです。（感想） 砂風呂を様々な人に楽しんでもらえるように看板に外国語が書かれていた。地元の人や観光客、様々な人が訪れる。砂楽の由来は、湯の湧出する浜辺で「砂」と「楽しみ」。砂むし温泉で楽に休養してほしい。また、地域の方々にももっと「気楽」に足を運び、「楽しんで」ほしい、という願いが込められている。		
③平和学習	訪問先：知覧特攻平和会館（講話・見学）	実施日：2021 年 12 月 23 日
日本の平和を願って 1036 人の尊い命が戦争に奪われてしまった。その中には地元である、牧之原市波津主神の鈴木泰治さんも含まれている。静岡県から 22 人の死者がでているが、知覧からは 439 人もの死者がでている。死者の平均年齢が 21.6 歳で、これからの日本を支えていくはずだった若者が多く犠牲になった。 知覧飛行場が使われたのは、風向きや、地質条件が良く、交通の便が良かったからである。 特攻作戦を初めて詳しく聞いて、飛行機が時速約 300km で突っ込んでいくことや、２時間など長時間の操縦という新しい発見があった。		
④知覧茶について	訪問先：JA 南さつま本所（講話）	実施日：2021 年 12 月 23 日
鹿児島県のお茶に対する熱心な取り組みが分かった。初めて知った知覧茶について、理解を深めることができ、静岡まで研修に行くなど、歴史も知ることができて良かった。（感想） 静岡と同じく鹿児島でも、茶と観光を結びつけている。鹿児島では、日本一を目標に、静岡への研修や、茶つみ機械の進化など多くの努力をしていた。そして日本一となった。茶を広げるために、様々な工夫をした。例えば、県内初の給食に茶を入れる、害虫対策に農薬を使用しない、お茶農家に 1 週間に 1 回お茶だよりをメールで発信（約 540 名）などに取り組んでいる。 お茶へのこだわりは強く、茶工場で作ったものはそのまま販売せずに、味、香り、色を見極めて仕入れている。		
⑤鹿児島市内研修	訪問先：仙厳園（見学）	実施日：2021 年 12 月 23 日
仙厳園は島津斉彬の別邸であり、国の名勝文化財に指定されている。庭から、桜島や錦江湾を一望できる。「集成館」の跡や反射炉の跡もあり、反射炉では、大砲が作られていた。 別邸に入る前に正門と錫門があり、正門には家門の丸十紋と桐紋が彫り込まれている。正門の前には大きな鹿児島湾が広がっていて、当時は船を使って行き来していた。錫門は、赤色の門で、２つに分かれてる。通れるのは、位の高い者。 別邸は、殿が着替えるための部屋や居間など多くの部屋があるが、壁は少なく、ふすまや障子が多い。その理由は敵が攻めてきた時、逃げやすくするためである。		

⑥こゆ財団研修	訪問先：こゆ財団（講話）	実施日：2021 年 12 月 24 日
挑戦することが大切であり、失敗や成功は関係ない。様々なことに挑戦したときに出てきた課題を解決するために必要なことは「人材」と「お金」。「人材」は、人数ではない。課題について考えるとき、主語を「自分」におきかえ、考える。経験の有無は関係なく、挑戦することが一番重要。挑戦は未来をつくる。		
⑦青島地区研修	訪問先：青島神社・青島海岸（見学）	実施日：2021 年 12 月 24 日
青島地区の観光地でもあり、中心的役割も担っている。観光客が減ってしまったことから、復活させようと、様々な施設を建てたり、環境を整備したりと、観光を活発にするために、取り組んでいる。 橋を渡ると、島があり、海は貝殻の浜でできていた。島は亜熱帯性植物で囲まれていて、特別天然記念物に認定されている。青島の隆起海床と奇形波蝕痕（鬼の洗濯板）は天然記念物に認定されている。		
⑧宮崎空港研修	訪問先：宮崎空港（講話）	実施日：2021 年 12 月 24 日
宮崎空港の創業者は岩切章太郎さん。地方空港として、地域の発展を担い、観光を中心にしている。空港内のオアシス広場を中心に、年間 300 日、様々なイベントを行っている。例えば季節ごとに特産品フェア、県内ツアーなど…。 飲食の提供には地元の材料を使用し、防災にも力を入れている。様々な取り組みを行ったことで、収入は年々増加した。宮崎空港は、地域をより活性化するための取り組みを積極的に行っている。		
⑨宮崎市内研修・学校交流	訪問先：宮崎市内（フィールドワーク）	実施日：2021 年 12 月 25 日
静岡の様に大きなショッピングモールが複数あるわけではなかったが１つのエリアに多くの通りがあり、宮崎の特産物を使用したお店やチェーン店でなく個人営業のお店が多かった。 南国プリンでは観光地とプリン、特産物とプリンなど宮崎を感じることができる商品があった。静岡には宮崎のように人が集まるところに静岡らしいものが少なく感じたため、それをどうしたら改善できるか、観光と結びつけながら、考えていきたい。		

講話のメモ例



(2) 南九州研修　協働学習スライド　　※スライドのフォームは、宮崎大宮高校指導者が作成

宮崎県立宮崎大宮高等学校生徒との、事前研修・協働フィールドワーク・事後研修の成果物例（抜粋）

みやざき発見フィールドワーク

発見、宮崎市の魅力。

【2】班

榛原高校1年　（秋野琴羽・東沙奈・澤入百花）

宮崎大宮高校1年（Hさん・Mさん）

1

【榛原高校生】フィールドワークでしたいこと

記入者（　　）

大宮高校のMさんとHさん改めてよろしくお願いします！！
宮崎神宮とかなら割と近いですか？？
周辺で調べてみて見つけたんですけど、行ってみたいです！！
返信:よろしくお願いします!
宮崎神宮なら行けると思います!一応先生に青島も聞いてみますね。
–ありがとうございます！お願いします

3

スポット①【 宮崎神宮 】提案者(　)

9時～　神宮までタクシーで移動
9時15分～9時45分　神宮
9時45分～　橘通までタクシーで移動（南国プリン 近くでおろしてもらう）

5

スポット①【 宮崎神宮 】提案者(Mさん)

基本情報	ここの特徴	ここを選んだ理由
〒880-0053 宮崎県宮崎市神宮2丁目4−1 0985-27-4004	現在の社殿は明治39年の造営で、宮崎県産の狭野杉で造営された流れ造りの清楚なもの。徴古館は明治40年に伊東忠太の設計で建てられたなまこ壁の建築物で、神殿（本殿）、幣殿、渡殿、神饌所などと同様に国の登録有形文化財になっている。	宮崎という地名は「神家」（みや）の先、つまり、神武天皇の皇居の先というのが地名の由来とする説もあり、宮崎の歴史を知る上で宮崎神宮は欠かせない地だから。

6

コンセプト

宮崎を短時間でいい所取りしよう!

時間がない中でいかに宮崎のいい所を知りながら楽しめるかなと考えました。

14

フィールドワーク計画（行程表）

【行程】
8:55　ATOMica出発
9:15　宮崎神宮到着(バス)
9:40　神宮出発（タクシー）
10:00 南国プリン
　　若草通り一番街
10:40 宮崎駅 なんじゃこら大福

15

フィールドワーク先①【宮崎神宮】

17

フィールドワーク先①【宮崎神宮　】

訪問地で知ったこと，感じたこと	疑問やアイディア
● おみくじの種類が多くてびっくりした ● 私の地域の神社と比べて、本殿みたいなところとお賽銭の距離が離れていたり、屋根の形も異なったりしていて新鮮だった ● 階段がスロープになっていたり、段差を無くしてあってバリアフリーがしっかりされており色んな人が来やすいと思った	神社によって作りが違うのは宗教的な何か意味があるのか。

18

フィールドワーク先②【 南国プリン 】

19

フィールドワーク先②【 南国プリン 】

訪問地で知ったこと，感じたこと	疑問やアイディア
● イートインスペースが写真スポットみたいに工夫されていることを初めて知った ● 見た目も味も良く、写真映えしそうなところ満載だった	せっかくイートインスペースが工夫されているのでそれも売りに出したほうが若者も足を運ぶようになりそう

20

フィールドワーク参加者①【宮崎大宮　Mさん】

フィールドワークを終えて

最初に宮崎神宮に行き、天皇に纏わる神社とは聞いたことはありましたが、実際に石碑などを見ることができました。おみくじの種類の多さにも驚きました。南国プリンはお店のイートインスペースで食べましたが、写真スポットのような映えを意識したつくりのスペースになっていて、今の時代のニーズに合わせたお店なんだと感じました。最後は若草通りを通り、宮駅でなんじゃこりゃ大福を初めて買いました。地元だからこそ聞いたことはあるけどよく知らず行こうとまで思わないことが多いのでこのような機会のおかげで事前の下調べで場所やお店を知ってから計画を立てて行けました。地元宮崎もまだまだ知らないことがたくさんあるので、自ら調べてみて、魅力を発見していこうと思います。

23

フィールドワーク参加者②【名前　秋野琴羽】

フィールドワークを終えて

初めて宮崎に訪れましたが、皆さんとても親切に案内をしてくれてとても嬉しかったです。フィールドワークでは初めに宮崎神宮行きました。敷地が広くて宮崎神宮の広さに驚きました。また神宮の近くには和菓子屋さんさケーキ屋さんがあり神宮を見回ったあとでも楽しめる場所であると思いました。2箇所目は、南国プリンのお店に行きました。南国プリンの味が美味しいだけでなく、2階のスペースには写真を撮れる場所があったので高校生や若い人が足を運びやすいと感じました。宮崎駅に向かう道では様々な名前のある通りを歩きました。1本の長い通りの中で珈琲店や洋服屋さん、パンケーキ屋など多くのお店が並んでいました。観光客だけでなく、地元の人でも楽しめるような通りが多くあると思いました。今回のフィールドワークを通じて、今自分たちの牧之原市がどのように栄えていけるのかを宮崎市から学べることが多くありこれからの地域創造探究の活動で参考にしていきたいです。

24

フィールドワーク参加者③【名前　澤入百花】

フィールドワークを終えて

最初に大宮高校の2人に会いました。初めましてだったのに2人ともとてもフレンドリーで話しやすく、すぐ仲良くなれてよかったです。本当に2人ともありがとう！

まず、宮崎神宮に行きました。宮崎神宮はとても広く、入り口の近くにお店が3店舗くらいあって、観光客も帰りに少し寄れたりする店があっていいなぁと思いました。神宮内は、建物までの道がサイドに灯りが飾られていたりしていて、綺麗でした。また、大宮高校の美術部の作品などが飾られていて、地元の高校生のことも知れる場所でもあるなと思いました。その後は南国プリンとなんじゃこりゃ大福を食べに行きました。南国プリンでは2回に食べれるスペースもあり、買ってすぐに味わうことで、お土産にも買って行きたいと思う人が多いんではないかと感じました。なんじゃこりゃ大福では持ち帰りの時間に合わせて、包装してくれるため遠いとこからの観光客でも買って行きやすいと思います。駅までの道のりの間に、たくさんのお店が並んでいました。夜になるとイルミネーションのようになる通りもありました。昼でも夜でも楽しめるなと思いました。今回のフィールドワークで学んだことを牧之原市の観光にも活かして行きたいです。

25

フィールドワーク参加者④【名前　東 沙奈】

フィールドワークを終えて

初めて宮崎を訪れたので知らないことばかりで大宮高校の2人に様々なことを教えて貰ってとても楽しかったです。最初に宮崎神宮に行きました。宮崎神宮はとても広く神秘的な雰囲気を感じました。また、宮崎神宮の前にフォトショップやケーキ屋があり、訪れた人がくつろげるスペースになっていて良いと思いました。その後、宮崎で有名な南国プリンを食べに行きました。種類が豊富でテイクアウト出来るところが良い点だと思いました。お店の2階はフォトスペースになっていてゆっくりプリンを食べたり、映える写真をとることができて若い人が行きたくなるような場所になっていると感じました。今回のフィールドワークを通じて宮崎は、その地でしか買えないお土産などを買えるお店が多く、観光客が多い理由のひとつだと思いました。今回宮崎で学んだことを参考にして牧之原の観光にも役立てていきたいです。

26

フィールドワーク参加者⑤【宮崎大宮　Hさん】

フィールドワークを終えて

宮崎の事を知っているつもりでしたが、全然知らなかった事に気付かされました。宮崎神宮でおみくじをひいたり観光を考えながら回ることがなかったため、新鮮でした。今回冬だったのであまりありませんでしたが夏や秋特有の木々の雰囲気や花々なども観光材料になりそうだなと思いました。南国プリンにも行きました。私自身初めてだったのですがとても美味しい上にイートインスペースは写真映えしそうな雰囲気の作りになっており、若者の集客にも力を入れていることが伺えました。若草通りは朝だからかすごく活気づいているわけではありませんでした。もう少し若草通りにお店が増えるといいなぁと思いました。今後宮崎を発展させて行くためにどんなニーズがどこで求められているのか考えて、自分にできることをしていきたいです！

27

(3) 南九州研修　HAF 報告会のポスター

(4) 生徒の感想

『新しい発見、出会い』

13HR　大石涼太

砂風呂や遠くの県の学校との交流など非日常を味わえてとてもよい経験になりました。 今回はただの旅行ではなく、研修ということで多くの講話を聞きました。実際に現地でお茶を生産している人や、青島神社の宮司さん、宮崎空港の社長の話など普段の旅行ではあまり聞くことのできない人たちの話も聞くことができ、とても貴重な経験になりました。

また、特に特効平和会館での見学は、教科書やインターネットで学ぶよりも、実際に見て、体験することでより知識が深まるということを実感しました。

宮崎の大宮高校の生徒さんたちとの交流では、宮崎市内を案内していただきました。そこで自分たちが生活している地域との共通点や異なっている点など多くのことを学びました。この経験を今後行っていく学校の地域創造探究の授業にも生かしていきたいと思います。

今この時しか味わえないこの高校生時の、この同学年のメンバーたちとの４日間の旅行はとても長いようで一瞬でながれて行きました。 今回の研修で学んだことを生かし、もっと視野を広げて、今後の学校生活も送っていこうと思います。また、これを気に今まであまり参加してこなかったこのような研修活動にも積極的に参加していきたいと思います。

『自然体験をして』

12HR　萩原真結

指宿で、日本で唯一の、世界でも珍しいと言われる天然砂むし温泉を初めて体験しました。去年の研修のパンフレットを見て、砂むし温泉ってどんな感じなんだろうと思い楽しみでした。実際に体験すると、最初は砂が重く感じましたがすぐに慣れ、温かくて気持ちがよかったです。また、天候が良く、風が心地よく吹いていたのでリラックスした時間を過ごすことができました。

宮崎市の青島神社・青島海岸ではでは長友安隆宮司の貴重な話をたくさん聞くことができました。海岸沿いには「鬼の洗濯板」と呼ばれる、海水の波の侵食によってできた自然の岩がありました。島全体がノコギリの歯のような岩に囲まれていてすごかったです。私はこのような海岸沿いにある神社には行ったことがなかったので、驚くことがいくつもありました。 研修に行くにあたって、事前学習をしていきましたが、実際に話を聞いて体験するのでは全然違いました。事前学習を含め班の人と協力して活動できとても充実した４日間になったのでよかったです。

『静岡茶と鹿児島茶について』

11HR　村松悠人

私は、静岡県と鹿児島県の茶業の違いについて知りたいと思い、それを知る機会になると思いこの南九州研修に参加しました。研修一日目に静岡のふじのくに茶の都ミュージアムに行き、副館長の白井さんの話を聞きました。茶の都ミュージアムでは静岡茶の魅力を国内外に伝え、茶業の復興を図るために、ガイドツアーやおもてなしなどのイベントをしていることが分かりました。また、急須でお茶を飲む文化が無くなりペットボトル飲料で飲むことが年々増加しているため、その対策として茶の消費文化をつくるためにワインボトル型のフィルターインボトルを作ったり日本茶カフェを作ったり海外マーケットに応じた茶商品の輸出をしていることが分かりました。

研修2日目に鹿児島県のJA南さつま本所という所で知覧茶についての話を瀬川さんに講話をしていただきました。市町別では南九州が1番お茶を生産しており、鹿児島県のほぼ半分を占めています。そこで生産されているお茶の品種は、ゆたかみどり、さえみどり、やぶきた、あさつゆの4種類です。鹿児島県でも静岡県と同様に知覧茶ブランドを世界に発信しているようです。鹿児島県南九州市は静岡県で最も茶面積の広い牧之原市よりも茶園面積があり、静岡よりも機械化が進んでいるため、荒茶の生産量が市別では1位だということもわかりました。

この研修を通して、静岡県のお茶の生産量を増やすには機械化を積極的に取り入れること、お茶を外国の方にも広く知ってもらう為にしている工夫などを知ることが出来ました。これからはこの研修で得た知識を地域活性に役立つように意識しながら、生活していきたいと思います。

『知覧特攻平和会館を見学して』

13HR　田代愛大

知覧特攻平和会館では特攻と平和についての講話を聴き、当時の若者のたちの手紙や遺品などの史料を見学しました。太平洋戦争末期に日本は特別攻撃隊を編成し敵艦に体当たり攻撃をする特攻が行われていました。知覧特攻平和会館がある場所は戦時中特攻基地として使われました。知覧特攻基地では振武隊と名付けられた特攻隊が出撃していました。陸軍特攻隊として出撃した1036人のうち、全体の4割ほどにあたる439人が知覧から出撃したとされたとおっしゃっていました。その中には17歳という若さで特攻に向かった兵士もいたそうです。展示品では、写真、遺書などの遺品約4,500点、特攻隊員の遺影 1,036 柱などが展示されていました。展示を見ていると当時の若者がどのような気持ちで特攻したのか、どのような未来を望んだのかなど様々なことを考えました。私たちと同世代の若者が国の未来を託され、どんな気持ちで死を前提に攻撃を仕掛けたのか、遺書などを読むと伝わってきました。私達の今があるのは当時戦った大勢の人がいたからと感じました。

『南九州研修を通して』

11HR　澤入百花

私は研修に参加するまで、南九州のことについてなにも知りませんでした。この研修は、その場所で地域を活性化するためにどんな取り組みをしているかを実際に見ることができたのでより知れるいい機会だったと思います。沢山ある地域づくりの取り組みの中で特に印象に残ったのは、青島地区のお話でした。青島神社は昔人気があったものの、一度観光客が減ってしまいました。その神社が再び栄えるために宮司さんがまずしたことは、道路の掃除や花を植えることでした。宮司さんのその小さな町おこしから町全体に意識が広まっていったそうです。さらに、青島の近くに海の村、海の家などを作ったり、渚の交番を作りいつでも海に入れるようにしたりしたそうです。そうすることによって、青島神社の他にも楽しめる場所が青島近辺に増え、再び観光客も増えたそうです。

私は、この話を聞いて小さな町おこしを続けたからこそ町全体にその思いが伝わったのだと感じました。自然を大切に想う、守るという気持ちの強さを聞いて、その自然を実際に見れてよかったなと思いました。この研修を通して私たちの地域でも小さなことから始めていけば、町全体の意識や行動に繋がるのではないかと思いました。些細なことでも常に地域のことを想って行動していけるようにしていきたいです。

『この地域に住む者として』

15HR　細田知輝

僕がこの南九州研修に参加したのは自分の住んでいる県を一度離れ、他の県について知りたかったからです。一日目から三日目まではみんなで決められたコースを回りました(二,三日目の夕食以外)。四日目には宮崎県の宮崎県立大宮高等学校の生徒さんと班に分かれて宮崎市内を見て回りました。見て回る前にグループごと会話の時間が与えられました。その会話の中で、自分たちの県や学校の話になったのですがうまく受け答えできませんでした。たぶんそれは、自分の県について今まで全く興味を持っていなかったからだと思います。静岡の有名なものといったら富士山とお茶と蜜柑ぐらいしか思い浮かびません。しかし、大宮高校の人たちは自分たちの市を案内してくれました。自分たちの市の案内をするということは、その街についてよく知っていないとできないことだと思うのですごいと思いました。そして、宮崎神宮に訪れた時大宮高校の人が『ここに祭られている神様はどんな神様でしょう？』とクイズを出してきてくれました。しかも、『ヒントは、ここの神様は～』とヒントも出してくれました。これを聞いて僕は、そんなに地元について知っているなんてすごい、と思いました。

研修を経て、僕は自分の住んでいる県について何も知らなすぎると痛感しました。だから、これからはもっとこの静岡県について知って、もし大宮高校の人たちみたいにこの市を案内することになって案内できるくらいにこの市について詳しくなりたいです。

２　北海道研修報告

(1) 生徒の感想

○企業訪問（カンディハウス）　　25HR　中嶋　祐貴

カンディハウスは、ともにつくる暮らしをテーマに、旭川で家具作りをしている企業です。北海道の木材を利用しており、今では約 50%の木材が北海道産であるとのことです。安全な材料を使ったり、環境負荷の軽減に努めたりするなどの取り組みを行っていました。さらに、11 か国の国と契約している、グローバルな企業でもありました。私は家具が作られる工程を初めて見ましたが、多くの人や機械が効率よく、分担していました。ただの木材が、だんだんと家具になっていく様子は、見ていてとても面白かったです。

○企業訪問（カンディハウス）　　25HR　遠藤　由菜

カンディハウス旭川の方からお話を伺い、自然の声を聞きながら家具を製造し、資源の源である森林を大切にしていることを知りました。また、北海道は全国と比較し、広葉樹林資源の割合が高く、百年かけて育つため、丈夫であることも知りました。そして、それらの木で作られた家具を修理・再生し、「百年使う」努力をしているそうです。実際に家具を作る工程を拝見し、細かい作業を行う人の手と、最新の技術が融合し、自然との調和を目指していることが伝わってきました。また、木を伐ることで日光が入り森林の再生を促すだけでなく、持続可能な資源とするために、20 年にわたり植林を行っているそうです。人の手により森林を守りつつ、資源を生かしてつくられた木の家具には、森と人をつなぐ大事な役割があると感じました。国土の７割を森林が占め、木材資源が増えている日本製の家具が、世界中に広がっていってほしいと思います。

○ヤマザキ旭川工場で学んだこと　　25HR　松本　温奈

北海道研修の二日目、私たちはヤマザキ旭川工場に訪問しました。株式会社ヤマザキ様は私たちが住んでいる静岡県にも事業所・研究所・工場があり、私たちにとって身近な企業です。北海道に工場を稼働させた理由としては、じゃがいもの原産地であるアンデス地方と似た気候であり適地適作ができることと、雪氷貯蔵を行うことで美味しい状態を長い期間保つことができるからだということです。北海道だからこそ実現できる様々なことを学び、静岡と北海道の気候の違いを再確認しました。ほかにも、土の中で働く菌を培養したり、野菜の栽培方法を研究したりと、創業１３０年を迎えた株式会社ヤマザキ様の美味しい商品づくりへのこだわりと矜持を感じることができました。また、お話をしてくださった代表取締役の山崎寛治様の「勉強は先人の遺産を無償で相続することだ」という言葉に深く感銘を受けました。その言葉を忘れずに、これからも勉学に励んでいきたいです。

○企業研修（ヤマザキ）　　23HR　鈴木　杏菜

ヤマザキでは、工場や倉庫を見て回ったり、会長の山崎様のお話を聞いたりすることができました。原料のジャガイモをどう保管すれば長く鮮度を保てるのかなどの試行錯誤の様子が見られ、今私たちがしている勉強が、こういうところで役立つことを知ることができました。勉強は進学するためにやるものと思い込んでいましたが、将来就職したときに誰かのために生かすことができると思うと、今までよりもう少し勉強を頑張ろうかと思えました。ヤマザキが、今まで様々な努力をしてきたからこその言葉をいくつも聞くことができました。また、高校生である私たちにも分かりやすく説明してくれたことでヤマザキの凄さを知ることができました。

○企業訪問（グリーンテックス）　　25HR　増田　大夢

主に土壌改良を行っていて、自然環境を守る活動をしていました。ベトナム政府と協力して、ベトナムの農業の改革にも取り組んでいました。この協力に至るまでに、何度も不採択をベトナム政府から受けていましたが、諦めない姿勢にベトナムの農業を良くしたいとの思いを感じました。単に発展させるだけでなく、現地の歴史や文化なども尊重して協力していくとのお話も素晴らしいものだと思いました。「ベトナムの方は物事を吸収する力が大きい。日本の若者も負けるな！」という強いメッセージをいただきましたので、それを意識して新たなことにチャレンジしていきたいです。

○旭山動物園　教育活動（飼育員）　　21HR　木村　胡葉

旭山動物園の飼育員の方に話をうかがいました。カバの飼育方法についてのお話では、えさの量や通り道に段差がないこと、部屋にプールがある理由などについて教えていただきました。なかでも、外にまで地面に暖房があったり、大きなエアコンがあったりという様子は、雪国の動物園ならではの工夫であり、とても印象に残っています。他の動物園との交流について、１つの動物園の限られた数しかいないなかでは、どんどん血が濃くなってしまうことを聞きました。そこで、動物園同士で動物の交換を行っていること、国内だけでなく国を越えて行っていることなど、グローバルな取り組みを知ることができました。

○旭山動物園　教育活動（飼育員）　　23HR　板倉　泉実

旭山動物園ではカバを飼育している裏側を見せていただきました。そこには数々の工夫がありました。その１つが段差がないということです。カバは歩くときに脚を高く上げることができないため、カバたちが通る道はすべて段差なく造られていました。他にも、温度管理を徹底したり、生活するところを清掃して綺麗に保ったりしていました。どのようにしたらストレスなく、安全に生活させられるかなど、全てのことが動物中心に考えられていて、愛情がとても感じられました。飼育の他に、飼育員の方のお話を聞いて驚いたことがあります。それは、旭山動物園では、展示用のパネルがすべて手作りで、１年ですべて新しいものに交換するということです。大変そうですが、お客さんに動物園を楽しんでもらいたいという気持ちが伝わってきて素敵だと思いました。仕事に情熱をもっている姿を見て、私も情熱をもって働けるような仕事を見つけたいと思いました。

○旭山動物園　教育活動（獣医）　　23HR　澤島　さくら

私たちは、この北海道研修で旭山動物園の見学をさせていただきました。獣医の裏側を知る体験では、医療現場という完全な未知の空間にとてもワクワクしました。質問コーナーでは、動物の心理やコロナの影響など、幅広い質問を丁寧に答えていただき、多くのことを学ぶことができました。お話の最後におっしゃっていた「獣医はまだまだわからないことが多いのが面白い。僕たちは動物を介して人と関わっている。」という言葉が印象に深く残っています。私たちもいずれ働くことになります。“仕事”は必ず誰かのためにあると言いますが、人との繋がりが希薄になっている現代だからこそ、その「誰か」を思いながら働くことに大きな意義があると感じました。私たちは、大学進学ばかりに目がいきがちですが、自分の進路のその先、働くことの意義や目的を見つめ直すことで、今後の進路選択に活かしていけたらと思いました。

○アイヌ文化に触れて　　21HR　榛地　希

私は４泊５日の北海道研修の中で特に、３日目に行ったウポポイでアイヌ文化に触れたことが心に残っています。私はアイヌ文化について言葉しか知りませんでしたが、今回の研修で、アイヌ文化はどのようなものなのかを自分の目で確かめることができました。ウポポイでは、アイヌの伝統的な踊り、歌、語りを鑑賞したり、アイヌ民族の衣食住の展示を見たりしました。アイヌの踊り、歌は、動きや声が大きく迫力があり、どんどん引き込まれました。語りは幻想的で、子どもから大人まで楽しめるなと感じました。展示スペースでは、アイヌならではの派手な服、祭典のときに使う道具、食器などたくさんの物がありました。これらは、実際にアイヌ文化を継いだ人からの寄付によるものや、アイヌ文化を後世に伝えたい人によって再現されたものでした。また、建物のあらゆるところにアイヌ語があり、身近に感じることができました。私は、この体験を通してアイヌ文化を深く知るとともに、大切な文化として途絶しないように守っていきたいと思いました。

○卒業生講話　　22HR　朝倉　直人

今回の講話を聞いて、これからどうやって大学を決めるのかそしてどのように勉強をしていくのかなどなど学ぶことが出来ました。特にためになった方法として大きく 3 つあります。

1.まずは目標の設定つまり自分がやりたいことを見つけることです。今まで私は目標も立てずにただやっていただけなので目標を立てたいと思います。

2.勉強はなるべく早い段階から始める。確かに私もそう思います。でも頭で分かっていても行動に出せてないので今日から頑張っていきます。

3.自分が行きたい大学について調べる。

今までの私は特にやりたいことが決まらなくてとりあえず皆が行く所にしようと思っていたんですが、この講話を聞いてもっと自分の事なのだからしっかりと責任を持ってやるべきだなと思いました。そして自分にあった大学を見つけます。また勉強は好きでは無いので、勉強方法が分からなかったんですが英語や数学の勉強方法を聞いてすごい役に立っています。本当にありがとうございます。効果がすぐには出ないかもしれませんが来年の受験頑張ります。本当にありがとうございました。

○北海道大学訪問　　22HR　山本紘史

北海道大学では、鈴木教授に感染症についての講義をしていただきました。

まさに今の時代は感染症への関心は非常に高く、多くの人の頭にまず浮かぶのは COVID-19 だと思います。しかしこの他にも多種にわたる細菌やウイルスが存在し、危険度ごとに BSL というランク分けがされています。とくに結核という感染症は、1 度落ち着いたため過去のものというイメージを持つ人もいるかもしれませんが、それによる予防意識の低下や多剤耐性菌の登場によって再興しつつあり、まさに現代の病とも言えるのだそうです。

また、COVID-19 についてザンビアからの留学生に「ザンビアではワクチンや医療設備は整っているか。」と質問したところ、「それ以前に正しい知識と情報が足りない。」という返事をいただきました。私は、同じ感染症でも必要な対策が違っていることに驚きました。

感染症に限らず、目の前のイメージや目に見えるもののみに頼ることの危険性を感じることの出来る機会となりました。

○札幌開成中等教育学校との交流　　22HR　原口　椋成

今回の北海道研修で僕たちは札幌開成中等教育学校の皆さんと交流させて戴きました。

僕が札幌中等教育学校との交流で学んだことは、二つあります。一つ目は北海道大学に行った時です。留学生の話の時に開成中等の方々は英語での質問がたくさんできていましたが、榛原高校生はあまりできていませんででした。だから僕は英語は書くだけではなく、話す練習をもっと多くしたほうがいいのだと思いました。二つ目はコミュニケーション力です。最初のお互いの高校について説明するときに 3 年生の方のプレゼンが、とてもわかりやすくそして、他の開成の皆さんは反応をたくさんしていました。三年生の方はプレゼンをして大学に推薦合格したと言っていたのでやはり話す力は重要だと言うことを学びました。この二つのことから僕は「話す」ということを多くしてみようと思いました。

この交流はとても価値あるもので楽しかったです。

５　事例報告

5-1　１年生「地域創造探究Ⅰ」

(1) 成果と課題

１年生の総合的な探究の時間が「地域創造探究Ⅰ」と学校設定教科とされ、予定通り実践を行うことができた。次年度に向けては、１年生の探究時間の経験を活かし、発展的な探究活動の研究開発を行う予定である。また、学校設定教科（科目）先進校視察などの取り組みを引き続き行う必要がある。

(2) 事例（外部講師の活用）

令和３年度　企業人講話（第９回地域創造探究Ⅰ）要項

（１）目的

地元企業及び行政関係者の講話を実施し、地域に関する認識を深めるとともに、地域社会に積極的に携わり課題を協働的に解決する力を育成する。また、企業人のキャリアを学び、自身の進路意識の向上を図る。

（２）日時

令和３年７月 20 日（火）　１～４限　8:40～12:10

（３）場所

静岡県立榛原高等学校　１学年各教室

（４）講師

講師 (敬称略)	企業	場所	演題
永田（ながた）　さおり 都築（つづき）　潤也（じゅんや）	富士山静岡空港（株）	11HR	将来の夢に向かって
原田（はらだ）　佳典（よしのり）	島田掛川信用金庫	12HR	地域とともに
大石（おおいし）　斉（ひとし） 豊島（とよしま）　宏恵（ひろえ）	矢崎部品（株）ものづくりセンター	13HR	グローバル矢崎のスピリット -サモアへの恩返し-
岡（おか）　健太郎（けんたろう）	（株）伊藤園	14HR	世界のティーカンパニーへ
松田（まつだ）　仁（ひとし）	ＴＤＫ株式会社	247 教室	Boys be ambitions 2 ～少年よ大志を抱け～
山崎（やまざき）　寛治（かんじ） 川口　ひとみ	株式会社ヤマザキ	15HR	家庭料理は社会分業になるか

（５）その他

○持ち物

筆記用具、スコラ手帳、企業人講話のワークシート（２枚）、事前調査の成果物、地域創造探究Ⅰファイル

○注意事項

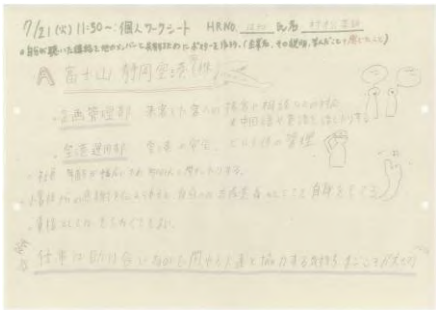
講話は２回あるので、それぞれの教室及び講話後の共有グループを確認しておくこと。

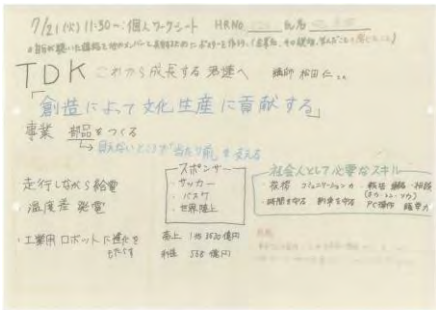
タイムスケジュールおよび役割分担

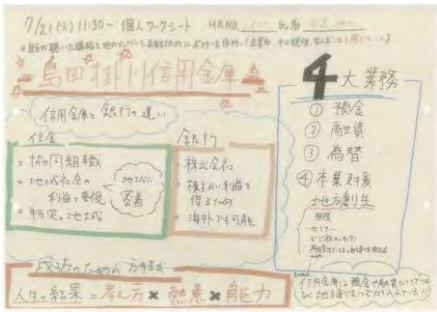
時程	内容	活動	備考
８：２０～	朝ＳＨＲ	【担任】注意事項など説明 【生徒】自分のｸﾞﾙｰﾌﾟ・教室を確認 【生徒２名】荷物を取りに行く（職員室）	
８：３０ ～ ８：４０	講師来校	【原口】来客対応 【校長・事務室】挨拶等 【講師】受付後応接室へ移動	講師への説明・確認 写真撮影の可否
８：４０～ ９：００	事前指導	【生徒】１回目の講話グループの教室に着席 【代表生徒】ファシリテーター ・着席指導、本時の目標、流れの説明 ・付箋、Ａ３、Ａ４用紙等配布 【副担任】応接室へ講師を迎えに行く	講師用の椅子等準備 プロジェクタ準備
９：００～ ９：３０	企業人講話 ①	【代表生徒】ファシリテーター ・講師紹介→講話開始	【各副担任】写真撮影 ※１３ＨＲについては、動画中は写真不可
９：３０～ １０：００	振り返り ワークショップ①	【代表生徒】ファシリテーター ・個人ワーク（５分）…付箋に書き出し ・共有タイム（15 分）…グルーピングと質問提示。 ・質問タイム（10 分）…講師による返答	
１０：００～ １０：１５	講師移動 ・休憩	【生徒】教室移動	
１０：１５～ １０：４５	企業人講話 ②	【代表生徒】ファシリテーター ・講師紹介→講話開始	【各副担任】写真撮影 ※１３ＨＲについては、動画中は写真不可
１０：４５～ １１：１５	振り返り ワークショップ②	【代表生徒】ファシリテーター ・個人ワーク（５分）…付箋に書き出し ・共有タイム（15 分）…グルーピングと質問提示。 ・質問タイム（10 分）…講師による返答	
１１：１５～ １１：３０	講師退場 生徒移動 休憩	【副担任】講師を控室へ送りに行く 【学年主任】講師へ挨拶 【生徒】自分の HR へ移動	共有班で座る （４から６班）
１１：３０～ １２：１０	発表 ＋ 振り返り	【副担任】進行 ・個人ワーク（15 分）…内容共有準備 ・共有タイム（２分×６人）…共有 ・個人ワーク（10 分）…企業人講話を振り返り	振り返り記入後 副担任へ提出

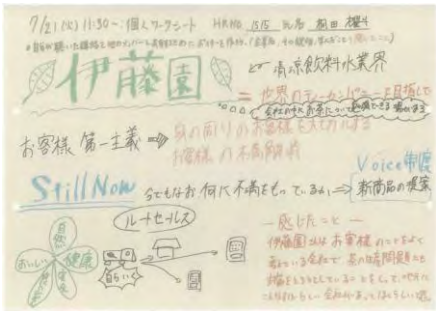
(3) 学習成果の発信（ポスターセッション）【令和３年７月 20 日（火）各教室】

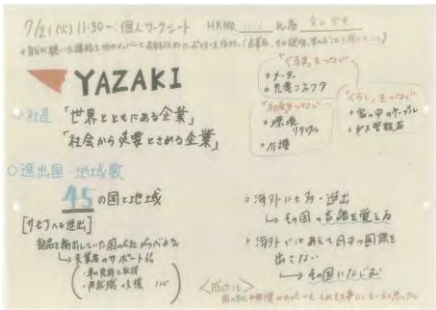
各自Ａ３サイズのポスターを作成し、各ＨＲにて発表を実施。

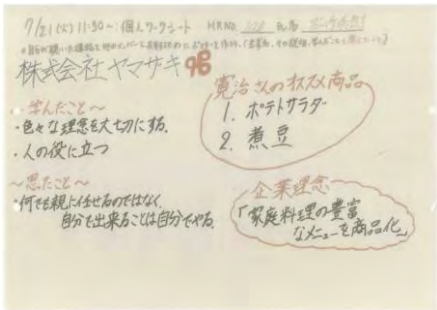




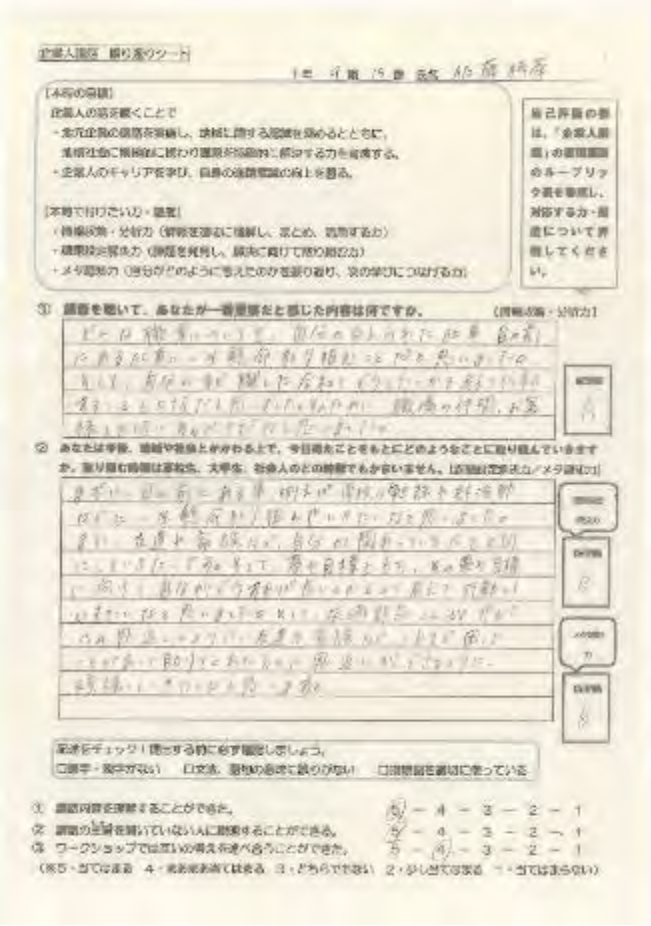








(4) 振り返りシートと評価



(5) 事例２（外部講師の活用）

令和３年度　出前講座「地域の課題を知ろう」（第 10 回地域創造探究Ⅰ）要項

（１）　目的

下記９項目のうちの一つの講話を聴き、関連する「地域の課題」を知り、今後自分たちが探究していくテーマを探す（自分たちが選んだテーマに関して、具体的にどんなことを探究していくかを見つけるヒントとする）。

（２）　日時

令和３年９月７日（火）　６～７限　１４：１５～１６：０５

（３）　場所

静岡県立榛原高等学校　１学年各教室

（４）テーマと講師

テーマ	所属・講師（敬称略）	講話形式	教室
観光	一般社団法人まきのはら活性化センター 中山　史一	オンライン	11ＨＲ
防災	牧之原市役所　危機管理課 谷澤　昂亮	来校	12ＨＲ
子ども	・みらい子育てネット 神谷　章子 増田　美紀 ・みらい子育てネット・榛原児童館 片瀬　紀子	来校	243 教室
高齢者	憩いの家　みち 石津　道弘	来校	13ＨＲ
地域づくり	牧之原市役所　長寿介護課 宮崎　真菜	来校	14ＨＲ
ジェンダー	フリージア 鈴木　かおり	来校 オンライン	246 教室
農業	株式会社大石農園 谷口　恵世	来校	247 教室
医療	榛原総合病院組合 植松　順弘	来校	15ＨＲ
教育	牧之原市役所　共育文化部 内山　卓也	来校	236 教室

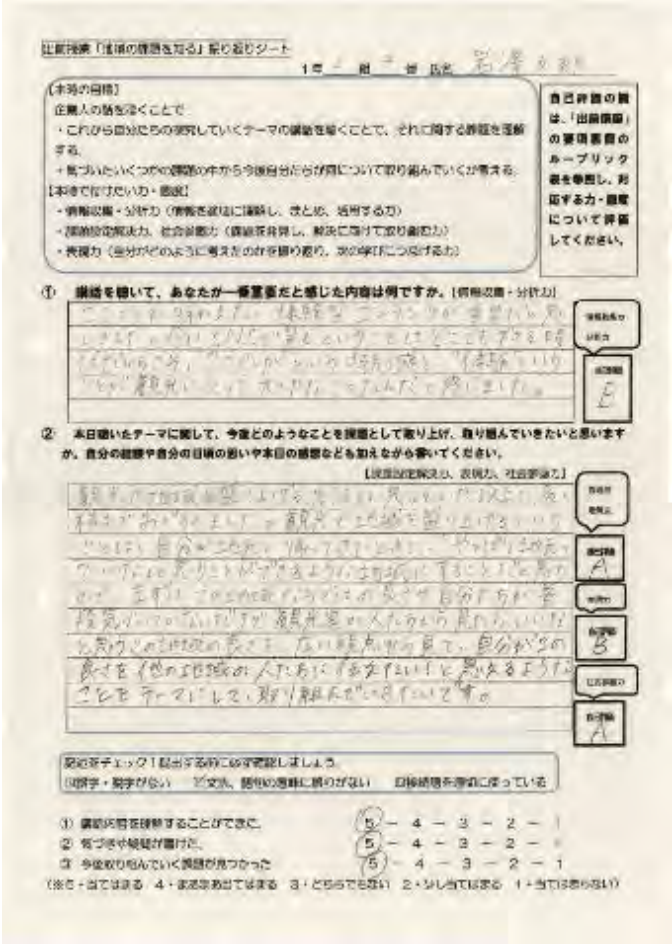
（５）生徒の持ち物

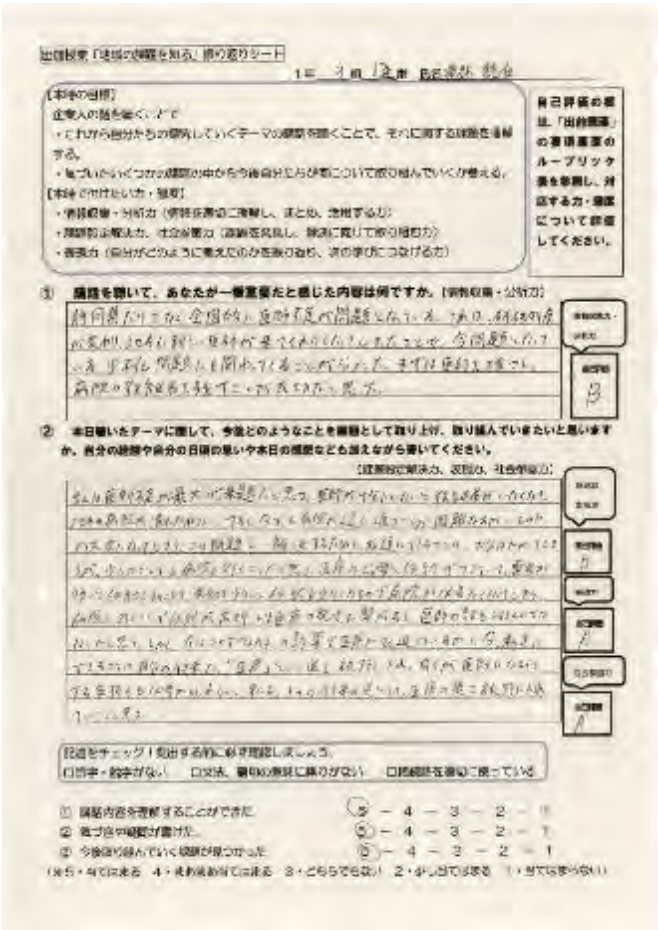
①筆記用具　②スコラ手帳　③地域創造探究Ⅰのファイル

タイムスケジュールおよび役割分担

時程	内容	活動	備考
８：２０～	朝ＳＨＲ	【担任】注意事項など説明 【生徒】自分のｸﾞﾙｰﾌﾟ・教室を確認 （前回の企業人講話の時のイメージ）	備品の準備
１３：４５	講師来校	【原口】来客対応、教室へ案内 【校長・事務室】挨拶等 【講師】受付後応接室へ移動	・講師への説明等 ・写真撮影の可否
１４：１５ ～ １５：０５	講話	【生徒】テーマ別に着席完了 【正副担任】進行 ・本時の目標・流れ等の説明、講師紹介、講師へ挨拶（５分） 【講師】各項目に関する現状と課題の紹介など（３０～４０分） 【生徒】手帳にメモを取る オンラインの教室 iPad、Apple TV、プロジェクタを接続、スクリーンへ投影確認(スタンド使用)	【正副担任】 進行・写真撮影
１５：０５ ～ １５：１５	休憩	生徒の部屋の移動無し	
１５：１５ ～ １５：２０	振り返り	【生徒】個人ワーク ・一人１０枚程度気づきや、疑問を付箋に書く	【正副担任】 進行・写真撮影
１５：２０ ～ １５：３０	振り返り 共有 タイム	＜手順＞ ①班長からＡ３用紙に付箋を貼る ②Ａ３用紙は班内で回させ、班長以下には、似た意見をまとめながら貼る ③Ａ３用紙が班長まで戻ってきたら、班長が、発表する意見（１～２点）と、質問（１～２点）を決める	※あまり話さないやり方で実施（コロナ感染拡大の影響のため） オンラインの教室 i-pad をスタンドから外し、生徒の様子を適宜写し、講師に活動の様子を見せる。
１５：３０ ～ １５：５０	意見発表 ・ 質疑応答	＜やり方＞ 【班長】発表 ・質問はＡ４用紙に大きく記入 ・意見を発表後、質問の書かれたＡ４用紙を黒板に貼る 【講師】回答	
１５：５０ ～ １６：００	振り返り シート 記入等	講師へお礼、あいさつ・片付け等	【生徒】 各用紙・振り返りシートの提出

(6) 振り返りシートと評価





(7) 成果と課題

１年生では、「地域課題探究」の学習を中心に展開し、２年次ではさらなる発展的な探究活動に取り組めることを目的としている。新型コロナウイルスの感染拡大はあったものの、インターネット環境を最大限に利用することや、昨年度までの研究の成果を継承することで、学校設定科目としての活動をすることができた。一方で、探究のテーマ設定の仕方と探究時間の確保について課題がある。生徒の興味・関心に重きを置きながら、地域社会との結びつきのあるテーマについて探究できることや、十分な探究ができるようなスケジュールとはどういうもので、探究に関連したフィールドワークをどのように取り入れていくのかを慎重に吟味する必要がある。

5-2　２年生「総合的な探究の時間」

(1) 年間指導計画と実施内容（計画変更後）

	実施項目	時期	内容
修学旅行探究（グローバル課題探究）	修学旅行探究（地域課題探究）	７～11 月	班及び個人で探究テーマを設定し、仮説、現地での研修計画を立て、地域の課題について比較検討する。
	修学旅行探究（中間報告会）	11 月	修学旅行探究について、これまでの学びをまとめ、発表を通して共有し、新たな課題等を検討する。
	修学旅行	11～12 月	四国（愛媛・香川）・中国（広島・岡山）・関西（兵庫・奈良）　３泊４日
	HAF 発表会・HAF 成果報告会	１・２月	1 年生「地域創造探究」、２年生「総合的な探究の時間」、国内研修等の各種探究活動について、発表を通して共有を行う。
	修学旅行探究（まとめと振り返り）	12～２月	現地フィールドワークのまとめ、探究レポートの作成と発表および相互評価、修学旅行探究全体の自己評価を行う。
キャリア探究	学部学科・学問研究	６月	『逆引き辞典』や取り寄せた大学パンフレット等から自分の興味関心・分野を探り、学部学科研究や志望校選定に役立てる。
	キャリアデザイン講演会	６月	大学職員と大学生による講義および演習を通して、キャリア形成上必要となる素養を身に付ける。
	夢ナビライブプログラム参加・参加レポート作成	５～８月	国公私立大合同進学オンラインイベント「夢ナビライブ」に参加して大学の研究室訪問や講義を受講し、その学びを報告することで自身の興味・関心に沿った進路実現について検討する。
	オープンキャンパス参加・まとめ・報告会	８～９月	オープンキャンパス参加・レポート作成、レポート報告会の実施。
	志望理由書の作成	９～２月	キャリア形成の視点から、なぜその大学・学部・専門分野等を目指すのかについて情報収集し整理分析した内容を「志望理由書」としてまとめ、進路決定への原動力とする。

(2) 事例（研修旅行探究）

2021年4月13日　第１回　榛高タイム「ガイダンス」生徒用資料（「修学旅行探究」編）

令和３年度　２年生「榛高タイム」について

１．３年間の榛高タイムで身につけてほしいこと

探究的な学習や進路学習を通して、自ら考え判断したり、他者と協働したりしながら課題解決の学び方を身につけるとともに、地域や社会に積極的に目を向けることで、自分の強みを生かしてどのように将来の社会に貢献できるか、考えることができるようになること。

２．各学年の目標

（１）１年生：①身近な社会を知る。　②地域の課題解決学習を通じて、キャリア教育を推進する。

（２）２年生：視野を広げ地域の課題を相対化し、職業選択に向けての視野を得る。

（３）３年生：将来の職業選択の具現化と社会の関わりを意識した自己表現力を身に付ける。

３．２年生でやること　～　修学旅行探究・進路探究　～

＜＜＜　「修学旅行探究」について　＞＞＞

１学期

昨年度の地域探究の経験
＋　旅行先の資料をもとに…

【個人の「テーマ」決定】

近しい「テーマ」で探究班を結成
（一緒に修学旅行を周るグループではない。）

【班での探究活動】
（課題設定、情報収集、整理分析、まとめ・表現）
をそれぞれで進める。

昨年度と、ここが違う！！

①**最終的には、個人でテーマを突き詰める。**（最終的なまとめ・発表は個人）
＜なぜ班？＞情報収集等を分担したり、対話を通して探究のプロセス深めるため。

②１年生の時以上に、**「フィールドワーク」による情報収集を充実**する。
学校外でのモノ・出来事・人との出会う！　必要があれば、休日や夏休みを利用する。

③ある程度、**「仮説（かせつ）」をたてる。**（こういうことではないか？　こういう結果になりそう等）
現地調査で仮説の内容を検証するなど、探究を進める中で新たな課題に気づきやすくなる。

２学期

【中間報告（修学旅行前）】
修学旅行前に、ある程度の成果をまとめる。
⇒「現地調査で本当に必要な情報は何か？」
「そもそもテーマはこれでよい？」等を練り直す！

探究と並行して、行き先の情報を細かく調べる。
⇒自由行動時間について「研修計画書」を作成する。

【修学旅行】

各自でフィールドワーク
写真・動画撮影、インタビュー、
各種資料（現物）の収集

３学期

【旅行後のまとめ】
・中間報告で作成した内容に、
現地でのフィールドワークの成果を加える。
・最終的には、個人探究レポートにまとめる。

【報告会】・【振り返り】
・各自の探究成果を発表し、
お互いに共有する。
・１年間の自分の探究を振り返る。

修学旅行探究　第８回　榛高タイム（中間報告会）実施要項

２年＿＿＿組＿＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

目　　的　：　①修学旅行探究の中間報告を実施し、まとめた情報を自分の言葉で表現する。
②修学旅行探究や現地でのフィールドワークに向けて、新たな課題を発見する。

日　　時　：　令和３年 11 月２日（火）　７限　15：15～16：05

場　　所　：　体育館

タイムスケジュールおよび役割分担

時程	内容	活動	備考
～15：15	教室移動	体育館へ移動する グループ別で座る	修学旅行委員が交通整理
15：15 ～15：20	準備	本日のグループ別で座り、資料などを受け取る	修学旅行委員で手分けする
15：20 ～15：25	概要説明	本日の概要説明	修学旅行委員
ｾｯｼｮﾝ１ 15：25 ～15：41 移動３分 ｾｯｼｮﾝ２ 15：45 ～16：01	中間報告会	最初のグループで報告会 A3 のレポートを見せながら、 テーマの設定理由、仮説、これまでの調査内容、現地フィールドワークの予定などを報告 １セッションの流れ HRNO が小さい順に、 一人につき報告３分、質問１分 →　順番に報告・質問する。×４人 ・２セッション目への移動は一斉に行う。 ・時間が余ったら、質問や探究を深める対話を。	タイムキーパー（牧野） バスケ部のタイマー使用 教員 ・報告を聴く、質問する・写真等撮影など
16：01～ 16：05	振り返り	質問で出た内容などを、A3 の中間報告レポートの裏面に記載する。	
16：05	授業終了		修学旅行委員

報告する人が大切にすべきこと。

①相手が聞き取りやすいように、
　大きく・ゆっくり・はっきりと話そう。
②相手に伝わっているか、時々反応を
　見ながら、わかりやすく伝えよう。
③２回目は、１回目より良い報告を目指そう。

聴く人が大切にすべきこと

①目・耳・体で聴こう（傾聴）。
②否定ではなく、よかったところやわかったこと、質問を考えよう。
　質問はお互いの理解を深めます。
③報告が終わったら拍手をしよう。

(3) 学習成果の発信（学習成果レポート）

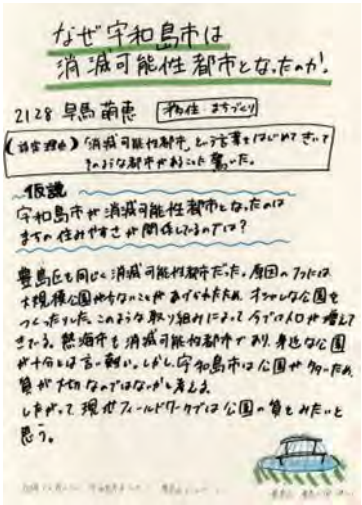
ア　修学旅行探究・探究テーマの一例（2021 年７月 22 日時点）

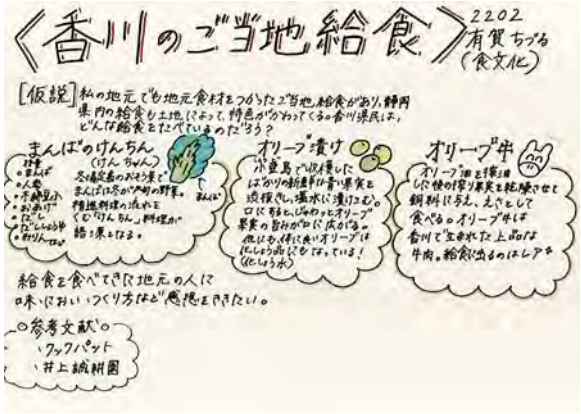
大テーマ		個人探究テーマ
1	環境・自然	静岡の海と淡路の海なにが違うのか
2	歴史	なぜ他の城と違い、姫路城は世界遺産となれたのか？
3	食文化	四国と静岡の郷土料理の特徴の違い
4	観光	観光地のパンフレット　～人々をひきつける理由～
5	まちづくり	四国と静岡で人口減少への対策に差はあるか
6	生活文化	どんな方言がある？また、静岡県との違いは？
7	産業	離島の経済は、どんな産業、また特産品、観光資源を利用しているのか？
8	移住	宇和島市はなぜ「消滅可能性都市」となってしまったのか？

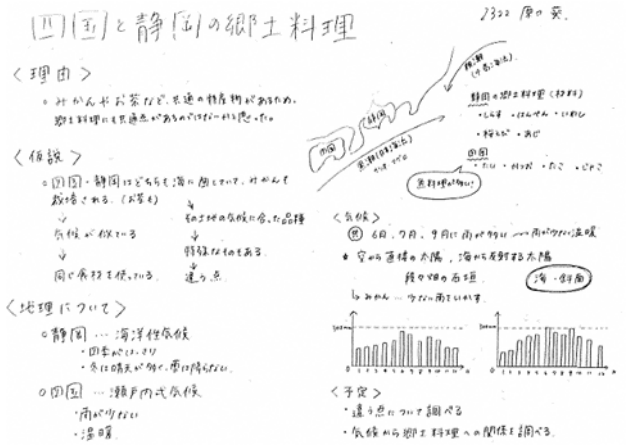
イ　修学旅行探究・中間報告会のグループ数（各グループ３～４人）

1	環境・自然	５つ	2	歴史	３つ	3	食文化	８つ	4	観光	６つ
5	まちづくり	４つ	6	生活文化	６つ	7	産業	４つ	8	移住	３つ

ウ　修学旅行探究・中間報告のポスターの一例







エ　修学旅行探究・探究レポートの一例

HRNQ2121石井香奈

1 テーマ

「歴史と映えから見る宇和島城と城路城」

2 テーマを決めた理由

今回の修学旅行のコース決めで宇和島という所におぶ城がある事を初めて知った。私達の3日目のコースでは城路城を見学することが出来たので、この2つの城を歴史的観点と外観及び内装、城の周辺の景色から比較してみた。

3 仮説

仮説として実物の城を見る前の私の印象と下調べの段階で情報を集めた。

・城路城……愛媛県宇和島市にあるわる城。

1993 年(平成5年)にユネスコ世界文化遺産に登録された。

— 世界遺産に登録されているからきっとさぞいものなのだろう。

・宇和島城……伊達家に関係があるらしい。現存している城は1601年に修築された

・初めて名前を知った城なのであまり印象には残らなかった。

4 検証

(1)歴史的観点で比べる

武勇の春

城路城……1333年に城山に築かれた砦

13年後の1346年高松貞範によって本格的な城が築かれる

宇和島城……1601年に修築された天守

領城法度に違反した武将、藤堂高虎によって建てられた

現在の姿型になった年

城路城……1617年頃、本多忠勝が城路城主になると三の丸、西の丸等が増築された。

宇和島城……1699年頃伊達宗利によって現存している城の天守が完成。その天守は松本城や彦根城等と合わせ国内12天守と呼ばれている

興味の秋

明治維新……1868年、明治政府が領地と領民を天皇に返還した

宇和島城……1615年に伊達秀宗が入城して以来、宇和島伊達家が9代に渡り幕末まで城主になる。

(2)外観や内装、周りの景色で比べる

実際に城を見た時に感じた感想や雰囲気を比べてみる

・城路城

～外観と天守までの道のり～

迫力満点！！！

城路城は山に天守がある山城のため、城に入るには山を登らなければいけない。私達が城路城を訪れたのは雨が降っていたこともあり閉鎖されていると思いきや、雨は止んでいたこともあり閉鎖されているとはいえ、地面がぬかるんで歩きづらかったことを覚えている。若型の雨は天守が閉鎖されていないのでまだ大丈夫だったが、閉鎖が建てられていないであろう戦国の時代にこの城が攻めようとした武士達はどうだろう。

城から帰る時に撮った山道

また道のりには城山公園や城山駅があり、地元の観光園地がお弁当でこの城山公園で遊んでいるのを見かけた。

山を登りきると開けた場所に宇和島城天守が建っていた山を登るのが嫌にならない程の美しさだった。

城が見えた時はとても感動した。城道の道中自信は高かったため現場の空気だったが近くで見た宇和島城はやはり迫力があった。

近くから撮った宇和島城

～内装～

中は3階、3階建てになっておりかなりこじんまりとした感じの天守だった。

天守内には天守閣時の模型や城の絵巻の写真が飾られていた。

しかし写真としや説明問など教で使われるような仕掛けがあまり見られなかった。

～内装～

天守内に入ってみると城路城などに関する展示品が多く飾られていた。

やはり人工の観光化として展示の経緯は色さだった。

また、武者鎧や刀等としなど等展示して使われるものも飾っていた。

ちなみに城路城内で武士が使用する武具を飾する「武具掛け」には城内があり、1例に10人分の武具をかけられるようになっている。これによって戦国において、何人が戦場に出ているかがひと目で分かるようになっている。

また古い建物に特有の急な階段は上の段になるにつれて広くなっていた

広上の段になるとみ長が低い私でもギリギリくらいだった。

信長たちから続った天守～

～周回の景色～

天守の窓からは周りの門や窓だけではなく

建路の市が一望できた。訪れたのは12月頃前だったが紅葉している木々もよく見られた

建路城には修学旅行中に写真を撮ったが、

城からすぐ目の前に海のような美しい目の

前盆地やさまざまな物語があり、遠目にも

多くの人で賑わっていた。

土産物屋には宝島だけではなく海賊城のキャラ

であるパしちゃるひめ のキーホルダーや記念の

メダルなども売っていた

建路城内の窓から見える景色

～まとめ～

宇和島城は山に天守がある山城のため城に入るには

山を登らなければいけない。私達が宇和島城を訪れた

のは雨降前の日だったが、その日は

雨が降っていたこともあり閉鎖されていると思いきや、

地面がぬかるんで歩きづらかったことを覚えている。

若型の雨は天守が閉鎖されていないのでまだ大丈夫だったが、

閉鎖が建てられていないであろう戦国の時代に

この城が攻めようとした武士達はどうだろう。

また道のりには城山公園や城山駅があり、地元の観光園地

がお弁当でこの城山公園で遊んでいるのを見かけた。

山を登りきると開けた場所に宇和島城天守が建っていた

山を登るのが嫌にならない程の美しさだった。

城が見えた時はとても感動した。城道の道中自信は高かった

ため現場の空気だったが近くで見た宇和島城は

やはり迫力があった。

～内装～

中は3階、3階建てになっておりかなりこじんまりとした感じの天守だった。

天守内には天守閣時の模型や城の絵巻の写真が飾られていた。

しかし写真としや説明問など教で使われるような仕掛けがあまり見られなかった。

後日インターネットでしべたところ、天守としての武備が備れて領主の権威を示すことに

重点を置かれあるようになった江戸時代の約化程が表

明を現した可能性に式公(宝物の上から)日の1段飾い

たりなど宇和島は現在12天守の中でも江戸時代の約

～周回の景色～

山を登った後、1時間程に私が活動したのは天守閣から

見える景色だった。天守までたどり着いた時、ちょうど

雨がかかっているのが見えた。しかもくっきりはっきり

見ることができた。曇天あまり明るい見る程度が無いので

展望で見ることができて綺麗に残っている。

宇和島城で観測できた例

城全体が天守で上の位置に位置しているので

宇和島城とのツーショットは撮れなかった～

天守閣上階の3階からは宇和島湾や城へ行くために

歩いた道が一望できた。

城路城は天守から城内の眺りや建などが見えたが、

宇和島城は独立式の天守のため宇和島の街や

その海の角々が見えた。また城自体が

山の上に建てられているので人間に登らなくても

良い景色が見られた。大守閣からの景色は上に宇和島の

街並みが見られた。

宇和島城の近くは木々に囲まれていることもあり、

土産物屋などはなかったと思う。電話した道中にある

城山駅と駅によってみると宇和島は久しぶりにゆかりが

あるらしい。

宇和島城天守内の窓から見える景色～

5 結論

・城路城……豊臣秀吉がはじめとした様々な武将によって建造された歴史的な建造物のある城

であり、権力誇示様式などが出たり「戦いのための要塞」としての役が強いている。

・宇和島城……領域の名手藤堂高虎によって建てられた独立式の天守を持つ城であり、

山の上の登りづらい地形を生かした山城として主に宇和島伊達家によって使用されてきた。

現在では領主の威容を示す江戸時代の様式を表現したものになっている。天守は現存12天守と

呼ばれている。

6 探究を行ってのまとめ

今回の探究で城跡や歴史上の出来者などが分かるようたつの城について調べて学んだ。

実際は城についての歴史などあまり知らず、城は大体城とような地だと思っていたが2つの城

の歴史を知り、実際に訪れた事でそれぞれの城の全く違う魅力や特徴を知ることができた。また、

城路城の三井物産などで悩いている方や宇和島城は城山駅と思うなどで悩いている方

を見て「このように私達が体験した体験をすることができたのはその地域で動く人達がいるから

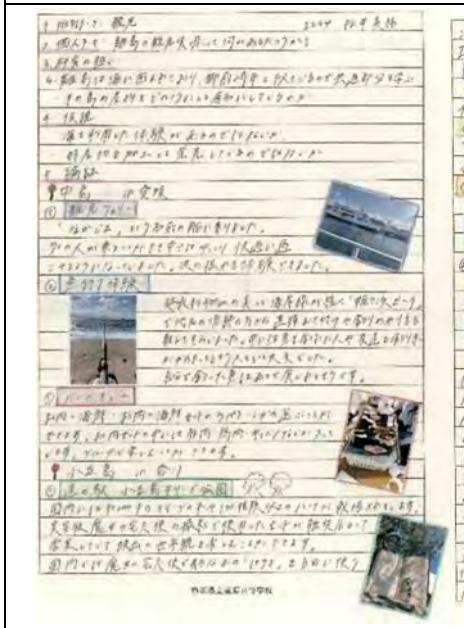
だと思った。もちろん城以外にも様々な地域で、様々な場所で働く方がいることを忘れてはいけ

ないと思う。私は将来地域で暮らし、動く方に住みやすい地域作っていけるようになりたい。

7 参考

http://ja.wikipedia.org 「ウィキペディア」

http://www.ryokan.ehime.jp 「愛媛県公式サイト」



方言について

研究のねらい

私は最近方言があまり使われなくなっているという記事を見ました。SNSなどが発達したりしたおかげで、標準語を使う人が多くなり、方言が使われることが少なくなっていると書かれていました。そこで私は調べて出てくる方言が実際どのくらい使われているのかをアンケートで調べたいと思いました。

仮説

お年寄りの方が方言を多く使っていて、歳が若くなるほど方言が使われていない。調べてでてくる方言の5～7割ぐらいが使われている。

検証

私は道後(愛媛)でフィールドワークをしました。時間があまりなく、多くの人からアンケートの結果をもらうことはできませんでしたが、数人の方にアンケートに協力していただきました。アンケートは20～30代の女性の方に協力していただきました。

結果はこのようになりました。アンケートは愛媛県だけでなく、修学旅行で行く県全ての方言を入れました。そのほかの他の県で使われている方言も愛媛で使うことがあるとわかりました。葉が入った方言の中にも、東海の方で使われる疲れたという意味の「えらい」宮崎、鹿児島の方で使われるラーフルが愛媛でも使われているようです。近畿地方や中国地方の方言にも葉が入りました。アンケートに答えてくだきった方々全員が使っていると答えたのは「なおす」で関西の方言となりました。

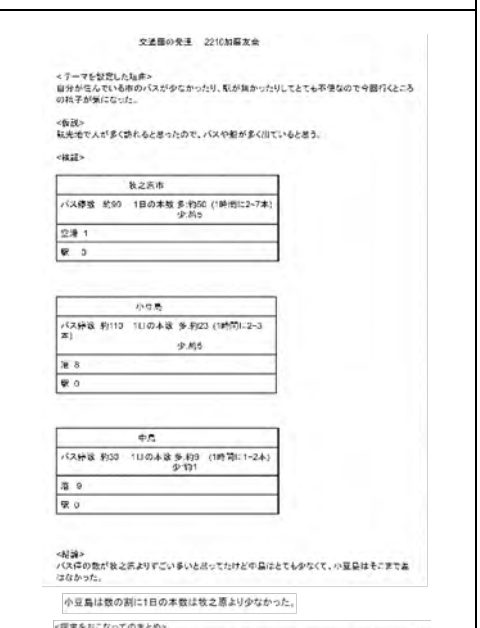
結論

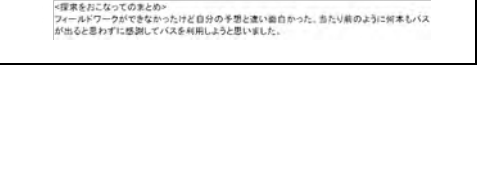
アンケートをとった結果、意外と愛媛県の方言は今でも使われていることがわかりました。今回アンケートに答えてくれた方々は20～30代の女性の方々だったので、10代ではあまり使われていなかったりするかもしれません。愛媛県の方言は可愛い方言ランキングで8位という上位なので、女性の方は方言を使うことに嫌だという気持ちがないのかもしれないと思いました。愛媛県の方言以外にも、関西弁などをアンケートに入れたお陰で愛媛県では関西や中国地方で使われている方言も使われていることがわかりました。昔よりも移動が楽になったため、近くの県の方言も使われるようになったのかなと思いました。

まとめ・感想

今回探究のためにアンケートを実施した結果、話しかけるタイミングが掴めず店員さんにしかアンケートを渡すことができませんでした。観光地ではどの方が地元の人で、どの方が観光客なのかが判別できなかったため、地元のことを知るためのアンケートは観光地から外れている場所で行ったらうまく行くかなと思いました。その中で快くアンケートを受けてくださった道後商店街の方々に感謝したいです。今回男性や高齢の方、10代の方などにはアンケートができなかったので、次にアンケートをとることがあれば、いろいろな年代、性別の人に調査したいと思います。

2





交通量の発生　2210加藤友会

＜テーマを設定した理由＞

自分が住んでいる市のバスが少なかったり、駅が無かったりしてとても不便なので今回行くところの町子が気になった。

＜仮説＞

秘境地で人が多く訪れると思ったので、バスや駅が多く出ていると思う。

＜検証＞

牧之原市
バス停数　約50　1日の本数 多:約50（1時間に2~7本）少:約5
空港 1
駅　0

小豆島
バス停数 約113　1日の本数 多:約23（1時間に2~3本）少:約5
港 8
駅 0

中島
バス停数 約30　1日の本数 多:約9（1時間に1~2本）少:約1
港 9
駅 0

＜結論＞

バス停の数が牧之原よりずこい多いと思ったけど中島はとても少なくて、小豆島はそこまで変はなかった。

小豆島は数の割に1日の本数は他より少なかった。

＜探求をおこなってのまとめ＞

フィールドワークができなかったけど自分の予想と違い面白かった。当たり前のように何本もバスが出ると思わずに感謝してバスを利用しようと思いました。

オ　進路探究・志望理由書の例

〈初回〉

私は将来、世の中を便利にさせる電化製品を設計したいと考えています。そして、その製品を通して、多くの人を幸せにさせたいと考えています。

私が設計をしたいと思ったきっかけは、小さい頃から、ブロックや折り紙を使って工作することが好きでした。中学生になってからは、機械やロボットが好きになり、生活をしている中で、「こうだったらいいのに」と考えるようにもなりました。そして私は、自分が考えた物を設計し、形にさせたいと思うようになりました。

現在の日本は、ここ数十年で技術が急速に進歩し、世界的に見ても、工業国であると言えると思います。そのため、日本のどこに行っても電化製品があり、今の世の中では、必要不可決なものになってきています。そしてこれからも、日本の技術力は進歩し続けて行くと思います。そんな中、貴学で電子情報システムについて詳しく学び、より便利で使いやすい電化製品を開発できるようになりたいと思っています。

貴学の電気電子実験では、強電、弱電問わず理論実証と素子動作に関する実験演習ができ、他にも様々な実験が行えるため、研究や開発に必要な能力を獲得できます。また、この学科には電気電子プログラムがあり、そこでは私が将来必要となる情報、設計、開発の全てを学べます。そして、信州には恵まれた自然環境があり、私が幼い時から好きだった登山やスノーボードなど信州ならではの遊びができることから、学びと遊びを両立した大学生活ができると考えています。以上が貴学を志望する理由です。

〈上記のリライト版（**太字部分が、改善された部分**）〉

私は将来、世の中を便利にさせる電化製品を設計したいと考えています。そして、その製品を通して、多くの人を幸せに**したい**と考えています。

私が設計したいと考えたきっかけは、小さい頃から、ブロックや折り紙を使って、工作をすることが好き**だったことです**。中学生になってからは、**身近にある機械、ロボットや生活を便利にしてくれる電化製品に興味を持つようになり、**生活をしている中で、「こうだったらいいのに。」と考えるようにもなりました。そして私は、自分が考えた物を設計し、形にしたいと思うようになりました。

現在の日本は、ここ数十年で技術が急激に進歩し、世界的に見ても、工業国であると言えると思います。そのため、日本のどこに行っても電気製品を**見かけるようになり**、今の世の中では、必要不可欠な物になってきています。**そしてこれからの日本に必要な電化製品は、高齢者にも簡単で使いやすい物や、日本だけに囚われず外国の文化を取り入れた物だと考えています。**だから私は貴学で電子情報システムについて詳しく学び、自分の考える日本の課題を克服できるような電化製品を開発できるようになりたいと思っています・

貴学科には３つのプログラムがあり、その中の電気電子プログラムでは、電機や電力の供給、利用システムや各種電気電子機器、デバイスの回路設計、それらを構成する各種素子と材料についての知識と技術を学べます。また、1年生の内から回路技術や電子部品の基礎を学べるので、電気を円滑に利用しやすく制御・管理するための技術を得られると思いました。最後に、自然豊かで、人の温もりを感じることができる街で育った私は、「豊かな自然、その歴史と文化、人々の営みを大切にします」という貴学の理念に共感しました。以上が貴学を志望する理由です。

(4) 学習評価（ルーブリック）

ルーブリック表 榛高タイムで身に付いた力を自己評価しよう　HRNO＿＿＿＿　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

つけたい力	① 情報(文章、図、表など)収集・分析力	② 課題設定・解決力	③ 思考力 (論理的・批判的・創造的)	④ メタ認知力	⑤ 表現力	⑥ 協働力 (自己理解・他者理解)	⑦ 社会参画力 意思決定力
A 応用・広がり (Extensions) 	入手した情報(文・数値データ・絵等)を比較し、様々な角度から情報を分析、評価する。	適切に課題を設定し、課題の意義、可能性、限界を明確にする。 課題解決に向けた解決策を創造する。	他者と自分の考えを比較、統合しながら新しい考えを創り出す。 自分の考えを他の学習（各教科など）と関連づけて捉え直す。	自分の思考過程や活動過程を評価し、今後の活動を修正・計画する。(何を学び、自分の考えがどのように変わり、それを今後にどう生かすか)	解釈を検討したり、仮説をたてたりして、自分の考えを適切な言葉で述べる。 文章を推敲する。	互いの考えを伝え合い、合意形成に向けて発展的な対話をする。	現代社会の諸問題を自分事として捉え、より良い社会の在り方を提案する。
B つながり (Connections) 	複数ある情報を取捨選択し、信頼性のある情報を集める。	課題の意義を明確にし、課題解決に向けて事実を比較したり、分類したりする。	得た知識を比較・統合し、事実に対する自分の考えを構築する。 他の学習（教科）とのつながりを考える。	自分の思考過程や活動過程の記録を通して適切に自己評価する。	自分の経験に当てはめたり、文脈に関連付けたりして考えを述べる。	互いの考えを伝え合い、相互に評価する。	現代社会の諸問題と自分とのつながりを解釈し、取るべき行動を考える。
C 考え・基礎知識(Ideas) 	文章を読んだり、話を聞いたりして他者の考えを理解する。 情報検索する際の基本的な情報スキルを理解する。	集めた事実についてどこに課題があるのかを理解する。	筋道を立てて、自分の考えを説明する。	自分の思考過程や活動過程を記録する。	適切な言葉や図等を用いて自分の考えを表す。	互いの考えを安心して伝え合う。	現代社会の諸問題について理解する。
D	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。

(5) 生徒の自己評価・探究の感想について

ア　資質・能力について

「１年間の振り返り」（2022 年２月３日）にて、「あなたの「〇〇力」について、１年間の榛高タイム（修学旅行探究・進路探究）でどのレベルに達したか、自己評価してください。」という質問文で、上記「ルーブリック表」中の①～⑦について、生徒が自己評価を行った。（2 年生 157 名中 143 人が回答）

つけたい力	A	B	C	D
①情報収集・分析力	28（19.6%）	**103（72%）**	11（7.7%）	1（0.7%）
②課題設定・解決力	29（20.3%）	**101（70.6%）**	12（8.4%）	1（0.7%）
③思考力（論理的・批判的・創造的）	38（26.6%）	**78（54.5%）**	25（17.5%）	2（1.4%）
④メタ認知力	46（32.2%）	**85（59.4%）**	11（7.7%）	1（0.7%）
⑤表現力	**69（48.3%）**	55（38.5%）	16（11.2%）	3（2.1%）
⑥協働力（自己理解・他者理解）	52（36.4%）	**86（60.1%）**	4（2.8%）	1（0.7%）
⑦社会参画力・意思決定力	28（19.6%）	**90（62.9%）**	23（16.1%）	2（1.4%）

また、「1 年間の榛高タイムを通して、最も伸びた・力がついたと感じるものは、次のどれですか」という質問への回答は、次の通りであった。

最多	**①情報収集・分析力**	**50（35%）**
	③思考力（論理的・批判的・創造的）	28（19.6%）
	⑤表現力	27（18.9%）
	⑥協働力（自己理解・他者理解）	17（11.9%）
	②課題設定・解決力	14（9.8%）
	⑦社会参画力・意思決定力	5（3.5%）
最小	**④メタ認知力**	**2（1.4%）**

イ　質問「1年間の榛高タイムを実施しての感想・反省・意見などを書いてください。」の回答例

①	1年間を通して、自分が調べたいことがどこに載っていて、どこを切り取ればいいのかがつかめた。また、グラフや写真などを用いることでみんなに分かりやすく説明できた。もう少しフィールドワークを行って具体的にまとめられたら良かった思う。
②	初め立てていた仮説を修学旅行から帰ってきて少し変えました。そのおかげでより深い探究になったと思います。コロナ禍でなければ県内の写真を撮りに行って、現地との写真の比較ができたら良かったなと思いました。
③	今回は1年時とは違い、テーマが自由だったのでまずテーマ決めが大変でしたが、普段考えないような視点で物事を見たり、旅行の時も、その探究をやっていたからこその驚きがあって新鮮で楽しかったです。 表やアンケートなどを取って客観的にわかりやすい探究にする必要があったと思いました。
④	素早く自分が知りたいと思うテーマを決めることができ調べることができて良かった。愛媛と静岡のみかんの違いを土地や降水量、から具体的に考えることができて良かった。反省点は愛媛と静岡のみかんと言っても自分が調べた以上に種類等があるのでそれらを深く調べ他のみかんと比較したかった。
⑤	自分とは違う地域について調べてみて、みんなが地域の良いところを伸ばそうとさまざまな意見を出したりしていた。やはりみんな自分の住む地域が好きなんだと感じた。

ウ　質問「「総合的な探究の時間」（榛高タイム）の授業を２年間実施してきました。ズバリ、あなたにとって「探究」とは何ですか？（一言・あるいは一文で表すとしたら）」の回答例

成長　・　冒険　・　新たな発見をすること　・　自分で作る自分への課題　・　自分への挑戦　・　自分をよりよくする学習　・　私の人生　・　自分と地域の繋がり　・　心が踊るもの　・　好奇心の刺激　・　知りたいことを深く探ること　・　納得のいくまで探し求める　・　自問自答の繰り返し　・　視野を広げてくれる活動　・　地域愛　・　社会との繋がり　・　未知の旅　・　通過点
・　自分の考えと、調べたことを比較して、新たな調べることを見つけること　・　夢中になるもの
・　自分と身の回りの環境について改めて考えて、成長させていくこと　・　自分の性格のあらわれ
・　ゴールが与えられず、自分が満足いくまで行うもの　・　自分の思考の本質を見つける
・　深掘りして、自分ならどうするか？を見つける
・　答えのない問いに対して、様々な事を通して答えを追求していくこと。

(6) 成果と課題

ア　計画からの変更について

本年度２年生の入学当初、２年次の「総合的な探究の時間」（本校では「榛高タイム」）では、1年次の「地域課題探究」の学習に基づき、海外（シンガポール・マレーシア）修学旅行を軸に、「地域と世界のつながりを理解し、批判的思考力を身につける」「幅広い社会を知り、自分の未来をつなげる」ことを目標に、世界と地域のつながりを探究すること等が計画されていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、昨年度の２年生と同様、修学旅行や大学見学の予定は変更せざるを得ない状況となった。また、オープンキャンパス等のイベントもオンライン開催となるところが多く、現地に足を運んで、参加することができない生徒がほとんどであった。

そこで、進路探究においては、各自２校以上の大学について報告する（オンラインでも参加する・資料を調べる等）という課題を設定し、２学期に簡単な報告会を実施した。修学旅行探究については、海外を国内（四国・中国・関西地方の非大都市圏中心）に変更して実施した。

イ　進路探究の成果と課題

新型コロナウイルスの感染症拡大の中で、本年度の２年生は、ほとんどの生徒が実際に大学に足を運んだり、大学の雰囲気を肌で感じ取ることができていない。しかし、本校を会場にした各種講演やオンライン上でのイベントを通して、本稿（３）オのように、多くの生徒が自身のキャリアについて深く考え、自身の未来と社会とをつなげることができたと思われる。

ウ　修学旅行探究の成果と課題

個人探究テーマの設定、事前研修と現地調査、そのまとめ、発表などを行った。修学旅行先の現地フィールドワークは時間的にも空間的にも生徒たちの想定より少なかったが、多くの生徒が限られた時間の中で情報収集を行い、地元地域と旅行先の地域を比較しながら、それぞれの探究テーマを深めた。当初予定していた「地域と世界のつながり」という点には着目することはできなかったが、探究を通して多くの生徒視野を広げることができたと思われる。課題としては、本稿（５）アでみられる通り、「思考力」と「社会参画力・意思決定力」は他の資質・能力に比べてＣ段階であると考える生徒が多い。特に後者は、探究レポートの作成プロセスだけでは育むことが難しい。伸ばしたい資質・能力を踏まえた探究プログラムの更なる改善が必要であると考える。

5-3 グローカル事業報告会

(1) 実施要項

文部科学省委託事業地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）研究成果報告会実施要項

１　目　的

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型)」の 2021 年度の活動について共有を図り、本事業の研究成果をコンソーシアム代表者及び運営指導委員等に報告し、今後の活動にいかす。

２　日　時

令和４年２月３日（木）

全体会：午後１時 15 分～２時 35 分　（オンライン）

分科会：午後２時 50 分～４時 05 分　各教室

（当日は、代表発表以外のグループのポスター等を進取館に掲示する。報告会後、２棟昇降口等に掲示する。）

３　会　場

榛原高等学校進取館、各教室

４　参加者

管理機関（静岡県教育委員会)、運営指導委員及びコンソーシアム代表者

カリキュラム開発アドバイザー、海外交流アドバイザー、連携協力校他

榛原高校１、２年生生徒

５　内　容

＜全体会＞　13:15～14:40（休憩１回）　（発表者は進取館、他の生徒は各教室）

(1) 管理機関挨拶

(2) 学校長挨拶・３年間の事業の説明　（～15 分）

(3) 代表発表（35 分　８分×４・途中休憩 10 分）

・Glocal High School Meetings 2022 発表者　１年生代表（日本語）

「牧之原市に住む人とペットを守る」

・Glocal High School Meetings 2022 発表者　１年生代表（英語）

「Proposal to be interested in agriculture（農業に興味をもってもらうための提案)」

・グローカル部「高校生が考えたオリジナルバスマップ」

・有志　静銀　アオハルし放題「静岡茶×スイーツのヒット商品を開発せよ」

(4) ポスター発表、分科会の説明（15 分）

・掲示してあるポスター等についての説明

「北海道研修」、「南九州研修」

・分科会の内容の説明

「１年生地域創造探究」、「２年生総合的な探究の時間」

(5) 講評（10 分）

静岡大学教育学部准教授　島田桂吾　様（カリキュラム開発アドバイザー）

(6) 全体会閉会・諸連絡・休憩

＜分科会＞　14:50～16:05（75 分）

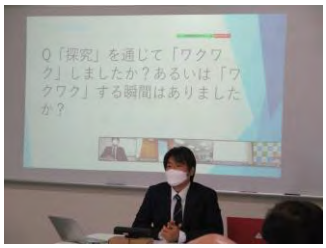
・１年生は各教室で、「地域創造探究」　ポスター制作及び発表練習

・２年生は各教室で、「総合的な探究の時間」

(2) 報告会当日の様子

代表発表

ポスター紹介



講評（島田准教授）

【令和４年２月３日（金）　研究成果報告会】

管理機関挨拶に続いて、校長から、榛原高校における探究活動についてこれまでの振り返り、文部科学省委託事業についての説明等があった。

続いて、４グループの生徒が代表発表を行った。

・Glocal High School Meetings 2022 発表者　１年生代表（日本語）
「牧之原市に住む人とペットを守る」

・Glocal High School Meetings 2022 発表者　１年生代表（英語）
「Proposal to be interested in agriculture（農業に興味をもってもらうための提案）」

・グローカル部「高校生が考えたオリジナルバスマップ」

・有志　静銀　アオハルし放題「静岡茶×スイーツのヒット商品を開発せよ」

代表発表の後、国内研修（南九州研修、北海道研修）参加者による、研修のまとめポスターについての説明、全体会後の分科会（１年生地域創造探究、２年生榛高タイム）の内容確認を行った。

全体会の最後に、静岡大学教育学部准教授島田桂吾様から講評をいただいた。

感染拡大防止の観点から、進取館参加者は、代表発表の生徒、運営指導委員、コンソーシアム代表の一部に限定し、１、２年生生徒はその様子を教室で視聴し、連携協力校等関係の方々にもオンラインで視聴していただいた。

全体会終了後は、各ＨＲで、分科会を行った。

６　研修報告

6-1 県外先進校視察について

今年度は、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、県外視察は控えることとした。

6-2 研究発表会及び講演会等への参加について

今年度は、オンラインで行われる他校の研究発表会や研修会に研修課を中心に参加した。

・「探究学習を考える会」河合塾主催【令和３年 10 月 23 日】
・宮崎県立宮崎大宮高校「WWL 公開研究会」【令和３年 11 月５日】
・兵庫県立柏原高等学校「第６回地域課題から世界を考える日」【令和４年１月 28 日】
・宮崎県立宮崎大宮高校「WWL 生徒探究発表会」【令和４年１月 29 日】　他

７　成果と課題

7-1 事業評価（校内評価）

(1) 探究活動について

ア　地域創造探究

過去２年間の研究成果を踏まえた学校設定教科（地域創造探究）・科目（地域創造探究Ⅰ～Ⅲ、発展地域創造探究）が昨年度中に管理機関より認可され、本年度１年生から新たに地域創造探究Ⅰ、Ⅱがスタートした。具体的な内容については「３　研究内容」「４　生徒の活動（主な活動）」「５　事例報告」における事例紹介を参照されたいが、当初の目的以外にも教科化されたことによる予期していなかった顕著な効果について以下の２点を挙げる。一つ目は、従来の記述評価から 10 段階の数値評価にまとめられるようになったことで、生徒が探究によって身につける力の度合いを強く意識するようになったことである。これまでもルーブリック表を生かした自己評価に加えて年度末に記述評価をしてきたが、一見すると明確な数値評価が、生徒のモチベーションを上げる一助となったようであった。もう一つは教職員の役割や責任が明確になったことで、本事業内容についての当事者意識が強くなったことである。ともするとトップダウンによる弊害によって希薄になりがちであった教育活動に連携力が加わり、昨年度以上の活気溢れる活動を見せていた。

イ　総合的な探究の時間

本年度の活動も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、２年生における本研究の中核事業である「シンガポール研修」が中止となり、研修先の選定からやり直しとなった。この影響で、グローバル教育を中心とした研究開発は次年度以降に再延期することとなったが、研究開発は継続していきたい。ただ、研修先を国内に変更した昨年度の代替研究の成果があり、十分な事前研修ができない中でも、課題研究と発表を行うことができた。

ウ　まとめ

３年間の研究により、海外研修以外の面ではＩＣＴを活用した遠隔会議システム導入の事例の蓄積を筆頭として、他の活動にも援用できる知見を得た。次年度は入学生から導入されるＢＹＯＤを生かしながら、更に新しい形で生徒の学習機会と学力の保障を柔軟に行っていきたい。

(2) 課外活動について

ア　事業内容の変更

新型コロナウイルスの感染拡大により、今年度も台湾、アメリカ、ベトナム等海外研修は不可能であり、研修先を再考した。検討にあたっては、昨年度の研修実績を踏まえ、12 月に南九州研修、島根鳥取研修を計画した。一方、昨年度実施できず、延期となった北海道研修については、８月に計画（羽田空港利用）していた。しかし、７月以降の感染拡大によって、12 月に延期することを決め、島根鳥取研修は中止した。12 月に変更したことにより、雪等による行程の変更が心配されたが、大きなトラブルなく実施することができた。また、富士山静岡空港が利用できたことによって、費用が抑えられたこと、研修率があがったことはよい点であった。

イ　国内研修内容について

南九州研修は、１年生を対象に募集を行い、20 人参加した。牧之原市を代表する産業である茶業について、ふじのくに茶の都ミュージアムにて事前学習を行った後、鹿児島県南九州市を訪問し、知覧茶をはじめとした南九州での茶業について学習した。茶業に関する両県のつながりや茶業を発展させるための取組はもちろん、講師の仕事への熱い思いや充実した生き方など多くのことを学ぶことができた。知覧特攻平和会館では、平和講話を聞いた後に、ミュージアムを見学し、より一層、命の大切や平和の価値などについて考える機会

となった。また、砂風呂体験、武家屋敷散策や仙巌園見学など、九州の自然、歴史や文化にも触れることができた。３日目のこゆ財団、青島神社、宮崎空港訪問では、地域の活性化に取り組んでいる方々のお話を聞いた。自分たちの活動に誇りを持ち、活動している方々のお話は生徒にとって、とても興味深い内容だったと思う。最終日は、宮崎大宮高校の生徒と宮崎市内のフィールドワークを行った。事前に遠隔会議システム等を使って打ち合わせをした上で、交流した。短時間ではあったがとてもよい思い出となったようである。

北海道研修は、２年生を対象に実施した。８月には 22 人の参加希望者がいたが、12 月に延期した際には 12 人に減少した。修学旅行と同月になったこと、長時間学習と日程が重なったことなどが減少した理由であったが、そのような状況下で参加を希望したこともあり、研修への熱意が高い生徒たちだった。企業訪問では、グローカルやＳＤＧｓなどの普段学んでいるものを、講話や工場見学を通して実体験をして再認識できた。吉田町に本社のあるヤマザキの生産拠点の一つである旭川工場では、会長の「食文化は先人が受け継ぎ、磨いてきたもの」との理念を聞いた後、地元のジャガイモをどのように保存し、安全においしく家庭に提供するための企業努力について学ぶことができた。旭山動物園では教育活動に参加し、飼育員と獣医の方に話を聞き、動物園の裏側を見ることができた。これらの職業に就くためにどのような進路を経てきたのか、働いているときにどのようなことを意識しているかなどを聞くことで、進路について考える機会となった。卒業生講話では、本校卒業生で北海道教育大学に在籍する多々良翔人君の話を聞いた。生徒にとって数年後をイメージしやすいものであったため、質疑応答では活発な話し合いが行われた。市立札幌開成中等教育学校との生徒交流や、北海道大学を訪問して鈴木先生の講話を聞くことは、コミュニケーション能力の育成と進路意識の向上に大きく働いたと思われる。北海道大学の訪問でも、両校の生徒を交えたグループをつくり、鈴木先生の講話や留学生との英語による質疑応答、大学の構内散策などを行った。留学生によるアフリカのコロナや肺結核などの感染状況を聞いた後、市立札幌開成中等教育学校の生徒が次々と英語で質問をするなか、本校の生徒も立派に質問できたことは印象深かった。

両研修は、コロナ禍で難しくなっている実体験を伴う研修であり、生徒・保護者対象アンケートの評価も高かった。特に、連携校の生徒との交流はとても有意義なもので、もっと時間が欲しかったという意見が多かった。感染状況が落ち着いていた時だとはいえ、収束していない中で、本事業を実施できたことは幸いであった。そこには、快く受け入れてくださった関係各所や調整をしていただいた方々の尽力があり、生徒もそのありがたさを実感できていた。行政はじめいろいろな立場の人たちが、地域のことを考え、連携し、積極的に活動していることや、他地域と静岡のつながり、自然体験や文化体験など、生徒にとっては、たくさんの貴重な学びの機会になったと思う。多くのことを考え、これからいろいろなことに挑戦するきっかけになったのではないだろうか。研修先での体験や研修成果のまとめと報告会、報告書の作成などをとおして、生徒自身の成長につながることが大いに期待できる。

(3) グローカル部について

グローカル部の活動はグローバルな面においては、定時制外国籍生徒との対面での交流や、台湾生徒とのオンライン交流により、異文化理解を行った。一方でローカルな面においては、牧之原市の活性化のために自分たちに何ができるか、また本校生徒の通学手段としてのローカルバスをより使いやすくするためにどうしたら良いかを探究した。また、部活動の一環として地域リーダー育成プロジェクトへの参加や、市主催のワークショップやシンポジウムに参加する機会を与えていただき、見識を高めた。

次年度以降に向けても、グローバル、ローカル両面において研鑽を積み、地域のリーダーになれる人材を育てていきたい。

(4) カリキュラム開発について

ア　カリキュラム開発の概要

アドバイザーの指導の下、４月から計画的にカリキュラム開発を見直し、リモートを含め協議を行い、教育課程検討委員会（校内委員会）と協力しながら新教育課程の修正を行った。

カリキュラム開発により選択科目として加わった「家庭基礎探究」（２単位）が今年度から先行してスタートした。来年度から適用される新教育課程においても「発展家庭基礎」（２単位）として設置予定である。さらに、この「発展家庭基礎」はグローカル型（英語を中心に学ぶ生徒）とサイエンス型（理数系科目を中心に学ぶ生徒）共に選択できるようになっている。

また、文理融合の目的に立ち返り、グローカル型の生徒でも進路希望に応じて「数学ⅠⅡＡＢＣ演習数学」を選択必修にしたり、サイエンス型の生徒でも「言語文化演習」を選択できたりするように変更した。本校における教員定数の減少に伴い、授業時数全体の削減への統制が厳しくなる中で、生徒の希望に応じた選択科目の増設は難しいの一言に尽きるが、本校の魅力・特色でもあるので要望し続けたい。

イ　学校設定科目「家庭基礎探究」について

３年生の選択科目（２単位）として設置し、４人が選択した。「課題解決的な学習や探究的な学習を通して、「家庭基礎」の目標・内容に示された資質・能力を養成する。特に地域の生活課題に目を向け、自ら設定した課題解決学習を行うことによって、地域生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。」を科目の目標として、実施した。牧之原市役所、総合健康福祉センターさざんかなどに御協力いただき、職員の講話などを参考に、自ら課題を設定し、探究活動を行った。成果発表は、家庭科生徒研究発表会に紙面発表という形で行った。選択した生徒からは、「普段生活してる中で一度は見たり経験したり聞いたりしたことについて、少し踏み込んで学習することができた。自分で調べ、まとめて人に話す力が少しついたと思う。市のために働いている人の声を直接聞くことができたのも良い経験になった。」などの感想があった。次年度以降は、連携先や評価、成果発表の方法などについてさらに検討する。

(5) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）について

静岡県教育委員会の指定を受け、令和３年度から学校運営協議会の設置校となった。学校経営計画の中で、教育目標を具現化していく柱として、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」等を通して、確かな学力と批判的思考力を持ったグローバル人材の育成ということを掲げており、学校運営協議会委員とともに取組や手段等について協議を行った。特に、委員から多くの意見を寄せていただいたのは、本校の特色ある取組を地域に発信していくための方策についてであり、本年度職員が作成した広報用ポスターについて御助言をいただいた。。

(6) その他の活動について

令和２年度末に連携協定を締結した市立札幌開成中等教育学校との交流を実現させることができた。令和３年 12 月に実施した北海道研修において、生徒 12 名が市立札幌開成教育学校を訪問して相互の学校紹介を行い、また北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所では合同研修を実施した。今後両校の間で共同研究を進めていくきっかけをつかむことができた。

(7) 卒業生及び３年生のことば

＜静岡県立大学国際関係学部２年（2020 年３月卒業）　細田真未（吉田中学校出身）＞

私は、在学中、実社会プログラムの一環で、１年生の時に台湾、２年生の時にシアトル、修学旅行でシンガポールへ行きました。実社会プログラムでは、牧之原市の茶産業再興へのヒントを得、それをレポートにまとめました。牧之原市では茶農家の減少、高齢化、それによる耕作放棄地の増加などが茶産業の問題となっており、それら地域の抱える問題にアプローチするために主体的に考えた経験は、地域の一員であることを自覚するきっかけになるとともに、自ら考え、行動することの楽しさを実感する機会にもなりました。

３度の海外研修では、海外での茶文化の在り方はもちろん、日本の既成概念は通用しないということを学びました。私にとっては、地方の茶産業再興に関するヒントを得る機会になっただけではなく、常識にとらわれずに広い視野で物事を考える機会となりました。

私自身、もともと様々な社会問題に興味がありましたが、このプログラムで自ら考えて問題にアプローチした経験が、自分自身の興味関心をより深めることにつながっています。現在は国際関係学部に進学し、格差社会において自分たちはどのような支援をできるのかについて、学びを深めています。

＜静岡文化芸術大学文化政策学部１年（2021 年３月卒業）　大澤夢加（御前崎中学校出身）＞

私は高校１年生の頃から地域リーダー育成プロジェクトに参加していました。様々な職種や年代の人たちと意見交換をすることで、新しい発見があり、視野が広がりました。また、対話の手法を学ぶことで、課題解決のプロセスを知り、話し合いの進め方を身につけることができました。大学でグループワークを行ったり、企画立案をしたりするときにこの活動での経験を活かすことができました。また、私は海外に興味があるため、１年生では台湾研修、２年生ではイングリッシュキャンプに参加しました。台湾研修では台湾と日本との繋がりを感じると共に、日本での「あたりまえ」が世界ではそうでないということを身をもって体感することができました。イングリッシュキャンプでは、ネイティブスピーカーの英語が早口でなかなか聞きとれず、自分の意見は上手く伝えられないもどかしさに、「使える英語」が身についていないことを実感しました。大学では昼休みなどを利用してネイティブの先生と英会話をするようにしています。

国際文化学科に進学した現在、私はサークルでフェアトレードを推進する活動をしています。入学前に先輩方がおこしたプロジェクトに参加させてもらい、浜松市内の企業や農家の方々、県内のフェアトレードショップの協力を得ながら、商品開発・製造・販売を行っています。榛原高校で学んだグローカルな視点や地域の人々との繋がりを大切にし、これからも様々な活動に挑戦していきたいです。

＜35ＨＲ（2022 年３月卒業）　松本珠里＞

私は、２年生の時に、島根鳥取研修に参加しました。この研修では、出雲大社や工場見学、大学見学など様々な場所へ行きました。研修の中で私が特に印象に残ったことは、くにびきメッセ（産業交流会館）での研修と大学見学です。

くにびきメッセでは、学生たちが地元の地域の方々と協力して、若者の人口流出や過疎化をくい止めるために様々な取り組みをしているという話を聞きました。私が住む地域でも同じように人口流出や過疎化が問題となっているため、くにびきメッセでの研修は、自分の住む町について考えるきっかけとなりました。また、大学見学では、鳥取環境大学へ行きました。そこで、大学の先生が学生たちに教える時に大切にしていることを話していただきました。ここでは新しい考え方や、多様な視点から物事を考えることが大切であると学びました。将来は、保育士になることを志しています。この研修を通して、子どもたちが地元に残りたいと思うような環境づくりをし、子どもたちの視点に立って物事を考えることのできる保育士になりたいと感じました。この研修で得た経験を、将来に活かしていきたいです。

7-2 事業評価（カリキュラム開発アドバイザー）

カリキュラム開発アドバイザー　静岡大学教育学部　島田　桂吾

今年度は文部科学省事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）」の最終年度として、新型コロナウイルスという多大な制約がある中で海外研修の中止など中核となる計画の見直しを余儀なくされてしまったが、生徒の安全と学習の機会を確保するために教職員が一丸となって取り組まれてきたことの敬意を表したい。特に、国内外の高校生とのオンラインによる交流などは「コロナ渦」だからこそ生まれた事業であり、生徒にとっても「グローバル」を身近に感じる機会になるとともに「ローカル」の意義を再確認することにつながったと思われる。

また、「地域創造探究Ⅰ」や「家庭基礎探究」などの学校設定教科・科目についても手探りながらも前進している様子が窺えた。これらの取組によって、高校卒業後に活かせる資質・能力の育成に寄与できるとともに、生徒の主体性・協同性が育まれることで自己のキャリアを考える契機になるものと期待される。

次年度以降も「コロナ渦」という制約は続く可能性はあるが、生徒のキャリア発達に関わる資質・能力の育成とともに、取組や成果の地域への周知・還元の在り方について、これまでの事業で培ってきたノウハウを発展的に継承していただきたい。

８　運営会議等

8-1 第１回運営指導委員会・コンソーシアム会議

(1) 日　時

令和３年６月 18 日（金）　午後１時 30 分から３時 40 分まで

(2) 場　所

県立榛原高等学校　進取館１階　研修室

(3) 出席者

運営指導委員６人（うち３人は遠隔会議システムによる参加）、コンソーシアム委員 10 人（うち１人は遠隔会議システムによる参加）、カリキュラム開発アドバイザー、地域協働学習実施支援員、海外交流アドバイザー、管理機関、校内委員

(4) 協議事項

ア　管理機関代表・学校長挨拶

イ　運営指導委員・コンソーシアム代表者自己紹介

ウ　本年度の事業概要の説明

エ　今後の活動についての意見交換、質疑応答

(5) 意見交換、質疑応答（抜粋）

ア　（資料として配布した）ルーブリック表について

・作成の経緯やこれまでの使用方法等に関する質疑応答

・現在のような全体のものはもちろん、今後は、それぞれの具体的な活動別のものや自分自身の変化が見えるような段階的なルーブリック表の研究をしてはどうか。

イ　地域との連携について

・高校生が県外に出てしまう現状。高校生のうちから地元企業について理解を深め、将来、地元で活躍す

る意識を持ってほしい。

→この事業（グローカル型）はそういった地域の課題解決のための事業でもある。地域の核になる、地域と世界について考える人材育成のための事業と考え実施している。

ウ　コロナ禍でのネットワーク作り、情報発信について

・オンラインで卒業生へのフォローアップや地元とのつながりを作る、大学生に地元の魅力を発信する、などはできないか。

→アフターCLIP など、市民ファシリテーターとのつながりを維持している。

・今は都会にはない地元のよさを認識する時。You Tube による発信など活動を広げてほしい。

・海外ともつながるとよい。海外に対して日本のこと、牧之原のことを発信できるように。

エ　高大・中高など学校間連携、企業との連携について

・小中学校でも地元を知るなどの活動はしているので、校種間の接続を確認しておく必要もあるのではないか。

・高校生が中学生に探究の成果を話す、企業と連携して小中学生の自由研究を手伝う、企業の小学生への取り組みに高校生も参画するなどどうか。

→今はやっていない。Web の活用などを含めて考えたい。

オ　経験を将来にどのように生かしていくのかということについて

・発表するだけではなく、進学（進学先での学び）に生かせるようにするとよい。

・経験したことをどう自分の問題としてとらえるか、自分は将来どうしたいのかなどに結びつけられるとよい。

→進学に生かす生徒はだんだん増えている（増やしている）。

(6) 事務連絡・その他

第２回運営指導委員会・コンソーシアム代表者会議、学習成果報告会について

令和４年２月３日（木）　午後　榛原高校進取館（予定）

8-2 第２回運営指導委員会・コンソーシアム会議

(1) 日　時

令和４年２月３日（木）　午後３時 25 分から４時 40 分まで

(2) 場　所

県立榛原高等学校　進取館１階　研修室

(3) 出席者

運営指導委員５人（うち４人は遠隔会議システムによる参加）、コンソーシアム委員９人（うち６人は遠隔会議システムによる参加）、カリキュラム開発アドバイザー、地域協働学習実施支援員、海外交流アドバイザー（遠隔会議システムによる参加）、管理機関、校内委員

(4) 協議事項

ア　管理機関代表・学校長挨拶

イ　運営指導委員・コンソーシアム代表者挨拶

ウ　令和３年度事業報告及び３年間の取り組みについて（報告）

エ　意見交換・質疑応答、事業終了後の取組についての協議

(5) 意見交換・質疑応答、事業終了後の取組についての協議（抜粋）

ア　牧之原市と榛原高校の連携について

・牧之原市には、富士山静岡空港がある。

→北海道・南九州等、県外との交流に繋げやすい環境にあるため、うまく活用してほしい。
・牧之原市には多くの企業（製造業）もある。
→将来は、牧之原市にＵターンしてもらいたい。
→高校生が牧之原市について探究することは、高校生にとっても市にとっても意味のあること。

イ　コロナ禍におけるオンライン交流について
・コロナ禍の現状、地方から東京に出てきた学生は、精神的にも経済的にも大変苦労している。
→地元の大学で学ぶことのメリットに目を向けてほしい。地元の人たちとの繋がりを大切にしてほしい。

ウ　企業と地域の連携について
・近年、企業はCSRを重視している。
・地元を出て、外から地元を見ることが大切。他県と地元を比較する、他国と日本を比較することで、自分たちが住む町の良さが見えてくる。

エ　義務教育と高校教育の連携について
・小中学校９年間の積み重ねを、高校に繋げていくことが求められている。
・小中学生が高校生と繋がることのできる機会を作りたい。

オ　学校教育を実社会に繋げることについて
・学校での学びを、いかに実社会に繋げられるかが重要。
・コロナ禍の影響もあり、どこに住むか（どこで仕事をするか）がより自由な時代。これから企業は地域を意識しなくなる。新しい働き方など企業はどんどん変わっている。
→どの地域にいても、活躍できる人材の育成が大切。
・対面の必要性も忘れないでいることが大事。

カ　地元に住む外国人との繋がり
・牧之原市には、外国籍の住民も多くいる。
→地元で、グローバルな交流ができるのでは？
→グローカル部など、榛原高校の定時制に在籍する外国籍生徒との交流は行っている。

キ　地元から世界へ挑戦すること
・地元（牧之原市）の良さを高校生の時に感じることが大切。
・これからは、地方にいても、どこにいても、どこからでも、世界に挑戦できる時代。

ク　多文化共生社会づくりに向けての取り組み
・キの発言に対して
→牧之原市では、外国籍の住民に対して日本語勉強会をすでに開催している。高校生も参加している。
→多文化共生社会づくりを目指す。

ケ　地元に目を向けること
・牧之原市は、Ｕターンしない学生が増加している
→地元の企業について知らないことが原因の１つ。
→「RIDE　ON　PROJECT」など活用してほしい。
→地元にも良い大学・良い企業はたくさんあり、それを知ってもらうことが重要。
・これからは、「ヒューマン」「デジタル」「SDGｓ」の時代。

コ　プレゼン力、伝える力、傾聴力が大切。
地域リーダー育成プロジェクトは社会人になるまでの通過点と考えている。

サ　オンライン交流＋リアル（対面）交流＝ツイン交流

8-3 グローカル事業（カリキュラム開発アドバイザー）協議報告

第１回　カリキュラム開発会議　記録

１　日　時　　令和３年５月 19 日（水）　午後１時 30 分から２時 45 分まで
２　場　所　　榛原高校小会議室
３　出席者
　カリキュラム開発アドバイザー　島田　桂吾（静岡大学教育学部）
　校内推進委員（校長、副校長、鈴木美、原口、森田、牧野、山下、下村、山本純）
４　内　容　　＊説明内容　　○指導助言いただいたこと
(1) 令和３年度のグローカル事業年間計画について
　＊3/19 の運営指導委員会の事業計画案からの変更点を中心に説明（海外研修は実施しない。北海道、南九州実施。島根・鳥取は保留）。
　○今年度はオンライン交流ならではの遠隔かつ即時的な交流ができるとよい。海外との交流、他県の高校生との交流、知らない人の前でプレゼンすることの経験など。高校生同士で、一緒に練り上げていくというような探究活動も可能と思われる。
　○カリキュラムの系統性が見えるように、学年の枠を越えて、それぞれの発表が聞けるような機会があるとよいのではないか（成果発表会）。「修学旅行探究」でもその後に続く自己のキャリア探究を意識して活動させることが大切。
(2) 総合的な探究の時間について
　＊学校設定教科「地域創造探究Ⅰ」について現状説明。探究そのものの活動時間が授業内では限られること、評価をどのようにするかが課題。
　○限られた探究活動の時間で、問い立て、解決策探究にどの程度時間を割り振るかが問題だが、１年生では探究プロセスを学ぶことに意味がある。それを２年生の学び、振り返り、進路選択に無理なくつなげられる探究活動ができるとよい。
　○自己評価をもとにグループでの学び合い、新たな学びを記入させ、その変容を見るという方法もある。書いたものをグーグルクラスルーム等で共有するということはできるのではないか。
(3) 学校設定科目について
　ア　家庭科（家庭基礎探究）
　　＊今年度から開始。各生徒のキャリアに関連させた課題設定をしている。苦労しているが、市役所からの支援がありがたい。
　イ　英語科（グローカル英語）
　　＊名称、内容を変えて実施することを検討してきたが（例：グローバル・アウェアネス）、英語科としてはこれまでどおり（基礎科目のある演習科目、担当の自由度あり）で実施したいと考えている。
　　○先行論文を探し、それを紹介しあうことなどは、大学での学びにも生かせる。論文の執筆者の研究室・大学を探るのもよい。先生方が楽しんでやることが大切。
(4) 令和３年度校内研修について
　＊今年度の３回の実施計画を説明。第２回「文部科学省事業の意義等について」での講師を依頼。
５　その他
　＊静大付属や近隣中学校における教科の評価方法について話を聞く機会がほしい。（今後相談させていただきたい）

第２回　カリキュラム開発会議　記録

１　日　時　　令和３年８月 12 日（木）　午後１時から２時まで
２　場　所　　榛原高校応接室（オンラインで実施）
３　出席者
　カリキュラム開発アドバイザー　島田　桂吾（静岡大学教育学部）・オンラインで参加
　校内推進委員（副校長、鈴木美、原口、山本純）
４　内　容
(1) 総合的な探究の時間について
　ア　学校設定科目「地域創造探究Ⅰ」（１年生）について（原口）
　　＊１学期の評価は、「講演会の出席・レポートの記入」「成果物の提出」「自己評価表の記入」など、３観点の評価の材料とその評価基準を確認し、副担任が中心に観点別評価をした後、10 段階評価をつけた。
　　○教員が評価疲れしないこと、生徒が楽しく、モチベーション高く取り組めることが大事。よい評価だったのではないか。成績を見て、こんなに良い成績がつくのかと思って気を抜くことや一生懸命やった生徒のモチベーションが下がるということがないように、がんばった生徒のがんばりを認めることをしていけば、次の活動につながっていく。
　イ　「地域創造探究Ⅱ」「発展地域創造探究」の実施について（原口、鈴木美）
　　＊「探究Ⅰ」の終了時に発表会を行い、「探究Ⅱ」につなげる。「発展」については、時間割に入れて、選択者はプラス１単位という位置付け。海外研修等の事前・事後学習を行う予定でいるが、研修は授業時間には入れない。グローカル部の生徒などが履修することを想定している。７月に説明、９月に仮登録、10 月に本登録。２学期に、シラバスや担当者などの検討を進める。（選択者の人数によって調整が必要なので、細部は 10 月以降に決める）
(2) 学校設定科目について（山本純）
　　＊「家庭基礎探究」について：選択者４人。１学期は、各自が課題を設定して、市役所等に聞き取り調査に行った。評価は、毎回の授業ノート、聞き取りレポートなどを見て総合的に評価した。
　　○インタビューは最初の依頼から生徒にやらせることも必要だが、大学生でも難しい。調査方法やまとめ方などの基礎も学べるとよい。自分のテーマ以外のインタビューにも同席させたことによって、全員が内容を共有し、学ぶ機会ができたことはよかった。
(3) 令和３年度のグローカル事業について（山本純）
　　＊北海道研修は 12 月に延期、1 年生は 12 月に南九州研修を実施する予定。９月に企業訪問、その他２学期には、オンライン交流などを計画している。
　　○ワクチンの接種が進めば、研修等実施しやすくなるのではないか。
(4) 第１回教育課程検討委員会（７月５日）報告（鈴木美）
　　＊令和４年度の２、３年生のクラス編成、科目選択については、今年度と同様に対応予定。学習評価については２学期に各教科で試行する予定。
５　その他
　　＊（依頼）近隣中学校の教員（管理職ではなく、担任など）と評価などについて情報交換をしたい。形式的でなく、本音で話せる場を設定していただけないか。
　　○このような状況でも活動が止まっていないのでよかった。リアルな体験の場を設定することは大事である。依頼については関係箇所に問い合わせてみる。

第３回　カリキュラム開発会議　記録

１　日　時

令和３年 10 月 12 日（火）　午後３時 30 分から４時 25 分まで

２　場　所

榛原高校応接室（オンラインで実施）

３　出席者

カリキュラム開発アドバイザー　島田　桂吾（静岡大学教育学部）・オンラインで参加

校内推進委員（副校長、鈴木美、山本純）

４　内　容　　＊説明内容　　○指導助言いただいたこと

(1) グローカル事業の実施について

ア　課外活動（国内研修）について

北海道研修（２年生）　８月中止を 12 月に延期　12/22（水）～26（日）

南九州研修（１年生）　12/22（水）～25（土）

＊どちらも連携校との交流の時間を設定することができた。参加生徒の募集を開始したところ。希望者が多ければ、校内委員会で選考する。（北海道 20 人、南九州 30 人予定）

イ　２学期以降の発表会、オンライン交流会等への参加について

10/29（金）台湾とのオンライン交流（32HR コ英演）／県地域外交課事業　今後も実施の可能性あり。

12/22（水）「Glocal Summit 2021」（兵庫県立柏原高校主催・オンライン交流会）／今年度初めて開催。イングリッシュキャンプの参加者などが参加する予定。

1/ 5（水）ＨＡＦ発表会（校内）／各学年の進行状況、国内研修報告等を考えている。

1/29（土）「Glocal HighSchool Meetings」（星城高校主催・オンライン発表会）／昨年度同様、英語部門、日本語部門に各１チーム。１年の探究班から代表を選出する予定。

2/ 3（木）ＨＡＦ報告会（校内）／今年度は校内で開催予定。詳細はこれから決定する。

○国内研修で、現地高校生との交流ができることはよいこと。オンラインもうまく活用できるとよい。

(2) 学校設定科目について

ア　「地域創造探究Ⅰ」（１年生）について

２学期の実施状況、今後の計画

＊探究活動の時間の確保が難しいが、球技大会の空き時間なども利用して進める。

イ　「地域創造探究Ⅱ」「発展地域創造探究」について

＊２年次の「発展地域創造探究」の選択者はこれから調査する。グローカル部はできるだけ選択すること、部活動顧問と事前に話をすることと伝えてある。

ウ　家庭科「家庭基礎探究」について

＊先日中間発表会を行った。家庭科の科目なので、家庭科の生徒研究発表会（今年度は紙面発表）に参加する予定。その他の発表の形（ポスター発表等）は検討中。

(3) 教育課程検討委員会について

第２回会議（10 月７日）の報告

＊新２年のクラス編成について、新３年生の選択科目の開講予定について報告。理数科の日本史選択について課題があることを説明。

令和４年度からの評価については各教科で検討が進んでいる。

その他

＊１人１台デバイスについて。購入させる高校も出てきており、検討している。決まったら早めのアナウンスが必要になる。まずは近隣中学校の現状把握をしているところである。中学から高校の接続とともに、高校から大学への接続も考えたい。

○デバイスについては５年程度で古くなることを考えるとリースも考えられるのか。これからの生徒にとっては、文房具と同じとも言われるので、とにかくどう生かすかが問題。先生方への対応も必要になる。同時接続の際の環境も併せて検討する必要あり。キーボード入力が難しい大学生もおり、それは大学でも話題になる。

発表会などを通して、下級生が上級生の様子を見て、いいな、やってみたいなという環境づくりが大事。また、進路につなげられるようにするとよい。

5　その他

今後のカリキュラム開発会議の計画について

第４回　カリキュラム開発会議　記録

1　日　時

令和３年 11 月 18 日（木）　午後１時 40 分から２時 40 分まで

2　場　所

榛原高校応接室

3　出席者

カリキュラム開発アドバイザー　島田　桂吾（静岡大学教育学部）

校内推進委員（校長、副校長、山本純）

4　内　容　　＊説明内容　　○指導助言いただいたこと

(1) 第３回教育課程検討委員会（11 月９日）報告

ア　令和４年度２・３年生のクラス編成・科目選択について

＊（別紙資料で説明）２年のクラス編成は今年度と同じ。科目選択状況説明。

イ　タブレット PC 導入について

＊近隣中学校、先進校の視察報告。本校では、個人購入について運営委員会で検討したが、決定に至らず、情報担当等で原案を作成することにした。保護者への説明も必要なので早めに決定しなければならない。２月に県から Chromebook が配布される。

○掛川西高校の状況：個人がスマホで作業していた。静大生に聞いたところ、持ち運びのことを考えるとタブレットがよいのではないかという意見。スマホで入力している様子などを見ても、高校段階はキーボードにこだわらなくてもいいのかもしれない。２、３年生や保護者の意見を聞いてみたらどうか。大学生は（パソコン、タブレットなど）何かしら持っている、所持は必須と考えられる。

ウ　学習評価について

＊２学期各教科で試行予定

(2) 学校設定教科・科目について

ア　「地域創造探究Ⅰ」（１年生）について・２学期の実施状況、今後の計画

＊進捗状況を説明。まとめ、発表に向けてグループで探究活動を進めている。

イ　「地域創造探究Ⅱ」「発展地域創造探究」について

＊「地域創造探究Ⅱ」：次年度修学旅行は国内に決定。

「発展地域創造探究」：グローカル部を中心に選択者 23 人。海外研修を視野に実施の予定であるが現状は未定。オンライン交流など含め今後詳細を決定する。

ウ　家庭科「家庭基礎探究」について

＊進捗状況を説明。発表に向けてまとめの作業をしている。

○成果発表の場を持つことは大事である。

(3) 令和３年度のグローカル事業の実施について

ア　課外活動（国内研修）について

北海道研修（２年生）　12/22（水）～26（日）　12 人参加予定

南九州研修（１年生）　12/22（水）～25（土）　21 人参加予定

イ　今後の発表会、オンライン交流会等への参加について

＊英検の取得人数が増えている。成果と言える。

5　その他

ア　「スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）ネットワーク」への参加希望について

＊参加について現在検討している。グローバルに関して目標になるとは思っている。学校の特色にもなる。つながっておくことは大切と思っている。

○参加することで目標、やらなければいけないという意識ができるのではないか。発表の機会を持つことは教員にとっても指導を通して経験値をあげることになり、大事である。また、つながっておくことで、お金ではないソフト面の付加価値もあるのではないか。

イ　今後のカリキュラム開発会議の計画

＊２月３日（木）にグローカル事業報告会及び第２回運営指導委員会・コンソーシアム会議を予定している。当日の出席とその他あと２回程度、今年度のまとめ、来年度以降に向けた指導助言をお願いしたい。日程についてはあらためて相談する。

第５回　カリキュラム開発会議（予定）

1　日　時

令和４年３月 15 日（火）　午後３時から４時まで

2　場　所

榛原高校応接室（オンラインで実施）

3　出席者

カリキュラム開発アドバイザー　島田　桂吾（静岡大学教育学部）

校内推進委員（校長、副校長、鈴木美、山本純）

4　内　容

(1) 第４回教育課程検討委員会（２月 21 日）の報告

(2) 学校設定教科・科目の実施について

(3) 令和４年度グローカル教育活動の計画について

(4) その他

9　質問紙調査等結果（抜粋）

〇南九州研修アンケート結果　【生徒 20 人】

・評価基準：「１大変良かった　　２良かった　　３普通　　４あまり良くなかった　　５　良くなかった」
設問に対しては、事前に期待していた評価を３とし、それを基準として評価した。

・アンケート実施期間は令和４年１月 14 日から１月 20 日

1　ふじのくに茶の都ミュージアムでの研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	25.0	25.0
2	15	75.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

2　南九州市で研修（お茶についての講話）はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	7	35.0	35.0
2	11	55.0	90.0
3	2	10.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

3　平和学習（知覧特攻平和会館）はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	45.0	45.0
2	7	35.0	80.0
3	3	15.0	95.0
4	1	5.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

4　鹿児島の歴史遺産研修（知覧武家屋敷・仙厳園）はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	10	50.0	50.0
2	8	40.0	90.0
3	2	10.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

5　宮崎県新富町での研修（こゆ財団・おにぎり宮本）はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	30.0	30.0
2	12	60.0	90.0
3	2	10.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

6　宮崎の自然・観光についての研修（青島神社）はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	45.0	45.0
2	9	45.0	90.0
3	1	5.0	95.0
4	1	5.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

7　地域づくり・観光についての研修（宮崎空港）はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	4	20.0	20.0
2	11	55.0	75.0
3	4	20.0	95.0
4	1	5.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

8　自然体験（指宿温泉）は満足できるものでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	14	70.0	70.0
2	5	25.0	95.0
3	1	5.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

9　鹿児島・宮崎市内研修（夕方）は満足できるものでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	14	70.0	70.0
2	6	30.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

10　学校交流（宮崎大宮高校）との協働研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	15	75.0	75.0
2	5	25.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

11　大宮高校との宮崎市内フィールドワークはどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	15	75.0	75.0
2	5	25.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

12　ICTを活用した報告書作成等の研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	7	35.0	35.0
2	6	30.0	65.0
3	6	30.0	95.0
4	1	5.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

13　指宿、鹿児島、宮崎のホテルは満足できるものでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	13	65.0	65.0
2	7	35.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

14　静岡空港を利用した研修計画は満足できるものでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	13	65.0	65.0
2	5	25.0	90.0
3	2	10.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

15　HAFプロジェクト　南九州研修全体は満足できるものでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	15	75.0	75.0
2	5	25.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

16　ＨＡＦプロジェクト　南九州研修について、意見・感想を書いてください。
（感想、改善してほしいこと、今後取り入れてほしい研修など簡潔に記入してください）

・もっと講話がほしかった。特に戦争のことについて。
・訪問した場所の話の中にいくつか静岡県に関わっているものがあり、静岡県のことを南九州で聞くことができるとは思っていなかったので、驚きと同時に楽しく聞くことができました。／人気のある飲食店が自分たちが行こうとした時にはもう並んでいて入ることができなかったので夕食の時間を少し早めて欲しいです。（可能なら）
・お茶（農業）以外に静岡と鹿児島の比較が詳しくしてみたいと思った。
・宮崎の人とのＦＷがとても楽しかった。
・すべての自由時間をもう少し多くしてほしかったです。レポートや明日の支度などを行っている間に就寝時間をすぎてしまいました。
・普段交流のない学校の生徒さんと交流するのが新鮮で良い体験ができたと思う。／インターネットで調べるよりも実際にお話を聞く方がためになることもあると感じた。
・探究活動では牧之原市といった小規模な範囲で取り組んできましたが、県外へ出て、南九州といった大規模な範囲で取り組まれている様々なことを学ぶことができ、知ることもできたのでよかったです。自由行動の時間をもう少し多く取れれば各班での知りたいことをより多く見つけられると思います。
・初めての体験がたくさんできて、とても充実した研修になりました。特に、知覧特攻平和会館では、改めて平和の大切さ、ありがたさを感じられました。また、武家屋敷でも日本の昔の風景を直で感じられてよかったです。
・他校の生徒さんとのフィールドワークの時間をもっと増やしてほしかった。
・色々な方のお話を聞くことができ、自分の人生やこれからの探究など、改めて色々な事を考えてみるきっかけになった。特に宮崎大宮高校さんとの交流はとても心に残った。同じ高校生でも違った世界を生きているようで、刺激をもらうことができた。とても貴重な体験をすることができた。
・宮崎大宮高校の生徒さんたちとの交流は、考え方の違いや文化の違いを身をもって感じました。来年もこのような研修があったら参加したいです。
・他県の高校生徒のフィールドワークはただ歩くだけでも学びが多くあり、大変良い経験になった。
・とてもためになる研修でした。知覧特攻平和会館や宮崎大宮高校との交流する時間はもっととってほしかったです。
・鹿児島、宮崎についていろいろ知れてよかった。来年も行きたいと思った。
・講義はもう少し長くなっていいからより広く、詳しくしてほしい。
・事前の説明をもっと詳しくしてほしい。参加していない人がイメージしやすくなると思う。

○南九州研修アンケート結果　【保護者 20 人】

・評価基準：「１大変良かった　　２良かった　　３普通　　４あまり良くなかった　　５　良くなかった」
設問に対しては、事前に期待していた評価を３とし、それを基準として評価した。

・アンケート実施期間は令和４年１月 14 日から１月 20 日

1　事前研修（班別研修等）は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	14	70.0	70.0
2	6	30.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

2　事後研修（研修のまとめ等）は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	13	65.0	65.0
2	6	30.0	95.0
3	1	5.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

3　研修日程（3泊4日、4泊5日）は、お子様にとって適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	12	60.0	60.0
2	8	40.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

4　県外での講演等の研修は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	14	70.0	70.0
2	6	30.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

5　県外での、異文化体験（市内研修等）はお子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	15	75.0	75.0
2	5	25.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

6　研修に参加して、お子様は静岡と訪問先とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	30.0	30.0
2	10	50.0	80.0
3	3	15.0	95.0
4	1	5.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

7　すべての研修に参加して、お子様は、自分と訪問先とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	7	35.0	35.0
2	8	40.0	75.0
3	4	20.0	95.0
4	1	5.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

8　研修に参加して、お子様は、立場が異なる他者の意見を尊重することができるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	30.0	30.0
2	7	35.0	65.0
3	7	35.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

9　研修に参加して、お子様は、実社会と自分とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	30.0	30.0
2	9	45.0	75.0
3	5	25.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

10　帰宅後、様々な場面でお子様の変化や成長を感じられた。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	25.0	25.0
2	10	50.0	75.0
3	5	25.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

11　研修費用（現地でのバス代等は文科省事業費より支出）は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	30.0	30.0
2	10	50.0	80.0
3	3	15.0	95.0
4	1	5.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

12　本年度の国内研修の募集人数は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	7	35.0	35.0
2	10	50.0	85.0
3	3	15.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

13　実施期間（12月末）は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	7	35.0	35.0
2	9	45.0	80.0
3	4	20.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

14　国内研修（1年：南九州 2年：北海道）は、生徒にとって意義ある事業であると感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	15	75.0	75.0
2	5	25.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

15　国内研修（南九州、北海道）は、来年度の生徒も参加するほうが良い取組みだと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	12	60.0	60.0
2	7	35.0	95.0
3	1	5.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	20	100.0	

16　この研修を通じ、お子様にどのような変化（成長）がありましたでしょうか？感想、御意見等がありましたら自由に御記入ください。

・コロナ禍の中、このような機会があったことは貴重だったと思う。中学の修学旅行も中止となり、国内移動も厳しい中、他県のよさ、静岡のよさ、再確認できたと思われる。ぜひ来年度も計画していただきたい。
・研修を通じて、静岡のよさ、他県との違いを実感したようだった。帰宅後の研修報告作成の御指導ありがとうございました。
・九州の事を色々説明してくれたり、名産品のおみやげをたくさん買って持ち帰り、どのような物なのか説明してくれました。行った事のない土地を行く前に調べて学び実際に行って見て学ぶ。帰った後も忘れないように記録するという流れを学ぶことを楽しむ事を体験し、貴重な経験になったと思う。
・いつも通る風景と研修地での風景（山の形、建物の形、農作物）の違いを肌で感じたようで、くわしく話してくれました。又、言葉の違いや様々な体験が全て新鮮であり貴重だったようです。コロナで様々な規制がある中、計画してくださりありがとうございました。
・発言の積極性や他の意見を尊重する姿勢に対して成長があるように感じます。これからもたくさんコミュニケーションをとること、いろいろな考え方に接する機会を自分でも作って成長してほしいと考えます。
・家庭では行けないような所へ行き、静岡との違い、特攻隊のことなど学んできたようです。まだコロナ禍ということで心配はありましたが、結果的には良い時期に行けて良かったと思います（天候にも恵まれ）

○北海道研修アンケート結果　【生徒 12 人】

・評価基準：「１大変良かった　　２良かった　　３普通　　４あまり良くなかった　　５　良くなかった」
設問に対しては、事前に期待していた評価を３とし、それを基準として評価した。

・アンケート実施期間は令和４年１月 14 日から１月 20 日

1　カンディハウスでの研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	10	83.3	83.3
2	0	0.0	83.3
3	2	16.7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

2　ヤマザキ旭川工場での研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	10	83.3	83.3
2	2	16.7	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

3　グリーンテックスの研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	1	8.3	8.3
2	2	16.7	25.0
3	4	33.3	58.3
4	5	41.7	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

4　旭山動物園での研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	75.0	75.0
2	3	25.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

5　榛原高校卒業生講話はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	50.0	50.0
2	5	41.7	91.7
3	1	8.3	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

6　市立札幌開成中等教育学校の学校訪問はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	66.7	66.7
2	4	33.3	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

7　ウポポイでの研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	50.0	50.0
2	5	41.7	91.7
3	1	8.3	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

8　北海道大学の鈴木先生の講話・留学生の講話はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	66.7	66.7
2	2	16.7	83.4
3	2	16.7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

9　北海道大学の研究所や大学施設の見学はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	66.7	66.7
2	3	25.0	91.7
3	1	8.3	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

10　北海道大学での開成中等教育学校との交流はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	66.7	66.7
2	3	25.0	91.7
3	1	8.3	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

11　小樽市内研修は満足できるものでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	75.0	75.0
2	3	25.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

12　GoogleClassroomを活用した研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	41.7	41.7
2	5	41.7	83.4
3	2	16.7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

13　旭川、登別、小樽のホテルは満足できるものでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	75.0	75.0
2	3	25.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

14　静岡空港を利用した研修計画は満足できるものでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	10	83.3	83.3
2	2	16.7	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

15　HAFプロジェクト　北海道研修全体は満足できるものでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	75.0	75.0
2	3	25.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

16　ＨＡＦプロジェクト　南九州研修について、意見・感想を書いてください。
（感想、改善してほしいこと、今後取り入れてほしい研修など簡潔に記入してください）

・研修に参加し、勉強への意欲が高まったと共に、学校では学ぶことができない学びを経験的にすることができて良かった。
・修学旅行よりも自主性がある研修でした。
・普段の学校生活では絶対にできない交流や体験ができて良かったです。
・北海道研修は全体を通してとてもよい経験になりましたし、とても楽しかったです。いろいろな所に行けて楽しかったですが、移動はやっぱり長く感じました。でも、自由時間も多く、現地の人と交流もできたのがよかったです！
・高校生になってから工場などを見学する機会がなかったので色々なことに対して考えを深めることができてよかった。
・北海道でしかできないことができてよかった。
・修学旅行とは違う楽しさがあったし、様々なことが学べたのでよかったです。
・ＪＴＢの方が女性だったので気が楽だった。南九州の時に女性の大人がいなくこまることがあった。
・訪問する場所が少なくなっても良いので、もっと余裕のある行程にしてほしかったです。
・他校との交流時間がもう少し長かったらよかった。

○北海道研修アンケート結果　【保護者 12 人】

・評価基準：「１大変良かった　　２良かった　　３普通　　４あまり良くなかった　　５　良くなかった」
設問に対しては、事前に期待していた評価を３とし、それを基準として評価した。

・アンケート実施期間は令和４年１月 14 日から１月 20 日

1　事前研修（班別研修等）は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	4	33.3	33.3
2	6	50.0	83.3
3	2	16.7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

2　事後研修（研修のまとめ等）は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	3	25.0	25.0
2	7	58.3	83.3
3	2	16.7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

3　研修日程（3泊4日、4泊5日）は、お子様にとって適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	75.0	75.0
2	1	8.3	83.3
3	2	16.7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

4　県外での講演等の研修は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	11	91.7	91.7
2	1	8.3	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

5　県外での、異文化体験（市内研修等）はお子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	10	83.3	83.3
2	2	16.7	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

6　研修に参加して、お子様は静岡と訪問先とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	41.7	41.7
2	5	41.7	83.4
3	2	16.7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

7　すべての研修に参加して、お子様は、自分と訪問先とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	4	33.3	33.3
2	5	41.7	75.0
3	3	25.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

8　研修に参加して、お子様は、立場が異なる他者の意見を尊重することができるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	41.7	41.7
2	4	33.3	75.0
3	3	25.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

9　研修に参加して、お子様は、実社会と自分とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	50.0	50.0
2	4	33.3	83.3
3	1	8.3	91.6
4	1	8.3	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

10　帰宅後、様々な場面でお子様の変化や成長を感じられた。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	3	25.0	25.0
2	7	58.3	83.3
3	0	0.0	83.3
4	2	16.7	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

11　研修費用（現地でのバス代等は文科省事業費より支出）は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	66.7	66.7
2	3	25.0	91.7
3	1	8.3	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

12　本年度の国内研修の募集人数は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	41.7	41.7
2	6	50.0	91.7
3	1	8.3	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

13　実施期間（12月末）は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	2	16.7	16.7
2	4	33.3	50.0
3	4	33.3	83.3
4	2	16.7	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

14　国内研修（1年：南九州 2年：北海道）は、生徒にとって意義ある事業であると感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	10	83.3	83.3
2	1	8.3	91.6
3	1	8.3	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

15　国内研修（南九州、北海道）は、来年度の生徒も参加するほうが良い取組みだと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	75.0	75.0
2	2	16.7	91.7
3	1	8.3	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

16　この研修を通じ、お子様にどのような変化（成長）がありましたでしょうか？感想、御意見等がありましたら自由に御記入ください。

・季節的には厳しい寒さと修学旅行後であったため、参加に迷ったが、結果的に本人が「行って良かった」と改めて感謝の言葉と共に満足した表情を見て、有意義な時間を過ごせた事が伝わってきました。この年齢で知る世界には限りがあり、親が機会を与えてあげられるばかりではない為、企画してくださった学校や研修先の皆様には感謝しています。子供がこの経験をしっかりと自分の糧にして成長していってくれると信じています。コロナ等で大変な中、研修を実施して頂き、ありがとうございました。
・高校生との交流にとても刺激を受けていました。コロナ禍で制限もある中、研修に行けたことはとても良かったです。外の世界をもっと見る機会があるといいと思います。
・目に見える大きな変化（成長）はありませんが、今回の研修では学校の授業だけでは学べないような貴重な経験ができたことによりこれからの生活に向けてちょっとした意識の変化や学習意欲の向上が感じられます。２度の延期を経ての研修でしたが、先生方はじめ、多くの方々にご尽力いただいたことに感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。ありがとうございました。
・異文化に触れる事で視野も広がり、進路や将来に向けて幅広い考えや臨機応変な行動、進んで考えたり行動できる意識が少し芽生えました。参加して本当に良かったと思います。
・気になったことを言語化し、相手につたえ、仲間と実践できる形で積極的な行動が見られるようになりました。大きな成長だと感じている。

令和４年３月 31 日

静岡県立榛原高等学校　ＨＡＦプロジェクト（HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT）
静岡県立榛原高等学校ＨＡＦ委員会／研修課

〒421-0422　静岡県牧之原市静波 850
電話　0548(22)0380
ＦＡＸ　0548(22)6557